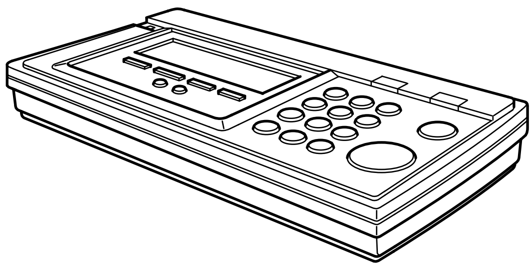
RICOH

IPSiO SCAN BOX TYPE X1

使用説明書



安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず「安全上のご注意」をお読みください。

■ はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

株式会社リコー

■ 複製、印刷が禁止されているもの

- 本機を使って、何を複製、印刷してもよいとは限りません。法律により罰せられることもありますので、ご注意ください。
- 1. 複製、印刷することが禁止されているもの
- （見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。）

* 紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
* 日本や外国の郵便切手、印紙

☛（関係法律）
  - 紙幣類似証券取締法
  - 通貨及証券模造取締法
  - 郵便切手類模造等取締法
  - 印紙等模造取締法
  - （刑法 第１４８条 第１６２条）
- 2. 不正に複製、印刷することが禁止されているもの

* 外国の紙幣、貨幣、銀行券
* 株券、手形、小切手などの有価証券
* 国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
* 個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画

☛（関係法律）
  - 刑法 第１４９条 第１５５条 第１５９条 第１６２条
  - 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律
- 3. 著作権法で保護されているもの

* 著作権法により保護されている著作物（書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真など）を複製、印刷することは、個人または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用する目的で複製、印刷する場合を除き、禁止されています。

目次

4. メールで送信する

5. 共有フォルダーにファイル送信する

6. FTPサーバーにファイル送信する

7. Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用して配信する

8. 付録

安全上のご注意

表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

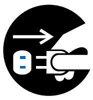
表示の例



△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
⃠の中に具体的な禁止内容が描かれています。
（左図の場合は、“分解禁止”を表します）



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
●の中に具体的な指示内容が描かれています。
（左図の場合は、“電源プラグをコンセントから抜くこと”を表します）

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠警告

- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災や感電の原因になります。
- 延長コードの使用は避けてください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、束ねたり、加工しないでください。また、重い物を載せたり、引っぱったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災や感電の原因になります。

- この機械の上に花瓶、植木鉢、コップ、水などの入った容器または金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災や感電の原因になります。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。

- 機械は電源コンセントにできるだけ近い位置に設置し、異常時に電源プラグを容易に外せるようにしてください。

- 本書で指定している部分以外のカバーやねじは外さないでください。機械内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。機械内部の点検・調整・修理はサービス実施店に依頼してください。
- この機械を改造しないでください。火災や感電の原因になります。

- 万一、煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常状態が見られる場合は、すぐに電源スイッチ（機種によっては主電源スイッチを含みます）を切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてサービス実施店に連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。
- 万一、金属、水、液体などの異物が機械内部に入った場合は、まず電源スイッチ（機種によっては主電源スイッチを含みます）を切り、電源プラグをコンセントから抜いてサービス実施店に連絡してください。そのまま使用すると火災や感電の原因になります。

- 必ず付属のACアダプターをご利用ください。付属以外のACアダプターでは、火災・感電・故障の原因になります。

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠注意

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災や感電の原因になります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。

- 機械を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

- 連休等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱらないでください。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

- 電源プラグは年に１回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分を清掃してください。ほこりがたまると、火災の原因になります。

使用上のお願い

- 部品は、リコー指定の製品により安全性を評価しています。安全にご使用いただくため、リコー指定の交換部品をご使用ください。部品の交換はサービス実施店に相談してください。
- 寒い所から暖かい所に移動すると、機械内部に結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、１時間以上放置して環境になじませてからご使用ください。
- 本機内部の温度が上昇すると、故障の原因になります。物を置いたり、立て掛けたりして排気口や吸気口をふさがないようにしてください。
- 通気口などでは排気により暖かいと感じることがありますが、異常ではありません。
- クリップなどの異物が本機の中に入らないようにしてください。
- 原稿読み取り中に電源を切ったり、電源コードを抜かないでください。
- 日本国外へ移動された場合は、保守サービスの責任を負いかねますのでご了承ください。

この本の読みかた

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。冒頭にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。冒頭にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

※以上は、安全上のご注意についての説明です。

重要

誤って操作をすると、紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になることがあります。必ず、お読みください。

操作の前に

操作をする前に知っておいていただきたいこと、あらかじめ準備していただきたいことなどを説明しています。

補足

操作するときに気を付けることや、操作を誤ったときの対処方法などを説明しています。

制限

数値の制限や組み合わせできない機能、機能が使用できない状態を説明しています。

参照

参照先を示します。

[　]

画面のキーの名称を示します。

【　】

操作部（画面を除く）のキーの名称を示します。

略称・総称について

次の製品（ソフトウェア）については、総称を使用しています。

製品名	総称
Ridoc Document Router Pro [*1] とRidoc Document Router [*1] およびRidoc Document Router Lt	Ridoc Document Router/Pro/Lt
Ridoc Desk 2000 [*1] とRidoc Desk 2000 Lt	Ridoc Desk 2000/Lt

*1　**別売になります。**

同梱品をご確認ください

同梱品を確認してください。
不足品や不具合があった場合には、サービス実施店までご連絡ください。

- □ 本機
- □ 使用説明書（本書）
- □ 連結スキャナー別機能差異表
- □ 「スキャナードライバー &ユーティリティー」CD-ROM
- □ ACアダプター
- □ 電源コード
- □ サポートパック契約書
- □ リコー製品サービス窓口一覧
- □ マイバンク Q&A登録票
- □ お客様アンケートはがき
- □ ISDN注意書き
- □ IPSiOコールセンターシール

1. IPSiOSCAN BOXについて

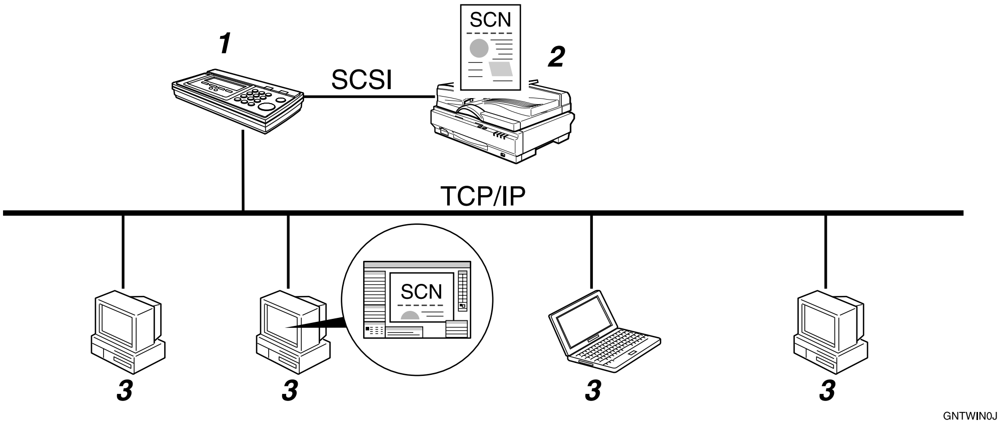
ここでは、IPSiOSCAN BOXタイプX1（以下IPSiOSCAN BOXと略記）を使用することによってスキャナーの利用形態がどのように広がるのか、また、IPSiOSCAN BOXの各部の名称など、はじめに知っていただきたいことを説明します。

IPSiOSCAN BOXを使うとできること

ネットワークTWAINスキャナーとして共有する

本機に接続したスキャナーを、同一LAN上のPCから、PCに直接接続されたTWAIN対応スキャナーと同じように使用できます。

1台のスキャナーを複数のクライアントPCで共有できるため、スキャナー専用PCを用意したり、使用するPCごとにスキャナーを接続しなおすなどの手間がいりません。



1. **本機（IPSiOSCAN BOX）**
   100BASE-TXまたは10BASE-Tケーブルでネットワーク（TCP/IP）に接続します。オプションの無線LANカードで接続することもできます。
2. **スキャナー**
   本機とSCSIケーブルで接続します。
3. **クライアントPC**
   ネットワークTWAINドライバーをインストールします。TWAIN対応アプリケーションから、スキャナーを使用できます。

処理の流れ

1 **「3.クライアントPC」のTWAIN対応アプリケーションの中から、ネットワークTWAINドライバーを介して、読み取りの指示をします。**

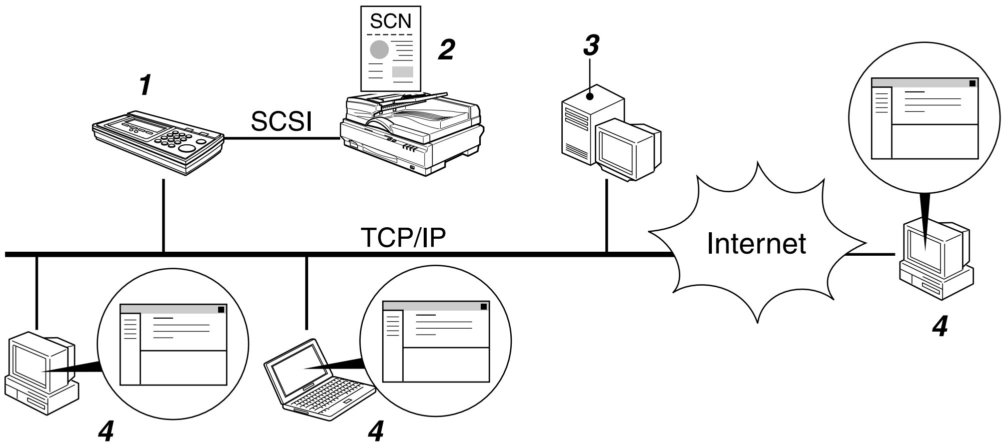
2 **「1.本機（IPSiOSCAN BOX）」を介して、原稿が「2.スキャナー」から読み取られます。**

3 **読み取った画像データは、「3.クライアントPC」のTWAIN対応アプリケーションの中で加工し、保存します。**

1

メールの添付ファイルで送信する

メールアドレスをあて先として本機に登録することにより、スキャナーで読み取った画像が添付ファイルになったメールを、本機から直接、送信できます。



GNMAIL0J

1. **本機**（IPSiOSCAN BOX）

100BASE-TXまたは10BASE-Tケーブルでネットワーク（TCP/IP）に接続します。オプションの無線LAN カードで接続することもできます。

2. **スキャナー**

本機とSCSIケーブルで接続します。

3. SMTP**サーバー**

SMTPプロトコルの電子メール送信サーバーです。SMTPサーバーは必ずしも同一LAN上に存在する必要がありません。SMTPの電子メールが使える環境であれば利用できます。

4. **メールクライアント**

電子メールソフト（Outlookなど）から、画像ファイルの添付されたメールを受信します。

処理の流れ

1 **「1.本機（IPSiOSCAN BOX）」の操作部から、あて先や件名、読取条件の指示をします。**

2 **原稿が「2.スキャナー」から読み取られます。**

3 **読み取られた画像ファイルを添付ファイルとするメールが、「1.本機（IPSiOSCAN BOX）」から「3.SMTPサーバー」に送信されます。**

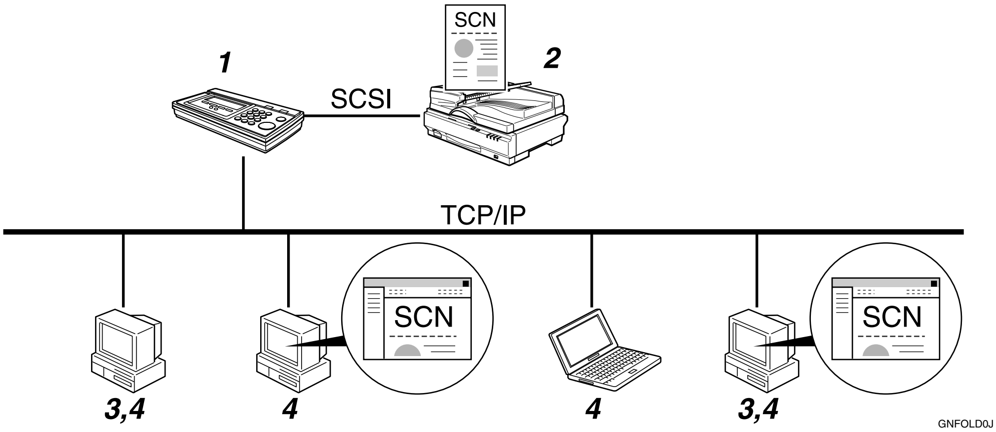
4 **「3.SMTPサーバー」から、各あて先の電子メール受信サーバーにメールが送信され、「4.メールクライアント」で受信できます。**

共有フォルダーにファイル送信する

同一ネットワーク上のPC等のWindows共有フォルダーをあて先として本機に登録することにより、スキャナーで読み取った画像ファイルを、その共有フォルダーに送信・保存できます。

補足

❒ 共有フォルダーへのファイル送信は、本機の操作画面では、「ファイル送信：SMB」と表記されています。SMBは、Windowsで採用されているファイルやプリンターの共有サービスのためのプロトコルです。



1. **本機（IPSiOSCAN BOX）**
   100BASE-TXまたは10BASE-Tケーブルでネットワーク（TCP/IP）に接続します。オプションの無線LAN カードで接続することもできます。
2. **スキャナー**
   本機とSCSIケーブルで接続します。
3. **共有フォルダーを持つコンピューター**
   あらかじめ共有フォルダーを作成しておきます。共有フォルダーに読み取った画像ファイルが保存されます。
4. **クライアントPC**
   送信の指示を行ったり、共有フォルダーに保存された画像ファイルを閲覧します。送信指示を行う場合は、Webブラウザー（IE）が必要です。

処理の流れ

1 **「1.本機（IPSiOSCAN BOX）」または「4.クライアントPC」から、保存する共有フォルダーやファイル名、読取条件の指示をします。**

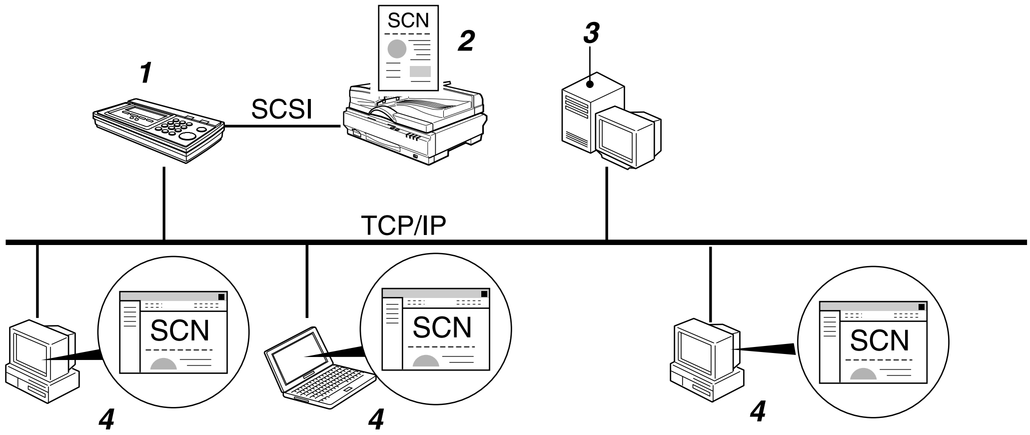
2 **原稿が「2.スキャナー」から読み取られます。**

3 **読み取られた画像ファイルは、指定された「3.共有フォルダー」に送信され、保存されます。**

4 **保存された画像ファイルは、適時、「4.クライアントPC」から利用できます。**

FTPサーバーにファイル送信する

FTPサーバーをあて先として本機に登録することにより､スキャナーで読み取った画像ファイルを､そのFTPサーバーに、送信・保存できます。



1. **本機（**IPSiOSCAN BOX**）**
   100BASE-TXまたは10BASE-Tケーブルでネットワーク（TCP/IP）に接続します。オプションの無線LAN カードで接続することもできます。

2. **スキャナー**
   本機とSCSIケーブルで接続します。

3. FTP**サーバー**
   読み取った画像ファイルが保存されます。同一LAN/WAN上のFTPサーバーが利用できます。（プロキシサーバー経由でのアクセスはできません。）

4. **クライアント**PC
   FTP サーバーに保存された画像ファイルを閲覧します。FTPサーバーに接続するためには、FTPクライアントツールが必要です。

処理の流れ

1 **「1.本機（IPSiOSCAN BOX）」の操作部から、保存するFTPサーバーやファイル名、読取条件の指示をします。**

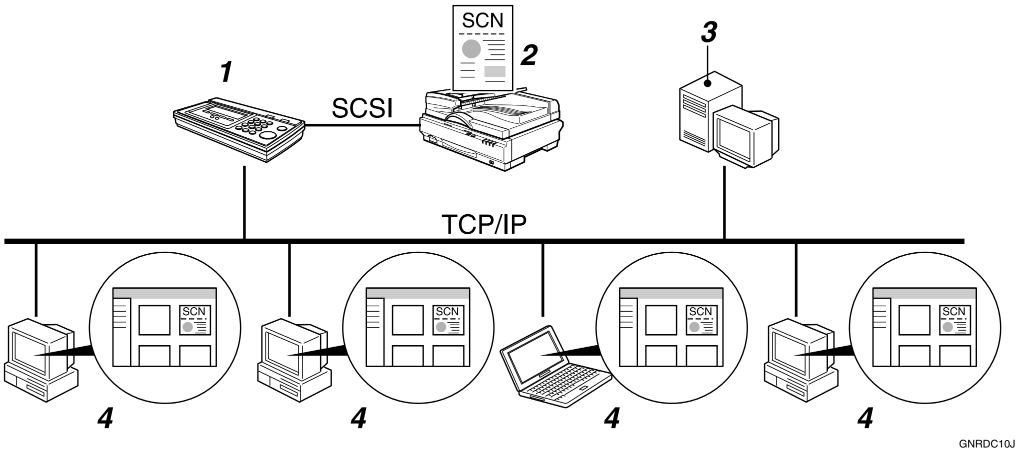
2 **原稿が「2.スキャナー」から読み取られます。**

3 **読み取られた画像ファイルは、指定された「3.FTPサーバー」に送信され、保存されます。**

4 **保存された画像ファイルは、適時、「4.クライアントPC」から利用できます。**

Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用した配信をする

スキャナーで読み取った画像ファイルを、Ridoc Document Router/Pro/Ltの最新のアドレス帳を使って配信できます。



1. **本機（IPSiOSCAN BOX）**
   100BASE-TXまたは10BASE-Tケーブルでネットワーク（TCP/IP）に接続します。オプションの無線LAN カードで接続することもできます。なお、同梱のRidoc Document Router Ltを利用した場合は、本機を2台まで接続できます。
2. **スキャナー**
   本機とSCSIケーブルで接続します。
3. **配信サーバー**
   Ridoc Document Router/Pro/LtをインストールしたRidoc Document System用の配信サーバーです。個人あて、フォルダーあて、メールアドレスあて、それらを1まとめにしたグループあてのアドレス帳と､そのあて先別の文書ファイルを保存・管理しています。
4. **クライアントPC**
   配信サーバーに保存された画像ファイルを、Ridoc Desk 2000/Ltを使って閲覧します。また、必要な文書をクライアントPC のハードディスク等に保存することも可能です。

処理の流れ

1 **「1.本機（IPSiOSCAN BOX）」の操作部から、あて先や読取条件の指示をします。**

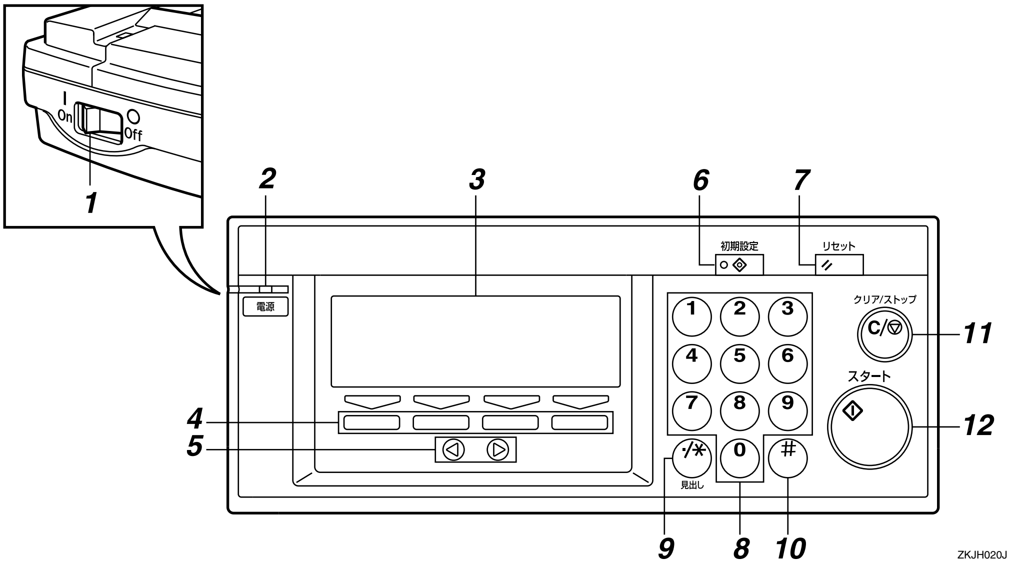
2 **原稿が「2.スキャナー」から読み取られます。**

3 **読み取られた画像ファイルは、「3.配信サーバー」に送信され、保存されます。**

4 **「3.配信サーバー」は、配信があったことをあて先に指定された相手に通知したり、ローカルハードディスクに保存する等の処理を設定に従って行います。**

5 **「4.クライアントPC」は、適時、Ridoc Desk 2000/Ltを使って閲覧・利用できます。**

各部の名称



1. **電源スイッチ**
本機の電源をON/OFFします。

2. **電源インジケーター**
電源オン時、緑色に点灯します。

3. **画面**
設定項目や内容などが表示されます。

4. **ファンクションキー**
画面に表示された項目を選ぶときに使います。P.16「画面に表示されるキーなどの選びかた」を参照してください。

5. **移動キー**
画面で現在選択されている項目の次の項目、または前の項目を選択するときに使います。

6. **【初期設定】キー**
ネットワークの設定やスキャナーシステム全般の設定、読取条件の初期設定を行うときに使います。

7. **【リセット】キー**
電源投入時の画面に戻すときに使います。

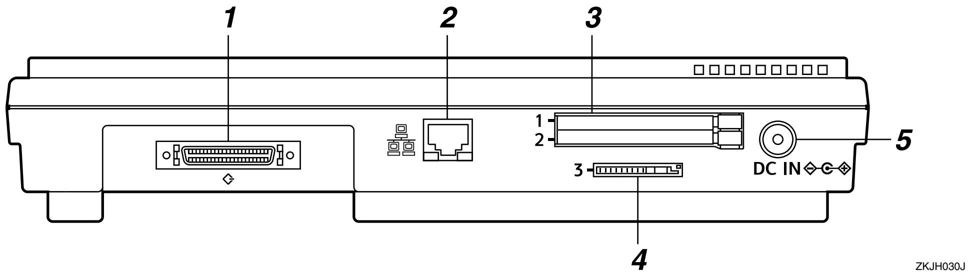
8. **テンキー**
数字の入力に使います。

9. **【./✱】（見出し）キー**
あて先や送信者の見出し検索時に使います。

10. **【#】キー**
各種IPアドレス入力時に使用します。3桁ずつ右に移動できます。

11. **【クリア/ストップ】キー**
入力した項目内容をクリアしたいときや、読み取りを中止したいときに使います。

12. **【スタート】キー**
スキャナーの読み取りを開始するときに使います。



1. **SCSIコネクター**

SCSIケーブルをつないで、スキャナーと接続します。

2. **ネットワーク用インターフェース**

ネットワーク(Ethernet)ケーブルを差し込むコネクターです。

3. **PCカードスロット**

PCカードTypeⅡが2基装備されていて、そのいずれかのスロットにオプションの無線LANカードを装着できます。

4. **SDカードスロット**

カスタマーエンジニアがメンテナンス時に使用します。

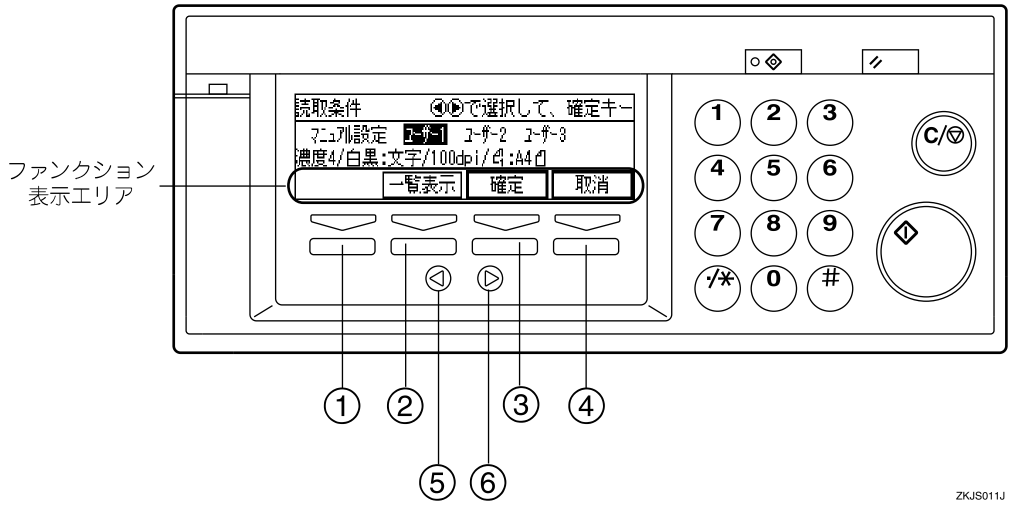
5. **電源コネクター**

電源コードを接続します。

画面に表示されるキーなどの選びかた

本機の画面は、タッチパネルではありません。画面に表示されるキーや項目などは、ファンクションキーと移動キー（【▷】や【◁】キー）を使って選びます。

例



ファンクション表示エリアに表示されている項目の下のファンクションキーを押すと、その項目が選べます。

- ［一覧表示］を選ぶときは、②を押します。
- ［確定］を選ぶときは、③を押します。
- ［取消］を選ぶときは、④を押します。
- （この画面例の場合、①は使用しません。）

現在、選択されている項目は、反転表示されています。選択項目の移動には、【◁】または【▷】キーを使います。

- ［マニュアル設定］を選択するときは、⑤を押します。
- ［ユーザー 2］を選択するときは、⑥を1回押します。
- ［ユーザー 3］を選択するときは、⑥を2回押します。

機能選択と待機画面

本機では、Ridoc配信（⇒ P.13 「Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用した配信をする」）、メール送信（⇒ P.10「メールの添付ファイルで送信する」）、SMBファイル送信（⇒ P.11「共有フォルダーにファイル送信する」）、FTPファイル送信（⇒ P.12 「FTPサーバーにファイル送信する」）、ネットワークTWAIN（⇒ P.9「ネットワークTWAINスキャナーとして共有する」）の各機能を同時に使うことはできません。使用する機能をあらかじめ設定して利用します。

❖ **Ridoc配信/TWAIN**

Ridoc配信とネットワークTWAIN機能が利用できます。
メール送信、ファイル送信（SMB）、ファイル送信（FTP）はできません。

❖ **ファイル送信/TWAIN**

メール送信、ファイル送信（SMB）、ファイル送信（FTP）と、ネットワークTWAIN機能が利用できます。
Ridoc配信はできません。

❖ **TWAIN**

ネットワークTWAIN機能が利用できます。
Ridoc配信、メール送信、ファイル送信（SMB）、ファイル送信（FTP）はできません。

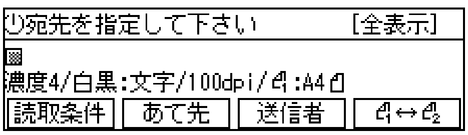
また、［送信/TWAIN優先設定］によって電源投入時の待機画面が異なります。

		送信/TWAIN優先設定	
		送信	TWAIN
機能選択	Ridoc配信/TWAIN	Ridoc配信待機画面	ネットワークTWAIN待機画面
	ファイル送信/TWAIN	メール/ファイル送信待機画面	ネットワークTWAIN待機画面
	TWAIN	—	ネットワークTWAIN専用待機画面

参照

設定のしかたについては、⇒ P.38「スキャナーシステム全般の設定をする」を参照してください。

Ridoc配信待機画面

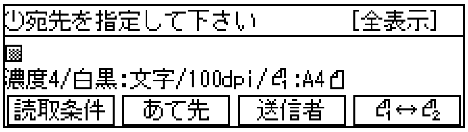


［あて先］を押すと、Ridoc Document Router/Pro/Ltのアドレス帳を利用した配信ができます。また、本機およびクライアントPCのWebブラウザーから各種設定ができます。

このモードからは、クライアントPCのWebブラウザーから任意ファイル送信はできますが、本機の操作部からのメール送信機能、ファイル送信（SMBおよびFTP）機能は利用できません。

クライアントPCのTWAIN対応アプリケーションからネットワークTWAINドライバーを起動すると、「ネットワークTWAIN待機画面」に入り、使い終わると「Ridoc配信待機画面」に戻ります。

メール/ファイル送信待機画面

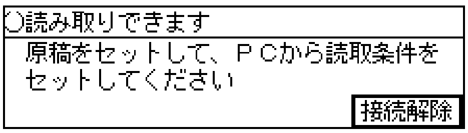


［あて先］を押すと、メール送信とファイル送信（SMBおよびFTP）ができます。また、クライアントPCのWebブラウザーから任意ファイル送信、本機およびクライアントPCのWebブラウザーから各種設定ができます。

このモードからは、配信サーバーを利用したRidoc配信はできません。

クライアントPCのTWAIN対応アプリケーションからネットワークTWAINドライバーを起動すると、「ネットワークTWAIN待機画面」に入り、使い終わると「メール/ファイル送信待機画面」に戻ります。

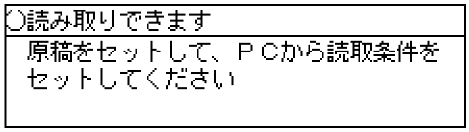
ネットワークTWAIN待機画面



クライアントPCのTWAINアプリケーションからネットワークTWAINドライバーを起動して、連結スキャナーをTWAINスキャナーとして利用できます。また、本機およびクライアントPCのWebブラウザーから各種設定ができます。

［機能選択］で、「Ridoc配信/TWAIN」が設定されているときに［接続解除］を押すと、「Ridoc配信待機画面」になります。「ファイル送信/TWAIN」が設定されているときに、［接続解除］を押すと「メール/ファイル送信待機画面」になります。

ネットワークTWAIN専用待機画面



クライアントPCのTWAINアプリケーションからネットワークTWAINドライバーを起動して、連結スキャナーをTWAINスキャナーとして利用できます。また、本機およびクライアントPCのWebブラウザーから各種設定ができます。

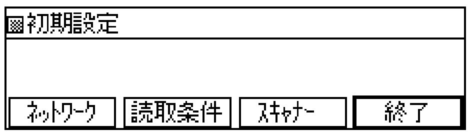
Ridoc配信、メール送信、ファイル送信（SMBおよびFTP）、Webブラウザーからの任意ファイル送信の各機能は利用できません。

初期設定画面

【初期設定】キーを押すと、ネットワークや本スキャナーシステム全般の設定や、読取条件の登録が行えます。

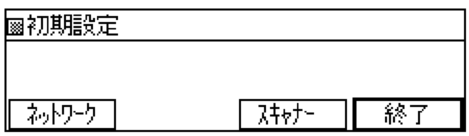
Ridoc配信/ファイル送信設定時

機能選択で「Ridoc配信/TWAIN」または「ファイル送信/TWAIN」を選択している状態で、**【初期設定】**キーを押したときの画面です。



ネットワークTWAIN機能のみの設定時

機能選択で「TWAIN」を選択している状態で、**【初期設定】**キーを押したときの画面です。読取条件は、クライアントPCのアプリケーションからネットワークTWAINドライバーを起動して設定します。



2. 設置と設定

ここでは、本機を使用する前の準備作業である、本機の設置と、各種の設定について説明します。

IPSiOSCAN BOXを設置する

設置環境を確認する

⚠警告

- 機械は電源コンセントにできるだけ近い位置に設置し、異常時に電源プラグを容易に外せるようにしてください。

⚠注意

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災や感電の原因になります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。

❖ **設置場所**

水平でがたつきがなく、振動のない場所を選んで設置してください。

❖ **設置環境**

重要

❒ 故障の原因になりますので、次のような場所に置かないでください。

- 直射日光の当たるところ
- エアコンや暖房機などの温風・ふく射熱が直接当たるところ
- ラジオ・テレビなど、他のエレクトロニクス機器に近いところ
- 高温、高湿、低温、低湿になるところ
- 加湿器の近く

温度が10〜35℃、湿度が20〜85%の範囲におさまる場所に設置してください。

重要

❒ 寒い所から暖かい所に移動すると、機械内部に結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、1時間以上放置して環境になじませてからご使用ください。

スキャナーと接続する

本機とスキャナーをSCSIケーブル（別売）で接続します。

補足

❒ SCSI ケーブルは指定のケーブルをご使用ください。指定ケーブルは、連結スキャナーをご確認のうえ、サービス実施店にお問い合わせください。

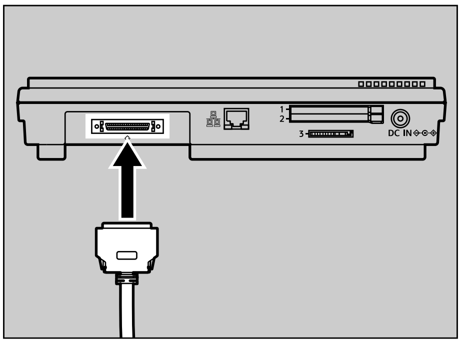
1 **接続するスキャナーのSCSI IDを0〜6のいずれかにします。**

補足

❒ IPSiOSCAN BOX側ではSCSI IDを変更できません。IPSiOSCAN BOXのSCSI IDは7に固定です。

❒ 接続するスキャナーのSCSI IDの変更のしかたについては、接続スキャナーの取扱説明書をご覧ください。

2 **SCSI ケーブルを本機の SCSI コネクターに差し込みます。**



ZKJH050J

3 SCSI ケーブルのもう一方を、スキャナーのSCSIコネクターに差し込みます。

ネットワークに接続する

本機をネットワークケーブルを使ってネットワークに接続する手順について、説明します。

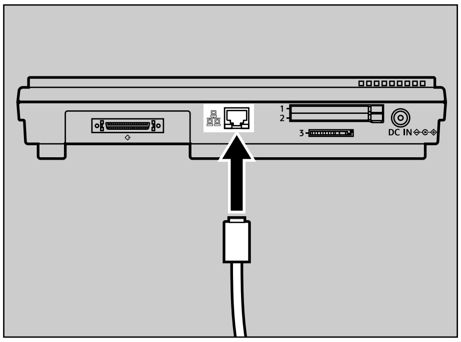
参照

オプションの無線 LAN カードを使用する場合は、⇒ P.110「無線LANの設定をする」を参照してください。

重要

- ❒ 本機とネットワークは、10BASE-Tまたは100BASE-TX ネットワークケーブルを使って接続してください。なお、100BASE-TX ネットワークケーブルでネットワークに接続する場合は、カテゴリー5の製品を使用してください。

1 ネットワーク用インターフェースにケーブルを接続します。



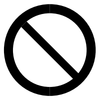
ZKJH060J

2 ケーブルのもう一方のコネクターを、ハブ（Hub）などのネットワーク機器に接続します。

電源コードを接続する

本機に電源コードを接続する手順について説明します。

⚠警告



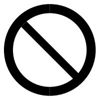
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災や感電の原因になります。
- 延長コードの使用は避けてください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、束ねたり、加工しないでください。また、重い物を載せたり、引っぱったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災や感電の原因になります。

⚠警告



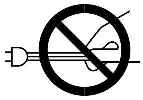
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。

⚠警告



- 必ず付属のACアダプターをご利用ください。付属以外のACアダプターでは、火災・感電・故障の原因になります。

⚠注意

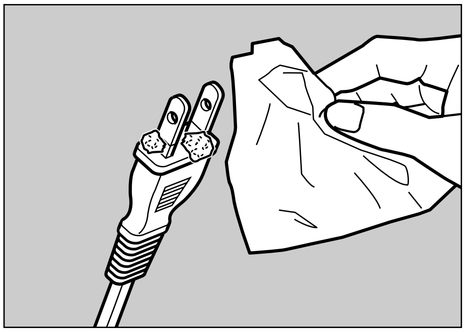


- 電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱらないでください。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

⚠注意



- 電源プラグは年に１回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分を清掃してください。ほこりがたまると、火災の原因になります。

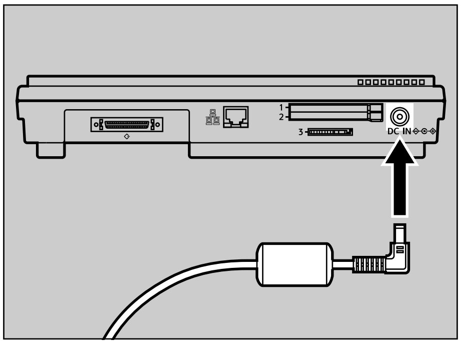


ZKJD010J

1 **電源スイッチが切れていることを確認します。**

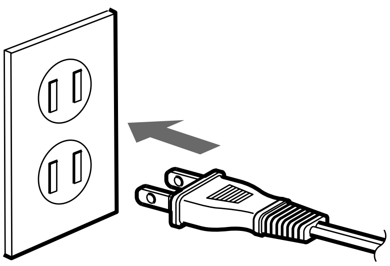
2 **ACアダプターと、電源コードを接続します。**

3 **ACアダプターの端子を本機の電源コネクターに奥までしっかり差し込みます。**



ZKJH070J

4 **電源プラグをコンセントに差し込みます。**



ZKJD020J

電源コードの接続が完了し、通電すると、ACアダプター部のLEDが緑色に点灯します。

電源ONのしかた

本システムの電源を入れるときは、次の順番で行ってください。

1 **接続したスキャナーの電源をONにします。**

2 **本機の電源をONにします。**

電源OFFのしかた

電源を切るときは、スキャナー/本機のどちらを先にOFFしてもかまいません。順番はありません。

設定の流れ

ここでは、本機の各機能を使用するために必要な設定項目と、設定手順の概要について説明します。

設定項目一覧

本機の設定項目と工場出荷時の値は以下のとおりです。各設定項目の意味と設定のしかたについては、P.33「ネットワークで使用するための設定をする」～ P.50「Webブラウザーを使って設定する」、およびWebステータスモニターのヘルプを参照してください。

重要

- ❒ 目的欄の「Ridoc」は、Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用したRidoc配信機能を利用するときに関係する設定項目かどうかを示します。
- ❒ 目的欄の「Mail」は、メール送信機能を利用するときに関係する設定項目かどうかを示します。
- ❒ 目的欄の「SMB」は、Windows共有フォルダーへのファイル送信機能を利用するときに関係する設定項目かどうかを示します。
- ❒ 目的欄の「FTP」は、FTPサーバーへのファイル送信機能を利用するときに関係する設定項目かどうかを示します。
- ❒ 目的欄の「TWAIN」は、連結スキャナーをネットワークTWAINスキャナーとして利用するときに関係する設定項目かどうかを示します。
- ❒ 手段欄の「本機」は、IPSiOSCAN BOXの**【初期設定】**キーを使って設定できる項目かどうかを示します。
- ❒ 手段欄の「Web」は、クライアントPCのWebブラウザーから本機にログインし、設定できる項目かどうかを示します。
- ❒「◎」の設定項目は、各機能を利用するために最低限必要な設定項目です。本機を使用する前に必ず設定してください。
- ❒「○」の設定項目は、必要に応じて設定してください。
- ❒「－」の項目は設定できません。表示のみです。
- ❒ 手段欄の「×」の項目は、設定・登録が可能な他の手段で設定してください。
- ❒「工場出荷時の値」が「(null)」となっている項目は、工場出荷時に何も設定されていません。

設定項目		工場出荷時の値	目的					手段	
			Ridoc	Mail	SMB	FTP	TWAIN	本機	Web
一般	識別名	RNP****** *1	○	○	○	○	○	×	○
	コメント	(null)	○	○	○	○	○	×	○
	URL名称	RICOH Homepage	○	○	○	○	○	×	○
	URL	/cgi-bin/url.cgi/	○	○	○	○	○	×	○
	ヘルプURL	/cgi-bin/help.cgi	○	○	○	○	○	×	○

設定項目		工場出荷時の値	目的					手段	
			Ridoc	Mail	SMB	FTP	TWAIN	本機	Web
ネットワークまたはTCP/IP[*2]	IPアドレス	11.22.33.44	◎[*3]	◎[*3]	◎[*3]	◎[*3]	◎[*3]	○	○[*4]
	サブネットマスク	0.0.0.0	◎[*3]	◎[*3]	◎[*3]	◎[*3]	◎[*3]	○	○
	デフォルトゲートウェイアドレス	0.0.0.0	◎[*3]	◎[*3]	◎[*3]	◎[*3]	◎[*3]	○	○
	アクセスコントロール	0.0.0.0					○	○	○
	アクセスマスク	0.0.0.0					○	○	○
	ネットワークブート	NONE	○	○	○	○	○	○	○
	配信サーバー IP アドレス	0.0.0.0	◎[*5]					—	—[*6]
	物理アドレス	（製品固有）						—	—[*7]
	通信速度	自動選択	○	○	○	○	○	○	○
	I/Fの切り替え	Ethernet	○	○	○	○	○	○	○
	電波状態	（表示のみ）						—	—
	通信モード[*8]	802.11アドホックモード	○	○	○	○	○	×	○
	SSID[*8, *9]	ASSID	○	○	○	○	○	×	○
	チャンネル[*8, *10]	11	○	○	○	○	○	×	○
	暗号化[*8]	無効	○	○	○	○	○	×	○
	WEP（暗号化）キー[*8, *11]	（null）	○	○	○	○	○	×	○
SNMP[*12]	コミュニティー名	public[*13]	○				○	×	○
		ricoh[*14]							
		（null）[*15]							
	アクセスタイプ	read-only[*13]	○				○	×	○
		read-write[*14]							
		Not Accessible[*15]							
	プロトコル	TCP/IP	○				○	×	○
	マネージャー IP アドレス	0.0.0.0						×	—
パスワード	現在のパスワード	（null）	○	○	○	○	○	×	○
	新規パスワード	（null）	○	○	○	○	○	×	○

設定項目		工場出荷時の値	目的					手段	
			Ridoc	Mail	SMB	FTP	TWAIN	本機	Web
読取条件 *16	原稿種類 *17	白黒：文字	○	○	○	○		○	○
	解像度 *17	100dpi	○	○	○	○		○	○
	原稿サイズ *17	自動検知	○	○	○	○		○	○
	濃度	濃度4	○	○	○	○		○	○
	指定色消去 *17	緑	○	○	○	○		○	○
	孤立点除去 *17	しない	○	○	○	○		○	○
	スムージング *17	しない	○	○	○	○		○	○
	フィルター	なし	○	○	○	○		○	○
	白黒反転	しない	○	○	○	○		○	○
	ファイル形式	シングルページ		○	○	○		○	○
スキャナー	送信/TWAIN優先設定	送信	○	○	○	○	○	○	○
	送信時接続禁止時間	しない	○	○	○	○	○	○	○
	オートクリア時間	しない	○	○	○	○		○	○
	日付設定	（現在の日本時間）	○	○	○	○		○	×
	圧縮設定（2値）	する	○	○	○	○		○	○
	圧縮設定（多値）	標準画質	○	○	○	○		○	○
	機能選択	ファイル送信/TWAIN	○	○	○	○	○	○	○
	アドレス帳自動更新	しない	○	○	○	○		○	○
	単位系設定	mm	○	○	○	○		○	○
	sRGB設定 *17	sRGB2	○	○	○	○		○	○
	読取終了後の動作	設定をクリア	○	○	○	○		○	○
	追加原稿待ち時間	3（秒）	○	○	○	○		×	○
	枠消去幅 *17	0mm	○	○	○	○		○	○
	言語切り替え *18	日本語						－	×
	ADF薄紙モード *17	しない	○	○	○	○		○	○
	配信時の1文書最大サイズ	する（1MB）	○					－	×
	見出し選択	かな		○	○	○		×	○
	読取枚数	（表示のみ）						－	×
	読取ページ数	（表示のみ）						－	×
	ADFパッドカウンター *17	（表示のみ）						－	×
	ピックローラーカウンター *17	（表示のみ）						－	×
	FIRMWARE	（表示のみ）						－	－ *19

設定項目		工場出荷時の値	目的					手段	
			Ridoc	Mail	SMB	FTP	TWAIN	本機	Web
メール	POPサーバーアドレス	(null)		○				×	○
	POPサーバーポート番号	110		○				×	○
	SMTPサーバーアドレス	(null)		◎				×	○
	SMTPサーバーポート番号	25		○				×	○
	ドメイン名	(null)		◎				×	○
	第一DNSサーバーIPアドレス	(null)		◎				×	○
	第二DNSサーバーIPアドレス	(null)		○				×	○
	第三DNSサーバーIPアドレス	(null)		○				×	○
	認証方法	しない		○				×	○
	認証ユーザー	(null)		◎				×	○
	認証パスワード	(null)		◎				×	○
	送信者初期値	管理者アドレス		○				×	○
	管理者名	(null)		○				×	○
	管理者メールアドレス	(null)		○				×	○
	メール再送信間隔	30		○				×	○
	メール再送信回数	1		○				×	○
	送信メールサイズ制限	しない		○				×	○
	タイムゾーン	GMT+0900		○				×	○
配信	配信サーバー IPアドレス	0.0.0.0	◎ [*5]					— [*20]	—
	再配信間隔	しない	○					×	○
	再配信回数	しない	○					×	○
	1文書最大サイズ制限	する(1MB)	○					×	○
ファイル送信	再送信間隔	しない			○	○		×	○
	再送信回数	しない			○	○		×	○
	1文書最大サイズ制限	しない			○	○		×	○
	ファイル名+時分付け	する			○	○		×	○

2

設定項目		工場出荷時の値	目的					手段	
			Ridoc	Mail	SMB	FTP	TWAIN	本機	Web
メールアドレス *21	登録番号	（自動）		○				×	○
	名前	（null）		○				×	○
	キー表示名	（null）		○				×	○
	所属見出し：かな	あ		○				×	○
	所属見出し：英数	ABC		○				×	○
	所属見出し：任意見出し	1		○				×	○
	所属見出し：常用見出し	する		○				×	○
	メールアドレス	（null）		◎				×	○
	送信者として使用	する		○				×	○
	パスワード保護	する		○				×	○
	保護パスワード	（null）		○				×	○
件名 *22	件名	（null）		○				×	○
ファイル送信パス *23	登録番号	（自動）			○			×	○
	ファイル送信パス名	（null）			○			×	○
	キー表示名	（null）			○			×	○
	所属見出し：かな	あ			○			×	○
	所属見出し：英数	ABC			○			×	○
	所属見出し：任意見出し	1			○			×	○
	所属見出し：常用見出し	する			○			×	○
	ファイル送信パス	（null）			◎			×	○
	ログインユーザー名	（null）			◎			×	○
	ログインパスワード	（null）			◎			×	○
	保護パスワード	（null）			◎			×	○
FTPサーバー *23	登録番号	（自動）				○		×	○
	FTPサーバー名	（null）				○		×	○
	キー表示名	（null）				○		×	○
	所属見出し：かな	あ				○		×	○
	所属見出し：英数	ABC				○		×	○
	所属見出し：任意見出し	1				○		×	○

設定項目		工場出荷時の値	目的					手段	
			Ridoc	Mail	SMB	FTP	TWAIN	本機	Web
FTPサーバー *23	所属見出し：常用見出し	する				○		×	○
	FTPサーバーアドレス	(null)				◎		×	○
	ログインユーザー名	(null)				◎		×	○
	ログインパスワード	(null)				◎		×	○
	PASVモード設定	なし				○		×	○
	保護パスワード	(null)				◎		×	○
ファイル名 *22	ファイル名	(null)			○	○		×	○
任意見出し	任意見出し1	1		○	○	○		×	○
	任意見出し2	2		○	○	○		×	○
	任意見出し3	3		○	○	○		×	○
	任意見出し4	4		○	○	○		×	○
	任意見出し5	5		○	○	○		×	○

*1 ******は物理アドレスの下6桁です。
*2 本機から行うときは［ネットワーク設定］、Webブラウザーから行うときは［TCP/IP］になります。
*3 ［ネットワークブート］が「NONE」のときは設定必須項目です。「DHCP」のときは入力しないでください。
*4 最初の設定は本機から行ってください。設定後、Webブラウザーから変更が可能です。
*5 Ridoc Document Router/Pro/Ltで本機の登録を行うと、自動取得されます。Ridoc Document Router/Pro/Ltでの登録が必須作業です。
*6 Webブラウザーからは［配信］で表示します。
*7 Webブラウザーからは［管理情報］-［イーサーネットボード］で表示します。
*8 オプションの無線LANカード使用時の設定です。
*9 ［通信モード］が「インフラストラクチャーモード」および「802.11bアドホックモード」のときの設定です。
*10 ［通信モード］が「アドホックモード」および「802.11bアドホックモード」のときの設定です。
*11 ［暗号化］を「有効」に設定した場合のみ必須項目となります。
*12 最大10件の登録ができます。
*13 コミュニティー名1の工場出荷時の値です。
*14 コミュニティー名2の工場出荷時の値です。
*15 コミュニティー名3〜8の工場出荷時の値です。
*16 「デフォルト」を含め4種類の登録ができます。
*17 連結スキャナーにより、項目が存在しなかったり設定範囲や選択肢が異なります。同梱の別紙『連結スキャナー別機能差異表』を参照してください。
*18 工場出荷時の値に固定のため、設定できません。
*19 Webブラウザーでは、［状態］に表示されます。
*20 本機からは［ネットワーク］で表示します。
*21 最大2000件の登録ができます。
*22 最大30件の登録ができます。
*23 最大1000件の登録ができます。

ネットワークTWAINスキャナーとして使用する場合の準備

連結スキャナーをネットワークの共有 TWAIN スキャナーとして利用する場合の準備作業の流れ図を示します。下線は必須作業です。

本機から［ネットワーク設定］を行う

⇒ P.33 「ネットワークで使用するための設定をする」

↓

PC [*1] にネットワークTWAINドライバーをインストールする

⇒ P.66 「ネットワークTWAINドライバーのインストール手順」

[*1] **ネットワークTWAINスキャナーとして使用するには、PC上にTWAIN対応アプリケーションソフトウェアが必要です。**

メール送信を利用する場合の準備

メールの添付ファイルとして画像データを送信する場合の準備作業の流れ図を示します。下線は必須作業です。

作業	参照
本機から［ネットワーク設定］を行う	⇒ P.33「ネットワークで使用するための設定をする」
↓	
Webブラウザーから［一般］、本機またはWebブラウザーから［スキャナー］、［読取条件］を設定する	⇒ P.38「スキャナーシステム全般の設定をする」⇒ P.44「読取条件を登録する」 そのほか、Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
Webブラウザーから［任意見出し］を登録する	Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
Webブラウザーから［メール］の設定、［メールアドレス］、［件名］の登録をする	⇒ P.53「［メールアドレス］の操作手順」 そのほか、Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
設定した内容を確認する	⇒ P.61「設定の確認」

2

ファイル送信（SMB）を利用する場合の準備

Windows共有フォルダーにファイル送信する場合の準備作業の流れ図を示します。下線は必須作業です。

作業	参照
PCに共有フォルダーを作成する	Windowsのヘルプを参照してください。
↓	
本機から［ネットワーク設定］を行う	⇒ P.33「ネットワークで使用するための設定をする」
↓	
Webブラウザーから［一般］、本機またはWebブラウザーから［スキャナー］、［読取条件］を設定する	⇒ P.38「スキャナーシステム全般の設定をする」 ⇒ P.44「読取条件を登録する」 そのほか、Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
Webブラウザーから［任意見出し］を登録する	Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
Webブラウザーから［ファイル送信］の設定、［ファイル送信パス］*1、［ファイル名］の登録をする	Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
設定した内容を確認する	⇒ P.61「設定の確認」

*1 **本機からファイル送信(SMB)の指示を行う場合は、必須作業となります。Webブラウザーから［任意ファイル送信入力］の指示を行う場合は、事前に［ファイル送信パス］を登録する必要はありません。**

ファイル送信（FTP）を利用する場合の準備

FTPサーバーにファイル送信する場合の準備作業の流れ図を示します。下線は必須作業です。

作業	参照
本機から［ネットワーク設定］を行う	⇒ P.33「ネットワークで使用するための設定をする」
↓	
Webブラウザーから［一般］、本機またはWebブラウザーから［スキャナー］、［読取条件］を設定する	⇒ P.38「スキャナーシステム全般の設定をする」 ⇒ P.44「読取条件を登録する」 そのほか、Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
Webブラウザーから［任意見出し］を登録する	Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
Webブラウザーから［ファイル送信］の設定、［FTPサーバー］、［ファイル名］の登録をする	Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
設定した内容を確認する	⇒ P.61「設定の確認」

Ridoc配信を利用する場合の準備

Ridoc Document Router/Pro/Ltの配信機能を利用する場合の準備作業の流れ図を示します。下線は必須作業です。

作業	参照
配信サーバーとなるコンピューターに Ridoc Document Router/Pro/Ltをインストールし、各種設定を行う	Ridoc Document Router/Pro/Ltの『セットアップガイド』や『管理者ガイド』を参照してください。
↓	
クライアントPCにRidoc Desk 2000/Ltをインストールし、各種設定を行う	Ridoc Desk 2000/Ltの『セットアップガイド』や『はじめてガイド』等を参照してください。
↓	
本機から［ネットワーク設定］を行う	⇒ P.33「ネットワークで使用するための設定をする」
↓	
Webブラウザーから［一般］、本機またはWebブラウザーから［スキャナー］、［読取条件］を設定する	⇒ P.38「スキャナーシステム全般の設定をする」 ⇒ P.44「読取条件を登録する」 そのほか、Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
Webブラウザーから［配信］を設定する	Webステータスモニターのヘルプを参照してください。
↓	
設定した内容を確認する	⇒ P.61「設定の確認」
↓	
Ridoc Document Router/Pro/Ltで本機を登録する [*1]	Ridoc Document Router/Pro/Ltの『管理者ガイド』を参照してください。

*1 ［I/O機器設定］でIPアドレスを直接入力してください。

ネットワークで使用するための設定をする

IPアドレスなど、本機をネットワーク上で使うための基本設定を、本機の操作部を使って設定します。

補足

❒ 別売の無線LANカードを利用する場合は、⇒P.110「無線LANの設定をする」を参照してください。

［ネットワーク］の設定項目

補足

❒ ここで説明する項目は、クライアントPCのWebブラウザーからも設定できます。（ただし、最初のIPアドレス設定は本機の操作部から行い、Webブラウザーからは変更のみ可能です。）

❖ IPアドレス

IPアドレスが固定的に割り振られたLAN環境の場合、ネットワーク管理者から割り振られた本機のIPアドレスを、8ビット区切りの10進数xxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。
DHCP環境の場合は、［ネットワークブート］を「DHCP」にすることにより、本項目は自動取得されますので、入力しないでください。

❖ サブネットマスク

IPアドレスが固定的に割り振られたLAN環境の場合、接続するネットワークのサブネットマスクを8ビット区切りの10進数xxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。
DHCP環境の場合は、［ネットワークブート］を「DHCP」にすることにより、本項目は自動取得されますので、入力しないでください。

❖ デフォルトゲートウェイアドレス

IPアドレスが固定的に割り振られたLAN環境の場合、デフォルトゲートウェイのIPアドレスを8ビット区切りの10進数xxx.xxx.xxx.xxxの形式で入力します。
DHCP環境の場合は、［ネットワークブート］を「DHCP」にすることにより、本項目は自動取得されますので、入力しないでください。

❖ アクセスコントロールおよびアクセスマスク

本機の連結スキャナーをネットワークTWAINスキャナーとして使用するクライアントを制限します。アクセスコントロールとアクセスマスクは、組み合わせて設定する必要があります。

- アクセスコントロールは、本機の連結スキャナーをネットワークTWAINスキャナーとして使用するクライアントを制限するときの基準となる値です。
- アクセスマスクは、制限範囲を指定するための値です。アクセスコントロールと照合（論理積）されて、本機の連結スキャナーをネットワークTWAINスキャナーとして使用するクライアントが限定されます。

アクセスコントロールおよびアクセスマスクは「xxx.xxx.xxx.xxx」（8ビット区切りの10進数）の形式で指定します。

補足

❒ 本機の使用を制限しない場合は、工場出荷時の設定のまま使用してください。

❒ アクセスコントロール値をマスクした結果と、ネットワークTWAINスキャナーとして利用しようとしているクライアントのIPアドレスが一致した場合に、アクセスを許可して本機を使用できるようにします。

❒ たとえばアクセスコントロール値を192.168.15.16に設定した場合、アクセス可能なクライアントのIPアドレスは、アクセスマスクに指定した値によって次のように制限されます。（xxxはどんな値でもかまいません。）

アクセスマスクの値	アクセス可能なクライアントのIPアドレス
000.000.000.000	xxx.xxx.xxx.xxx
255.255.000.000	192.168.xxx.xxx
255.255.240.000	192.168.0.xxx ～192.168.15.xxx
255.255.255.000	192.168.15.xxx
255.255.255.240	192.168.15.16 ～192.168.15.31
255.255.255.255	192.168.15.16

❖ **ネットワークブート**

DHCP環境で起動するかどうかを設定します。IPアドレスが固定的に割り振られたLAN環境の場合は「NONE」、DHCP環境の場合は「DHCP」を選択します。

補足

- ❒ Ridoc配信機能を使用するときは、DHCP環境であっても、本機のIPアドレスは静的に割り当ててください。なお、その場合も、本項目は「DHCP」を選択し、［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［デフォルトゲートウェイアドレス］の各項目は入力しないでください。
- ❒ 本項目の設定を変更したときには、設定終了後に本機の電源をOFF/ONしてください。

❖ **配信サーバーIPアドレス**

Ridoc Document Router/Pro/Ltで本機を登録すると、配信サーバー（Ridoc Document Router/Pro/Lt をインストールしたコンピューター）のIPアドレスが自動的設定されますので、入力しないでください。

❖ **通信速度**

ネットワークケーブル接続時のネットワーク通信速度を、「自動選択」、「100Mbps」、「10Mbps」の中から選択します。

❖ **I/Fの切り替え**

ネットワークへの接続手段を選択します。

- Ethernet
  ネットワークケーブルにて接続します。
- IEEE802.11b
  オプションの無線LANカードを利用して接続します。

補足

- ❒ 本項目の設定を変更したときには、設定終了後に本機の電源をOFF/ONしてください。

［ネットワーク］の設定手順

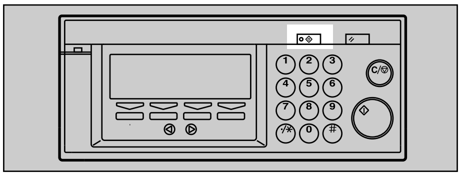
操作の前に

設定を行う前に、スキャナーを接続してスキャナーの電源をオンにしてください。スキャナー未接続時は設定できません。

参照

画面に表示される項目の選びかたについては、⇒P.16「画面に表示されるキーなどの選びかた」を参照してください。

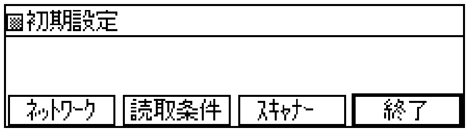
1 **【初期設定】キーを押します。**



ZKJS020J

初期設定画面が表示されます。

2 **［ネットワーク］を押します。**

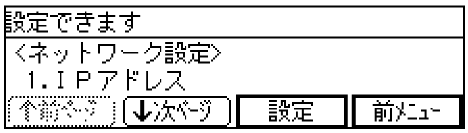


ネットワーク設定の項目選択画面「1.IPアドレス」が表示されます。

3 **ご使用のLAN環境に応じて、必要な項目を設定します。**

IPアドレスが固定的に割り振られた環境の場合

❶ **［設定］を押します。**



「1.IPアドレス」入力画面が表示されます。

❷ **本機のIPアドレスを入力します。**

```
設定できます
<1.ＩＰアドレス>
 011.022.033.044
                [確定] [取消]
```

- 数値は、テンキーで入力します。
- 数値は、3桁ずつ入力します。
  3桁入力したら、**【#】**キーまたは**【▷】**キーを押します。次の3桁が入力できる状態になります。

補足

❒ 間違えたときは**【クリア / ストップ】**キーを押します。入力した3桁の数値がクリアされますので、正しい数値を入力し直してください。

❸ **入力が終了したら、[確定]を押します。**

❶の画面が表示されます。

補足

❒ ［取消］を押すと、入力した値がキャンセルされます。

❹ **［↓次ページ］を押します。**

ネットワーク設定の次の項目選択画面「2.サブネットマスク」が表示されます。

補足

❒ ［↑前ページ］を押すと、1つ前の画面が表示されます。なお、「1.IP アドレス」のときは、［↑前ページ］を押すことはできません。

❒ ［設定］を押すと、現在表示している項目の設定ができます。

❒ ［前メニュー］を押すと、初期設定画面に戻ります。

❺ **❶から❹までと同様にして、「2. サブネットマスク」「3. デフォルトゲートウェイアドレス」「4. アクセスコントロール」「5.アクセスマスク」を設定します。**

「6. ネットワークブート」が表示されます。

補足

❒ ネットワークTWAINドライバーを利用できるPCを限定しない場合は、「4. アクセスコントロール」を設定する必要はありませんが、「5. アクセスマスク」が「0.0.0.0」に設定されていることを確認してください。なお、その場合、「アクセスコントロール」はどのような値でもかまいません。

❻ **［設定］を押します。**

```
設定できます
<ネットワーク設定>
 6.ネットワークブート
[↑前ページ] [↓次ページ] [設定] [前メニュー]
```

❼ **［↓］［↑］を押して、「NONE」を表示します。**

```
設定できます
<6.ネットワークブート>
 *NONE
[↑] [↓] [確定] [取消]
```

補足

❒ 現在、設定されている値には、＊が付いています。

❽ **(「NONE」が表示された状態で、)［確定］を押します。**

❻の画面が表示されます。

補足

❒ ［取消］を押すと、前回設定した値（＊印の付いた値）のままになります。

DHCP環境の場合

❶ **［↓次ページ］を3回押します。**

「4.アクセスコントロール」が表示されます。

補足

❒ 「1.IP アドレス」から「3. デフォルトゲートウェイアドレス」は、DHCP サーバーから自動取得するため、設定しません。

2

❷「IPアドレスが固定的に割り振られた環境の場合」の❶から❹までと同様にして、「4.アクセスコントロール」「5.アクセスマスク」を設定します。

「6. ネットワークブート」が表示されます。

補足

- ❒ ネットワークTWAINドライバーを利用できるPCを限定しない場合は、「4.アクセスコントロール」を設定する必要はありませんが、「5.アクセスマスク」が「0.0.0.0」に設定されていることを確認してください。なお、その場合、「アクセスコントロール」はどのような値でもかまいません。

❸［設定］を押します。

```
設定できます
<ネットワーク設定>
 6.ネットワークブート
[↑前ページ][↓次ページ][設定][前メニュー]
```

❹［↓］［↑］を押して、「DHCP」を表示します。

```
設定できます
<6.ネットワークブート>
  DHCP
[↑][↓][確定][取消]
```

補足

- ❒ 現在、設定されている値には、＊が付いています。

❺（「DHCP」が表示された状態で、）［確定］を押します。

❸の画面が表示されます。

補足

- ❒ ［取消］を押すと、前回設定した値（＊印の付いた値）のままになります。

4 ［↓次ページ］を押します。

```
設定できます
<ネットワーク設定>
 6.ネットワークブート
[↑前ページ][↓次ページ][設定][前メニュー]
```

「7.配信サーバー IPアドレス」が表示されます。

補足

- ❒ Ridoc Document Router/Pro/Ltで本機の登録を行うと、「配信サーバー IPアドレス」は自動取得されます。Ridoc Document Router/Pro/Ltで本機を登録後、［設定］を押して、配信サーバー IPアドレスを表示させて、登録が行われているか確認できます。確認後は［取消］を押して戻ります。

5 ［↓次ページ］を押します。

```
設定できます
<ネットワーク設定>
 7.配信サーバーＩＰアドレス
[↑前ページ][↓次ページ][設定][前メニュー]
```

「8.物理アドレス」が表示されます。

補足

- ❒ 物理アドレス（MACアドレス）は製品ひとつひとつに固有の番号で、変更することはできません。［設定］を押すと、本機の物理アドレスを参照できます。参照後は［取消］を押して戻ります。

6 ［↓次ページ］を押します。

「9.通信速度」が表示されます。

7 3の「6.ネットワークブート」と同様にして、「9.通信速度」と次の「10.I/Fの切り替え」を設定します。

［↓］を押すたびに、「自動設定」→「100Mbps」→「10Mbps」の順に、変わります。（［↑］を押すと、逆順に変わります。）

重要

- ❒ 「Ethernet」から「IEEE802.11b」への切り替えは、本機の操作部からは行わないでください。より詳細な設定が必要となりますので、Webブラウザーから設定してください。⇒ P.110 「無線LANの設定をする」

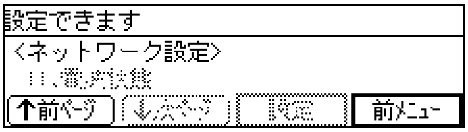
8 ［↓次ページ］を押します。

「11.電波状態」が表示されます。

補足

- ❒ オプションの無線 LAN カードを利用しているときは、［設定］を押すと無線LANの電波状態が確認できます。確認後は［取消］を押して戻ります。

9 ［前メニュー］を押します。



設定した値が有効となり、2の初期設定画面に戻ります。

10 ［終了］を押します。

初期設定を終了し、電源投入時の待機画面に戻ります。

重要

- ❒ 電源投入時の待機画面に戻るまでは、本機の電源を切らないでください。変更した設定が反映されずに、すべて工場出荷時の設定に戻ることがあります。

補足

- ❒ ［終了］を押さずに［スキャナー］を押すと、続いてスキャナーシステム全般の設定ができます。［読取条件］を押すと、続いて読取条件の登録ができます。

11 ［ネットワークブート］や［I/Fの切り替え］を変更したときは、本機の電源をOFF/ONします。

設定内容が反映されます。

スキャナーシステム全般の設定をする

スキャナーシステム全般に関わる本機の設定を行います。

［スキャナー］の設定項目

補足

❒ ここで説明する項目は、Webブラウザーからも設定できます。

❖ 送信/TWAIN優先設定

Ridoc配信またはメール/ファイル送信機能などの本機からの操作を優先するか、PCからのネットワーク TWAIN 機能を優先して使用するかの設定です。「TWAIN」を優先にすると、電源投入時の画面はネットワークTWAIN待機画面となり、PCからの指示待ちになります。Ridoc配信やメール/ファイル送信（任意ファイル送信を除く）機能を使うときは、［接続解除］を押します。「送信」を優先にすると、電源投入時の画面は、Ridoc配信またはメール/ファイル送信の待機画面になります。送信優先時は、本機から操作をしていないときはいつでも、PCからネットワークTWAINまたは任意ファイル送信を行うことができます。

補足

❒ ［機能選択］で「TWAIN」が設定されている状態では、本項目は灰色で表示され、設定できません。

❖ 送信時接続禁止時間

本機からの操作時に、クライアントPCからのネットワークTWAINドライバーや［任意ファイル送信入力］に割り込まれないようにする機能で、最後に本機の操作部を触った時点からの禁止時間を設定します。「しない」にすると、即時にネットワークTWAINや［任意ファイル送信入力］からの指示データを取り込みます。設定する場合は、3～30秒の範囲で1秒単位に設定します。

補足

❒ 禁止時間内に、Webステータスモニターから［任意ファイル送信入力］を行ったり、アプリケーションソフトからネットワークTWAINドライバーを起動すると、「スキャナー使用中のため、設定できません。しばらくしてから設定してください」と画面に表示されます。

❖ オートクリア時間

最後に本機の操作部を触った時点から一定時間経過すると、電源投入時の状態に戻すかどうかを設定します。「しない」に設定すると、ユーザーが操作した最後の画面は電源オフまで保持されます。「する」に設定したときは、その時間を10～999秒の範囲で1秒単位に設定します。なお、読み取りが行われた場合は、読取終了後から計時が開始されます。

❖ 日付設定

本機に内蔵されている時計の日付と時間を設定します。本機の内蔵時計の値は、設定によりファイル名の一部として使われます。

❖ 圧縮設定（2値）

［原稿種類］に「白黒：文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」のいずれかを指定したときに、読み取った画像データを圧縮して転送するかどうかを設定します。

補足

❒ 圧縮すると、転送データのサイズが小さくなり、一度に処理できる原稿枚数が多くなります。処理できる原稿枚数は、原稿ごとに異なります。

❖ 圧縮設定（多値）

［原稿種類］に「白黒：グレースケール」、「カラー：フルカラー」のいずれかを指定したときに、読み取った画像データを圧縮して転送するかどうかを設定します。圧縮する場合は画質（圧縮率と反比例）を設定します。圧縮方式はいずれもJPEGです。

- 標準
  画質・サイズともに標準的な設定です。
- 低画質
  画質の劣化は大きくなりますが、データサイズが小さくなります。
- 高画質
  画質の劣化は小さくて済みますが、データサイズが大きくなります。
- しない
  圧縮しません。画質の劣化はありませんが、データサイズが大きくなります。原稿の粗密に関係なく、読取サイズや色数・解像度により一定のデータサイズとなります。

補足

- ❒ 圧縮する場合は、同じ画質（圧縮率）を設定しても、実際の圧縮サイズは原稿により異なりますので、処理できる原稿枚数も異なります。

❖ 機能選択

利用する機能を選択します。

- Ridoc配信/TWAIN
  Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用した配信機能と、ネットワークTWAIN機能が利用できます。
- ファイル送信/TWAIN
  メール送信と、Windows共有フォルダーへのファイル送信（SMB）、FTPサーバーへのファイル送信、ネットワークTWAIN機能が利用できます。
- TWAIN
  ネットワーク TWAIN 機能のみが利用できます。

❖ アドレス帳自動更新

Ridoc Document Router/Pro/Ltから取得するあて先や、ファイル送信などのあて先を、［あて先］や［送信者］を押すたびに自動更新するかしないかを選択します。

- ［機能選択］で「Ridoc配信/TWAIN」選択時
  本機の［あて先］または［送信者］を押したときに、最新のアドレス帳を配信サーバーから取得するかどうかを設定します。「しない」に設定すると、本機の電源投入時にのみ更新されます。
- ［機能選択］で「ファイル送信/TWAIN」選択時
  本機の［あて先］または［送信者］を押したときに、Webステータスモニターで設定したあて名（メールアドレス、ファイル送信パス、FTPサーバー）を更新するかどうかを設定します。「しない」に設定すると、本機の電源投入時にのみ更新されます。

補足

- ❒ Webステータスモニターの［メールアドレス］や［ファイル送信パス］や［FTP サーバー］を追加・変更した場合、本項目を「しない」に設定したときは、本機を再起動させないと追加・変更項目が有効になりません。本項目を「する」に設定したときは、Webステータスモニターの［OK］を押し、本機の［あて先］を押すと、追加・変更したあて先が表示されます。

補足

- ❒ アドレス帳を頻繁に変更しない場合は、「しない」に設定すると更新にかかる時間を省略でき、［あて先］や［送信者］を押したときの反応を速められます。

❖ 単位系設定

［原稿サイズ］を「任意サイズ」に指定したときの、［開始位置］や［読取エリア］の設定を、mmで行うかinchで行うかを設定します。

❖ sRGB設定

［原稿種類］に「カラー：フルカラー」を指定したときに、スキャナーごとに異なる色再現性に対して、読み取った色を補正し、標準的な色情報として処理するかどうかを指定します。

- しない
  色情報の補正をしません。
- sRGB1
  Windowsに登録されているディスプレイ用のカラー定義を使用して色情報を補正します。紙の地肌も忠実に再現します。
- sRGB2
  独自のカラー定義を使用して色情報を補正します。紙の地肌を低減するように設定されています。

補足

- ❒ ［sRGB設定］を「sRGB1」または「sRGB2」に設定した場合は、［濃度］（⇒ P.45）の設定は無効になります。
- ❒ 本項目は、連結スキャナーによっては設定できません。設定できないスキャナーが連結されている場合は、灰色表示されます。

❖ 読取終了後の動作

原稿を読み取ったあとの本機の動作を選択します。

補足

❒ 原稿ガラスから原稿を読み取ったときは、本項目の設定に関わらず、原稿の追加読取が可能です。

- 選択画面を表示
  ADFから読み取った場合は、読取終了後に次の画面を表示します。

原稿の読み取りを終了しました
原稿追加：同じ文書に原稿を追加します
継続：設定／あて先を変えず次原稿を読取
[原稿追加] [継続] [終了]

［原稿追加］を押すと、現在の画像ファイルに原稿を追加できます。［継続］を押すと、読み取りを終了して送信/配信を行いますが、セットした読取条件やあて先がそのまま残り、同じ設定で2回目の送信/配信ができます。［終了］を押すと、読み取りを終了して送信/配信し、電源投入時の画面に戻ります。
原稿ガラスから読み取る場合は、すべての原稿を読み取って、［読取終了］を押したあとに、次の画面を表示します。

原稿の読み取りを終了し、送信します
継続を押すと、送信終了後に設定／あて先を変えずに次原稿の読み取りができます
[継続] [終了]

［継続］を押すと、読み取りを終了して送信/配信を行いますが、セットした読取条件やあて先がそのまま残り、同じ設定で2回目の送信/配信ができます。［終了］を押すと、読み取りを終了して送信 / 配信し、電源投入時の画面に戻ります。

補足

❒ 選択画面を表示する時間をWebステータスモニターの［設定］-［スキャナー］の［追加原稿待ち時間］で設定できます。詳しくはWebステータスモニターのヘルプを参照してください。

❒ Webステータスモニターの［任意ファイル送信入力］から送信の指定を行った場合は、［継続］、［終了］ともに、読み取りを終了してファイル送信を行い、任意ファイル送信の設定がそのまま残ります。［戻る］を押すと、電源投入時の画面に戻ります。

◯読み取りできます [SMB]
▩[1/1]001//PCName/FolderName
/カラー:フルカラー/100dpi/⎙:A4⎕
[戻る]

- 設定をクリア
  読取終了後に選択画面を表示せず、電源投入時の画面に戻り、送信/配信を行います。

補足

❒ Webステータスモニターの［任意ファイル送信入力］から送信の指定を行った場合は、ファイル送信を行ったあと、任意ファイル送信の設定がそのまま残ります。［戻る］を押すと、電源投入時の画面に戻ります。

❖ 枠消去幅

読み取った画像に原稿の影が発生したときに、その影を白い枠で消します。その白い枠の線幅を「0mm」（消去しない）、「1mm」、「2mm」、「3mm」、「4mm」、「5mm」から選択します。

補足

❒ 本項目は、連結スキャナーによっては設定できません。設定できないスキャナーが連結されている場合は、灰色表示されます。

❖ 言語切り替え

本機では「日本語」に固定です。

❖ ADF薄紙モード

ADF(自動原稿送り装置)からの給紙の際、薄い紙もより確実に給紙できるようにするか、普通の紙のみを原稿とし、より高速に給紙するかを設定します。

補足

❒ 連結スキャナーによっては設定できません。

❒ 各モードに適した原稿厚は、連結スキャナーごとに異なりますので、詳細はスキャナーの取扱説明書をご覧ください。

❖ **配信時の1文書最大サイズ**

Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用した配信時の1文書の最大サイズを制限するかしないか設定します。制限する場合は、1-64MBを1MB単位で設定します。

補足

❒ Webステータスモニターから設定するときは、[設定] - [配信] の中で設定します。

[スキャナー] の設定手順

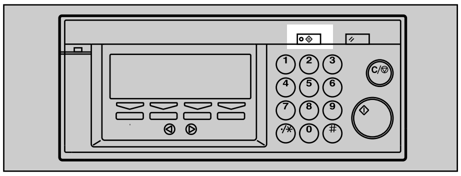
操作の前に

設定を行う前に、スキャナーを接続してスキャナーの電源をオンにしてください。スキャナー未接続時は設定できません。

参照

画面に表示される項目の選びかたについては、⇒ P.16「画面に表示されるキーなどの選びかた」を参照してください。

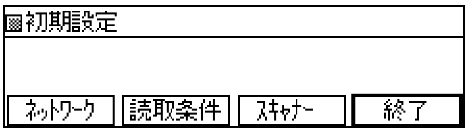
1 **【初期設定】キーを押します。**



ZKJS020J

初期設定画面が表示されます。

2 **[スキャナー] を押します。**



スキャナー設定の項目選択画面「1.　送信/TWAIN優先設定」が表示されます。

3 **[設定] を押します。**



「1.送信/TWAIN優先設定」入力画面になります。

4 **優先させる操作を「送信」または「TWAIN」の中から選択します。**



- 最初に表示される値は、現在、設定されている値です。
- 設定されている値には、＊が付きます。
- [↓] キー、[↑] キーを押して、選択する内容の画面を表示させます。

5 **選択する内容が表示された状態で、[確定] を押します。**

「1.送信/TWAIN優先設定」が設定され、**3**のスキャナー設定の項目選択画面「1.送信/TWAIN優先設定」に戻ります。

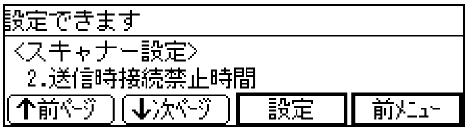
補足

❒ [取消] を押すと、選択した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻ります。

6 **[↓次ページ] を押します。**

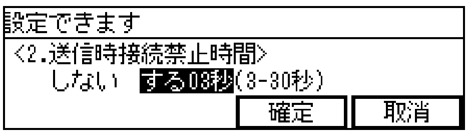
スキャナー設定の項目選択画面「2.送信時接続禁止時間」が表示されます。

7 **[設定] を押します。**



「2. 送信時接続禁止時間」入力画面になります。

8 **PCからの接続禁止時間を設定「しない」、「する」の中から選択します。「する」を選択したときは、テンキーを使って、禁止する時間を入力します。**



- 【◁】または【▷】キーを押して、選択する内容を反転させます。

補足

- ❒ 数値入力を間違えたときは**【クリア / ストップ】**キーを押します。数値がクリアされますので、正しい値を入力し直してください。

9 ［確定］を押します。

「2.送信時接続禁止時間」が設定され、7のスキャナー設定の項目選択画面「2.送信時接続禁止時間」に戻ります。

補足

- ❒ ［取消］を押すと、選択・入力した値がキャンセルされます。

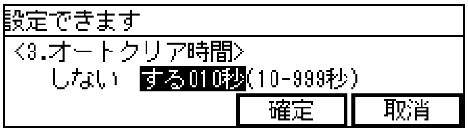
10 ［↓次ページ］を押します。

スキャナー設定の項目選択画面「3.オートクリア時間」が表示されます。

補足

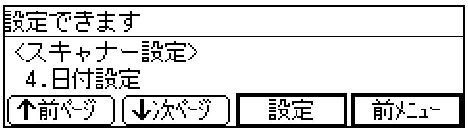
- ❒ ［↑前ページ］を押すと、スキャナー設定画面の 1 つ前の画面が表示されます。なお、「1.送信/TWAIN優先設定」のときは、［↑前ページ］を押すことはできません。

11 7から10と同様にして、オートクリア時間を設定します。



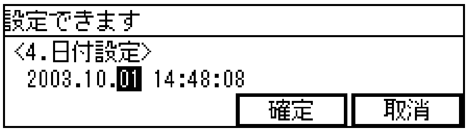
スキャナー設定の項目選択画面「4.　日付設定」が表示されます。

12 ［設定］を押します。



「4.日付設定」入力画面になります。

13 テンキーと【▷】または【◁】キーを使って、現在の日時を入力します。



補足

- ❒ 14の［確定］を押したときから、計時を開始します。
- ❒ 間違えたときは**【クリア/ストップ】**キーを押します。「.」や「：」で区切られた数値がクリアされますので、正しい数値を入力し直してください。

14 ［確定］を押します。

計時が開始され、12のスキャナー設定の項目選択画面「4.日付設定」に戻ります。

補足

- ❒ ［取消］を押すと、入力した値がキャンセルされます。

15 ［↓次ページ］を押します。

スキャナー設定の項目選択画面「5.圧縮設定（2値）」が表示されます。

16 3から6と同様にして、「5.圧縮設定（2値）」～「14.ADF薄紙モード」までを設定します。

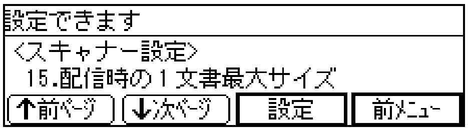
補足

- ❒ 連結スキャナーによっては、設定できない項目があります。設定できない項目は、灰色表示されます。［↓次ページ］で次の項目に進んでください。
- ❒ 「13.言語切り替え」は日本語に固定のため、灰色表示されます。［↓次ページ］で次の項目に進んでください。

スキャナー設定の項目選択画面「15.配信時の1文書最大サイズ」が表示されます。

17 7から9と同様にして、「15.配信時の1文書最大サイズ」を設定します。

18 ［前メニュー］を押します。



設定した値が有効となり、2の初期設定画面に戻ります。

19 ［終了］を押します。

初期設定を終了し、電源投入時の待機画面に戻ります。

重要

- ❒ 電源投入時の待機画面に戻るまでは、本機の電源を切らないでください。変更した設定が反映されずに、すべて工場出荷時の設定に戻ることがあります。

補足

- ❒ ［終了］を押さずに［読取条件］を押すと、続いて読取条件の登録ができます。

読取条件を登録する

メール送信、ファイル送信（SMB、FTP）、Ridoc配信時によく使う読取条件をあらかじめ登録しておきます。［デフォルト］、［ユーザー1］～［ユーザー3］の合計4種の読取条件が登録できます。［デフォルト］は、読取条件を何も指定しなかったときに使われる読取条件です。このほかに、比較的よく使用する読取条件を［ユーザー1］～［ユーザー3］に登録しておくと、メール/ファイル送信時やRidoc配信時に［ユーザー1］～［ユーザー3］のいずれかを指定するだけで済みます。送信時ごとに詳細な指定が不要になります。

［読取条件］の設定項目

補足

❒ ここで説明する項目は、Webブラウザーからも設定できます。

❒ 連結スキャナーによって、設定できる項目が異なります。設定できない項目は灰色の文字で表示されます。また、Webステータスモニターでは、設定できない項目は画面に表示されません。

❖ 原稿種類

原稿の種類を選択します。選択した原稿の種類に適した設定で、読取時の色数や階調が設定されます。

補足

❒ 連結スキャナーにより、選択肢が異なります。ここに示されたすべての項目が表示されるわけではありません。そのスキャナーで選択できる項目のみが表示されます。

白黒/グレースケールで読み取る場合は、以下のいずれかの項目を選択します。

- 白黒：文字
  文字を主体とした標準的な原稿の場合に指定します。白黒2値（白か黒のどちらか）で読み取ります。
- 白黒：文字・写真
  文字のほかにグラフや写真が混じった原稿の場合に指定します。白黒2値で読み取りますが、誤差拡散モードやディザパターンの利用により、写真部分は中間調で表現されます。

  補足

  ❒ 中間調の表現（誤差拡散モードやディザパターン）は、連結スキャナーにより異なります。
- 白黒：写真
  白黒写真が主体の原稿の場合に指定します。白黒2値で読み取りますが、ディザパターンなどを使って、中間調で表現されます。

  補足

  ❒ 中間調の表現（ディザパターン）は、連結スキャナーにより異なります。
- 白黒：グレースケール
  白黒写真を主体とした原稿のほか、カラー写真であっても白黒写真として読み取りたい原稿の場合に指定します。白黒256階調で読み取ります。

  補足

  ❒「白黒：グレースケール」を指定すると、一度に読み取れる原稿枚数は少なくなります。

原稿をカラーで読み取る場合は、「カラー：フルカラー」に設定します。

- カラー：フルカラー
  精緻なカラー写真原稿の場合に指定します。カラー1677万色で読み取ります。

  補足

  ❒「カラー：フルカラー」を指定すると、一度に読み取れる原稿枚数は少なくなります。

❖ 解像度

読み取る解像度を 100dpi、200dpi、300dpi、400dpi、600dpi、任意解像度から選択します。

補足

❒ 解像度を上げると、一度に読み取れる原稿枚数が少なくなります。

❒ 任意解像度で設定できる範囲は、連結スキャナーによって異なります。

❖ 原稿サイズ
原稿を読み取るサイズを選択します。

- 連結スキャナーによって、読み取れる原稿サイズは異なります。表示されたものの中から選んでください。
- 「任意エリア設定」を選択したときは、次項の［開始位置］および［読取エリア］で読み取る範囲を指定します。

❖ 開始位置
［原稿サイズ］が「任意エリア設定」のときの読取開始位置を、連結スキャナーの基準点を0とした縦横の距離寸法で指定します。

補足

❒ インチ単位で指定したいときは、あらかじめ**【初期設定】**の［スキャナー］の［9. 単位系設定］を「inch」に設定しておきます。⇒ P.39 「単位系設定」

❖ 読取エリア
［原稿サイズ］が「任意エリア設定」のときの読取終了位置を、［開始位置］からの縦横の距離寸法で指定します。

補足

❒ インチ単位で指定したいときは、あらかじめ**【初期設定】**の［スキャナー］の［9. 単位系設定］を「inch」に設定しておきます。⇒ P.39 「単位系設定」

❒ 開始位置と読取エリアの合計が、縦・横とも、連結スキャナーの読取可能範囲内に収まるように設定してください。読取可能範囲は連結スキャナーによって異なります。また、［原稿種類］によっても異なります。各連結スキャナーの取扱説明書をご覧ください。

❖ 濃度
原稿を読み取る濃度を、「濃度1」～「濃度7」の7段階から選択します。数字が大きいほど濃くなります。

補足

❒ ［sRGB設定］を「する」または「sRGB1」、「sRGB2」に設定すると、濃度の設定は無効になります。

❖ 指定色消去
白黒で読み取るとき（［原稿種類］に「白黒：文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」、「白黒:グレースケール」のいずれかを設定したとき）に、特定の色を読み取らない設定ができます。たとえば、青インクで印刷された用紙に黒字で記入された伝票の黒字記入部分のみを読み取りたいときは、「青」を［指定色消去］に指定します。

補足

❒ 連結スキャナーによって、設定の可否、選択肢が異なります。

❒ 原稿の色味によっては消去されない場合があります。

❖ 孤立点除去
白黒2値で読み取るとき（［原稿種類］に「白黒：文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」のいずれかを設定したとき）に、白地部分にある小さな点を消して読み取ります。

補足

❒ 連結スキャナーによっては設定できません。

❒ 「3×3」、「4×4」、「5×5」は、除去する孤立点を検出する範囲（ドット×ドット）を表しています。指定した範囲の枠（1ドット幅）よりも内側に入る孤立点が検出され、除去されます。たとえば「5×5」を指定すると、最大3×3ドットの孤立点が除去されます。

❖ スムージング
白黒2値で読み取るとき（［原稿種類］に「白黒：文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」のいずれかを設定したとき）に、原稿中の文字や図形の境目をなめらかにして読み取るかどうかを指定します。

補足

❒ 連結スキャナーによっては設定できません。

❖ フィルター
フィルターを使用して読み取るかどうかを指定します。

- なし
  フィルターを使わずに読み取ります。
- MTF
  境目を強調してくっきりとした画像として読み込みます。
- 平滑化
  画像をぼかして読み取ります。

2

❖ **白黒反転**

白黒で読み取るとき（[原稿種類] に「白黒：文字」、「白黒：文字・写真」、「白黒：写真」、「白黒:グレースケール」のいずれかを設定したとき）に、原稿の黒い部分を白、白い部分を黒として読み込むかどうかを設定します。

❖ **ファイル形式**

メール送信、Windows共有フォルダーへのファイル送信、FTPサーバーへのファイル送信時の画像ファイル形式を設定します。

補足

❒ Ridoc配信時は、Ridoc Document Router/Pro/Ltの設定に依存します。

- シングルページ
  原稿が複数ページの場合でも、1 ページずつのファイルになります。

  補足

  ❒ [原稿種類] で「白黒：グレースケール」または「カラー：フルカラー」を選択し、[圧縮設定（多値）] が「高画質」、「標準」、「低画質」のいずれかに設定されている場合はJPEG形式のシングルページになります。

  ❒ 上記以外は、シングル TIFF 形式で送信されます。

- PDF
  PDF形式で送信します。

- マルチページTIFF
  複数枚の原稿をまとめて、1つのTIFFファイル（マルチページTIFF）にして送信します。

  補足

  ❒ [原稿種類] で「白黒：グレースケール」または「カラー：フルカラー」を選択し、[圧縮設定（多値）] が「高画質」、「標準」、「低画質」のいずれかに設定されている場合は PDF 形式で送信されます。

[読取条件] の設定手順

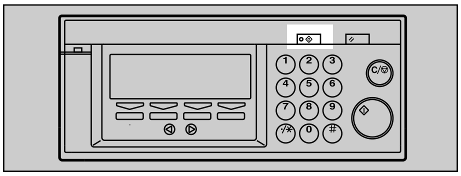
操作の前に

設定を行う前に、スキャナーを接続してスキャナーの電源をオンにしてください。スキャナー未接続時は設定できません。

参照

画面に表示される項目の選びかたについては、⇒ P.16「画面に表示されるキーなどの選びかた」を参照してください。

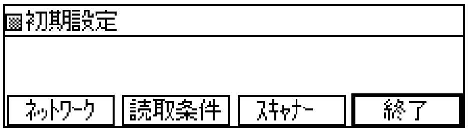
1 **【初期設定】キーを押します。**



ZKJS020J

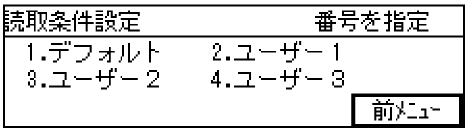
初期設定画面が表示されます。

2 **[読取条件] を押します。**



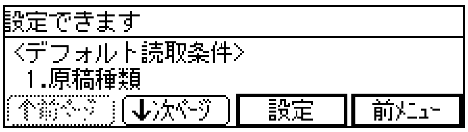
読取条件名の選択画面が表示されます。

3 **テンキーの【1】キーを押します。**



デフォルト読取条件の項目選択画面「1.原稿種類」が表示されます。

4 **[設定] を押します。**



「1.原稿種類」選択画面になります。

補足

❒ 前メニューを押すと、**3**の読取条件名の選択画面に戻ります。

5 原稿種類を選択します。

```
設定できます
<デフォルト読取条件><1.原稿種類>
 *白黒：文字
[↑] [↓] [確定] [取消]
```

- 最初に表示される値は、現在、設定されている値です。
- 設定されている値には、＊が付きます。
- ［↓］キー、［↑］キーを押して、選択する内容の画面を表示させます。

6 （選択したい内容が表示された状態で、）［確定］を押します。

デフォルトの原稿種類が設定され、4 のデフォルト読取条件の項目選択画面「1.原稿種類」に戻ります。

補足

- ❒ ［取消］を押すと、選択した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻ります。

7 ［↓次ページ］を押します。

デフォルト読取条件の項目選択画面「2.解像度」が表示されます。

8 ［設定］を押します。

```
設定できます
<デフォルト読取条件>
 2.解像度
[↑前ページ] [↓次ページ] [設定] [前メニュー]
```

「2.解像度」選択画面になります。

9 解像度を選択します。

```
設定できます
<デフォルト読取条件><2.解像度>
 *100dpi
[↑] [↓] [確定] [取消]
```

- 最初に表示される値は、現在、設定されている値です。
- 設定されている値には、＊が付きます。
- ［↓］キー、［↑］キーを押して、選択する内容の画面を表示させます。

表示された解像度を選択したとき

❶ **（選択したい解像度が表示された状態で、）［確定］を押します。**

デフォルトの解像度が設定され、8 のデフォルト読取条件の項目選択画面「2. 解像度」に戻ります。

補足

- ❒ ［取消］を押すと、選択した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻ります。

任意解像度を選択したとき

❶ **「任意解像度」が表示されている状態で、［設定］を押します。**

```
設定できます
<デフォルト読取条件><2.解像度>
  任意解像度
[↑] [↓] [設定] [取消]
```

任意の解像度を入力する画面になります。

❷ **テンキーを使って、設定する解像度を入力します。**

```
任意解像度    テンキーで解像度を入力し#
 解像度：100 dpi(050-600dpi)
                    [確定] [取消]
```

補足

- ❒ 間違えたときは**【クリア / ストップ】**キーを押します。

❸ **［確定］を押します。**

デフォルトの解像度が設定され、8 のデフォルト読取条件の項目選択画面「2. 解像度」に戻ります。

補足

- ❒ ［取消］を押すと、入力した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻ります。

2

10 ［↓次ページ］を押します。

デフォルト読取条件の項目選択画面「3.原稿サイズ」が表示されます。

補足

- ❒ ［↑前ページ］を押すと、デフォルト読取条件設定画面の1つ前の画面が表示されます。なお、「1.原稿種類」のときは、［↑前ページ］を押すことはできません。

11 ［設定］を押します。

設定できます
〈デフォルト読取条件〉
 3.原稿サイズ
［↑前ページ］［↓次ページ］［設定］［前メニュー］

「3.原稿サイズ」選択画面になります。

12 原稿サイズを選択します。

設定できます
〈デフォルト読取条件〉〈3.原稿サイズ〉
 *A4
［↑］［↓］［確定］［取消］

- 最初に表示される値は、現在、設定されている値です。
- 設定されている値には、*が付きます。
- ［↓］キー、［↑］キーを押して、選択する内容の画面を表示させます。

表示された原稿サイズを選択したとき

❶ **（選択したい原稿サイズが表示された状態で、）［確定］を押します。**

デフォルトの原稿サイズが設定され、11のデフォルト読取条件の項目選択画面「3.原稿サイズ」に戻ります。

補足

- ❒ ［取消］を押すと、選択した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻ります。

任意エリア設定を選択したとき

❶ **「任意エリア設定」が表示されている状態で、［設定］を押します。**

設定できます
〈デフォルト読取条件〉〈3.原稿サイズ〉
 任意エリア設定
［↑］［↓］［設定］［取消］

開始位置と読取エリアを入力する画面になります。

❷ **テンキーと【▷】や【◁】キーを使って、設定する読取範囲を入力します。**

任意エリア設定　テンキーで寸法を入力し#
開始位置：タテ 0000mm　ヨコ 0000mm
読取エリア：タテ 0283mm　ヨコ 0215mm
［確定］［取消］

補足

- ❒ 間違えたときは**【クリア / ストップ】**キーを押します。各ブロックごとにクリアされます。
- ❒ ブロック間の移動には、**【▷】**または**【◁】**キーのほか**【#】**キーも使用できます。

❸ **［確定］を押します。**

デフォルトの原稿サイズが設定され、11のデフォルト読取条件の項目選択画面「3.原稿サイズ」に戻ります。

補足

- ❒ ［取消］を押すと、入力した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻ります。

13 ［↓次ページ］を押します。

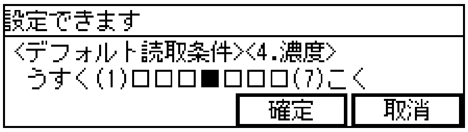
デフォルト読取条件の項目選択画面「4. 濃度」が表示されます。

14 ［設定］を押します。

設定できます
〈デフォルト読取条件〉
 4.濃度
［↑前ページ］［↓次ページ］［設定］［前メニュー］

「4.濃度」選択画面になります。

15 【⊳】や【⊲】キーを使って、設定したい濃度を反転表示させます。



16 ［確定］を押します。

デフォルトの濃度が設定され、14のデフォルト読取条件の項目選択画面「4.濃度」に戻ります。

補足

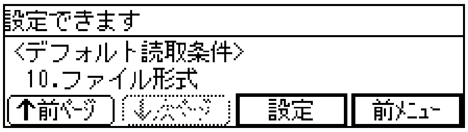
- ❒ ［取消］を押すと、選択した値がキャンセルされ、前回設定した値に戻ります。

17 ［↓次ページ］を押して、4〜7と同様にして、「5.指定色消去」〜「10.ファイル形式」を設定します。

補足

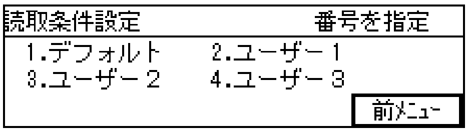
- ❒ 連結スキャナーによっては、設定できない項目があります。設定できない項目は、灰色表示されます。

18 ［前メニュー］を押します。



デフォルトの読取条件が登録され、3の読取条件名選択画面に戻ります。

19 テンキーの【2】キーまたは【3】キーまたは【4】キーを押して、3の読取条件名を「2.ユーザー1」または「3.ユーザー2」、「4.ユーザー3」に変更して、4〜18の手順を繰り返します。



20 ［前メニュー］を押します。

初期設定画面に戻ります。

21 ［終了］を押します。

初期設定を終了し、電源投入時の待機画面に戻ります。

重要

- ❒ 電源投入時の待機画面に戻るまでは、本機の電源を切らないでください。変更した設定が反映されずに、すべて工場出荷時の設定に戻ることがあります。

2

Webブラウザーを使って設定する

ここでは、クライアントPCのWebブラウザーを利用して、本機の各設定をする方法を説明します。

重要

- ❒ 設定を行う前に、本機をネットワーク接続し、本機のIPアドレスを設定します。⇒ P.34「［ネットワーク］の設定手順」
- ❒ 設定した本機のIPアドレスは、**【初期設定】**キーを押して、［ネットワーク］の［1.IPアドレス］の［設定］で確認できます。確認後、［取消］、**【初期設定】**キーを押して戻ってください。
- ❒ 設定を行う前に、スキャナーを接続し、スキャナーの電源を入れてください。スキャナー未接続時は、設定ができません。

IPSiOSCAN BOXにアクセスする

クライアントPCの動作環境

❖ **OS**

- Windows 95/98/98 SE/Me/2000/XP（日本語版）
- Windows NT4.0（日本語版）

❖ **Webブラウザー**

- Microsoft Internet Explorer 4.0、5.0、5.5、6.0（日本語版）

IPSiOSCAN BOXへのアクセス手順

1 クライアントPCのWebブラウザーを起動します。

2 Webブラウザーの［アドレス］欄に「http://」と入力し、続いて本機のIPアドレスを入力し、【Enter】キーを押します。

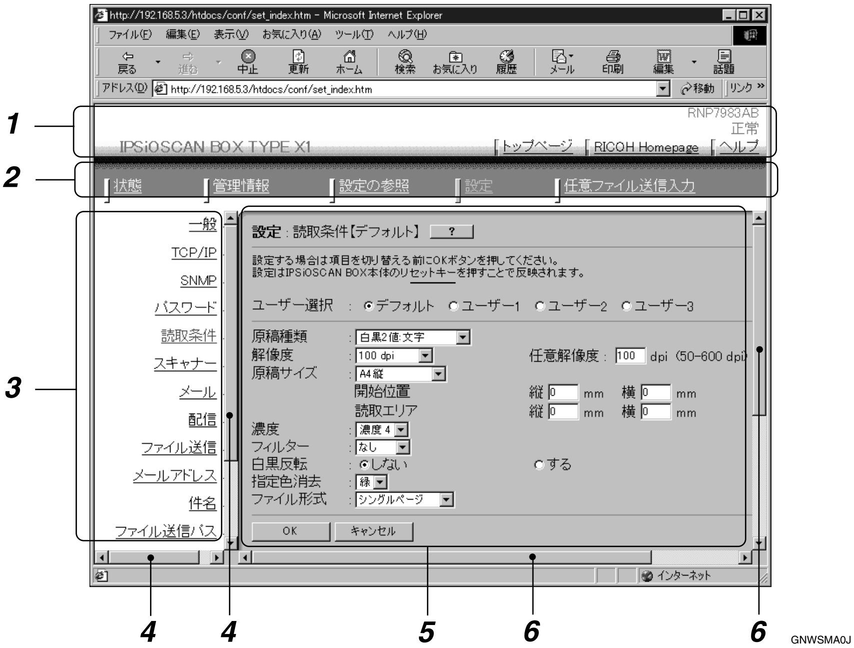
本機にログインし、本機のWebステータスモニターのトップページが表示されます。



補足

- ❒「Webステータスモニター」は、本機の設定を行ったり本機の状態を監視するためのソフトウェアで、本機に内蔵されています。PCにインストールする必要はありません。

Webステータスモニターの画面と操作方法



1. **ヘッダーエリア**
   トップページやヘルプへのリンクボタンがあります。ここをクリックすることにより、どのページが開かれている状態であっても、トップページやヘルプを表示できます。
2. **メインメニュー**
   大分類項目があります。最初に、[状態]〜[任意ファイル送信入力]の中から項目をクリックします。
3. **サブメニュー**
   クリックしたメインメニュー項目に応じたサブメニューが表示されます。サブメニューの中から項目をクリックします。
4. **サブメニュー用のスクロールバー**
   サブメニューの一部が表示されていない場合に、スクロールさせて表示します。
5. **作業エリア**
   クリックしたサブメニューの項目に応じた入力・参照画面が表示されます。
6. **作業エリア用のスクロールバー**
   大きな作業画面では、作業画面の一部が表示しきれない場合があります。縦・横のスクロールバーを使って、作業画面をスクロールさせてください。

重要

- ❒ ブラウザーの[戻る]ボタンで前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザーの[更新]をクリックしてください。メインメニューやサブメニューをクリックしなおすと、入力した内容はクリアされます。
- ❒ ブラウザーで設定しているフォントサイズによっては、一部表示がずれることがあります。「中」以下でお使いになることをお勧めします。

［設定］の操作手順例

ここでは、［読取条件］と［メールアドレス］の設定を例にして、Webステータスモニターの［設定］の操作手順を説明します。



［読取条件］の操作手順

1 メインメニューの［設定］をクリックします。

パスワード入力ダイアログボックスが表示されます。

2 ユーザー名に「ricoh」を入力し、パスワードを入力します。

補足

- ユーザー名は「ricoh」（半角小文字）に固定です。
- パスワードは、工場出荷時に「ricoh」に設定されています。［設定］-［パスワード］で変更可能です。

3 ［OK］をクリックします。

設定画面が表示されます。

4 サブメニューの［読取条件］をクリックします。

5 ［ユーザー選択］の［デフォルト］をクリックしてオンにします。

6 各項目を入力します。

補足

- 最もよく利用する読取条件を［デフォルト］に登録します。メール/ファイル送信時やRidoc配信時に読取条件の指定を省略した場合、ここで［デフォルト］として設定した条件で読み取りが実行されます。

7 ［OK］をクリックします。

補足

- ［OK］をクリックせずに他のページに移動し、もう一度本ページに戻ってから［OK］をクリックしても、設定項目は反映されません。設定を登録・変更したいときは、必ず［OK］をクリックしてから他のページに移動してください。
- ［キャンセル］をクリックすると、変更内容は破棄されます。

8 5の［ユーザー選択］の選択肢を変えながら、必要に応じて6から7を繰り返します。

［メールアドレス］の操作手順

1 メインメニューの［設定］をクリックします。

パスワード入力ダイアログボックスが表示されます。

補足

- ❒ 一度設定をクリックしてパスワードを入力すれば、2 回目からはパスワード入力ダイアログボックスは表示されません。その場合は4に進んでください。

2 ユーザー名に「ricoh」を入力し、パスワードを入力します。

補足

- ❒ ユーザー名は「ricoh」（半角小文字）に固定です。
- ❒ パスワードは、工場出荷時に「ricoh」に設定されています。［設定］-［パスワード］で変更可能です。

3 ［OK］をクリックします。

設定画面が表示されます。

4 サブメニューの［メールアドレス］をクリックします。

5 新規登録、変更、削除、メールアドレス帳の書き出し、一括登録の各作業別に、次の操作をします。

新規登録する場合

❶ ［追加］をクリックします。

❷ 各項目を入力します。

❸ ［OK］をクリックします。

補足

- ❒ ［OK］をクリックせずに他のページに移動し、もう一度本ページに戻ってから［OK］をクリックしても、設定項目は反映されません。設定を登録・変更したいときは、必ず［OK］をクリックしてから他のページに移動してください。
- ❒ ［キャンセル］をクリックすると、入力内容をクリアします。

変更する場合

❶ 変更したいユーザーを画面に表示し、最左端の白丸をクリックして、ユーザーを選択します。

補足

- ❒ ［表示件数］の設定にしたがって画面表示されます。1ページ分（表示件数分）が画面に収まらない場合は、右端のスクロールバーを使ってください。
- ❒ ［次へ］をクリックすると次のページを表示し、［前へ］で前ページを表示します。［先頭］で先頭ページ、［末尾］で最後尾のページに移動します。
- ❒ ［ページ］に任意の数値を入力して［GO］をクリックすると、任意のページに移動します。

❷ ［変更］をクリックします。

❸ 変更したい項目を変更します。

❹ ［OK］をクリックします。

補足

- ❒ ［OK］をクリックせずに他のページに移動し、もう一度本ページに戻ってから［OK］をクリックしても、変更項目は反映されません。設定を登録・変更したいときは、必ず［OK］をクリックしてから他のページに移動してください。
- ❒ ［キャンセル］をクリックすると、変更内容は破棄されます。

2

削除する場合

❶ **削除したいユーザーを画面に表示し、最左端の白丸をクリックして、ユーザーを選択します。**

補足

❒ ［表示件数］の設定にしたがって画面表示されます。1ページ分（表示件数分）が画面に収まらない場合は、右端のスクロールバーを使ってください。

❒ ［次へ］をクリックすると次のページを表示し、［前へ］で前ページを表示します。［先頭］で先頭ページ、［末尾］で最後尾のページに移動します。

❒ ［ページ］に任意の数値を入力して［GO］をクリックすると、任意のページに移動します。

❷ **［削除］をクリックします。**

❸ **確認のダイアログが表示されますので、内容を確認し、よければ［OK］をクリックします。**

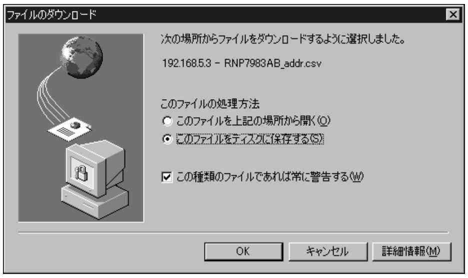
メールアドレス帳の書き出しをする場合

❶ **［書き出し］をクリックします。**

❷ **メールアドレス帳本体を書き出したい場合は、登録エントリー情報の［ダウンロード］をクリックします。**



❸ **「このファイルをディスクに保存する」を選択して［OK］をクリックします。**



補足

❒ この画面はOS（Windows）のバージョンによって異なります。［開く］/［保存］等のボタンがある画面のときは［保存］ボタンをクリックします。

「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

❹ **保存場所とファイル名を指定して、［保存］をクリックします。**

補足

❒ デフォルトのファイル名は、“識別名_addr.csv”になります。「識別名」にはWebステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定した文字列が入ります。

ダウンロードが完了すると、Webステータスモニターの画面に戻ります。

補足

❒ 「ダウンロードが完了したときは、このダイアログボックスを閉じる」にチェックが付いていないときは、［閉じる］をクリックして、Webステータスモニターの画面に戻ってください。

❺ **見出し情報をエクスポートする場合は、機器タグ情報の［ダウンロード］をクリックします。**

❻ **❸～❹と同様の手順でファイルを保存します。**

補足

❒ デフォルトのファイル名は、“識別名_taginfo.csv”になります。「識別名」にはWebステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定した文字列が入ります。

一括登録する場合

制限

- CSV形式（カンマ区切り形式）のファイルの内容を取り込むことができますが、現在のメールアドレス帳を上書きします。必要なデータがある場合は、必ず事前に［書き出し］を行い、そのファイルを表計算ソフトやテキストエディターなどで加工するようにしてください。

参照

CSVファイルの形式については⇒ P.116「メールアドレス一括登録/書き出し時のフォーマット」を参照してください。

❶ **メールアドレス帳として取り込むデータを CSV ファイルにして、ローカルディスクまたは共有フォルダー上に用意します。**

❷ **［取り込み］をクリックします。**

❸ **［参照］をクリックして、用意したCSVファイルを選択します。**



❹ **［OK］をクリックします。**

一括登録確認のダイアログボックスが表示されます。

❺ **［OK］を押します。**



「アドレス帳を一括登録しました。元の画面に戻るためにブラウザの戻るを押してください。」と表示されます。

❻ **Webブラウザーの［戻る］をクリックします。**

補足

- メールアドレスの画面に戻るには、サブメニューの［メールアドレス］をクリックします。

6 **［スキャナー］の［アドレス帳自動更新］を「しない」に設定している場合は、本機を再起動して、追加・変更・削除内容や一括登録内容を本機に反映させます。**

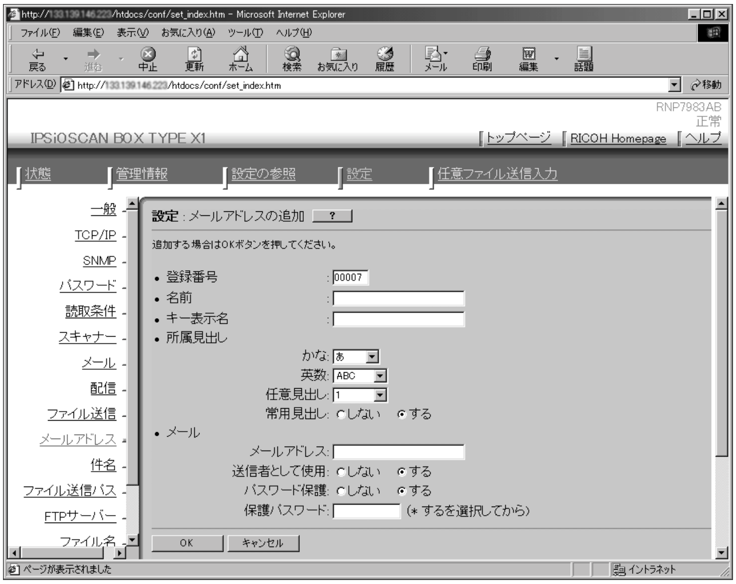
補足

- ［アドレス帳自動更新］を「する」に設定している場合は、［OK］を押した時点で本機に取り込まれます。［あて先］または［送信者］を押すと、更新されたメールのあて先が表示できます。⇒ P.39「アドレス帳自動更新」

あて名として登録する項目

ここでは、Webステータスモニターの設定項目のうち、本機のあて名に使われる［メールアドレス］と［ファイル送信パス］、［FTPサーバー］の各項目について解説します。

そのほかの設定項目については、Webステータスモニターのヘルプを参照してください。



［メールアドレス］の設定項目

❖ 登録番号

メールアドレスごとに00001～50000の整数を割り当てます。新規登録時に、空いている最小値が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ 名前

Web ステータスモニターであて先または送信者を確認するときに判別しやすい名前を、半角20文字（全角10文字）以内で登録します。

❖ キー表示名

IPSiOSCAN BOXの操作部で［あて先］または［送信者］を指定するときに判別しやすい名前を、半角13文字（全角6文字）以内で登録します。新規登録時に、［名前］の先頭から半角13文字分が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ 所属見出し

かな、英数、任意見出しの3種の見出しについて、どこに配置するかを登録します。

- かな
  あ/か/さ/た/な/は/ま/や/ら/わ
- 英数
  ABC/DEF/GHI/JKL/MNO/PQRS/TUV/WXYZ
- 任意見出し
  1/2/3/4/5

重要

❒ 任意見出しを利用する場合は、あらかじめ任意見出しを登録して、IPSiOSCAN BOX を再起動させてください。［メールアドレス］の登録と同時の［任意見出し］の登録はできません。

補足

❒ 各所属見出し内での表示順は、登録順です。たとえば、kobayasiさんを所属見出し「か」で登録したあとに、kawaiさんを所属見出し「か」で登録すると、かな見出しの「か」を使うと、kobayasiさん、kawaiさんの順に表示されます。

❖ **常用見出し**

見出し「常用」に配置するかどうかを登録します。「常用」は、かな見出しでは「あ」の前、英数見出しでは「ABC」の前、任意見出しの先頭に配置されます。

補足

❒ 常用見出し内での表示順は、登録順になります。

❖ **メールアドレス**

@を含めて半角128文字以内で、メールアドレスを登録します。

❖ **送信者として使用**

送信者として使用するかどうかを登録します。送信者として登録すると、IPSiOSCAN BOXの操作部の［送信者］に表示され、メールの送信者として選択が可能になります。

❖ **パスワード保護**

送信者として指定するとき、IPSiOSCAN BOX のテンキーを使ってパスワードの入力を求めるかどうかを設定します。この項目は、［送信者として使用］を「する」に設定した場合に、有効になります。

❖ **保護パスワード**

4～8桁の数字を送信者パスワードとして登録します。この項目は、［パスワード保護］を「する」に設定した場合に、有効になります。

❖ **並び順**

この項目は、変更時のみ表示されます。［あて先］および［送信者］として表示される順番は、通常、登録順となりますが、この順番を入れ替えたいときに［並び順入れ替え］を「する」に指定し、「全件表示」にした場合の新しい表示順を［移動先］に入力します。

補足

❒ たとえば「全件表示」時に30番目に表示されるユーザーを、［移動先］を「5」として並び順入れ替えを行うと、全件表示時に5番目に表示され、以前5番目だったユーザーは 6 番目に移動し、以前 6 番目だったユーザーは 7 番目に移動し … と、以前 29 番目だったユーザーが 30 番目になるまでひとつずつ移動します。

［ファイル送信パス］の設定項目

参照

［ファイル送信パス］の設定手順については、［メールアドレス］の設定手順と同等のため、⇒ P.53 「［メールアドレス］の操作手順」を参照してください。

❖ **登録番号**

共有フォルダーごとに00001～50000の整数を割り当てます。新規登録時に、空いている最小値が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ **ファイル送信パス名**

Web ステータスモニターで送信先を確認するときに判別しやすい名前を、半角 80 文字（全角40文字）以内で登録します。

❖ **キー表示名**

IPSiOSCAN BOXの操作部で［あて先］を指定するときに判別しやすい名前を、半角13文字（全角6文字）以内で登録します。新規登録時に、［ファイル送信パス名］の先頭から半角13文字分が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ **所属見出し**

かな、英数、任意見出しの3種の見出しについて、どこに配置するかを登録します。

- かな
  あ/か/さ/た/な/は/ま/や/ら/わ
- 英数
  ABC/DEF/GHI/JKL/MNO/PQRS/TUV/WXYZ
- 任意見出し
  1/2/3/4/5

重要

❒ 任意見出しを利用する場合は、あらかじめ任意見出しを登録して、IPSiOSCAN BOX を再起動させてください。［ファイル送信パス］の登録と同時の［任意見出し］の登録はできません。

補足

❒ 各所属見出し内の表示順は、登録順になります。

❖ 常用見出し

見出し「常用」に配置するかどうかを登録します。「常用」は、かな見出しでは「あ」の前、英数見出しでは「ABC」の前、任意見出しの先頭に配置されます。

補足

- ❒ 常用見出し内での表示順は、登録順になります。

❖ ファイル送信パス

保存する Wondows 共有フォルダーのパスを、「¥¥コンピューター名¥共有フォルダー名」の形式で指定します。
(例)
共有フォルダーがあるコンピューター：File-Server
共有フォルダー名：shared-space
→ ¥¥File-Server¥shared-space

補足

- ❒ 共有フォルダー名は全角も使用可能ですが、コンピューター名に全角を使用すると識別できません。あらかじめ、登録する共有フォルダーのコンピューター名は半角で設定してください。なお、共有フォルダー側のOSがWindows 2000/XPまたはWindows NT 4.0のいずれかでコンピューター名が全角の場合は、そのコンピューターの IP アドレスを使って、「¥¥xxx.xxx.xxx.xxx¥共有フォルダー名」の形式で指定することもできます。共有フォルダーがある PC の OS が Windows 95/98/98 SE/Meの場合は、IPアドレスでの指定はできません。

❖ ログインユーザー名

共有フォルダーにログインするためのユーザー名を、「ワークグループ名またはドメイン名¥ユーザー名」の形式で入力します。
(例)
ワークグループ名：abcd
ユーザー名：suzuki
→ abcd¥suzuki

補足

- ❒ ファイルサーバー上の共有フォルダーの場合は、そのファイルサーバーにログインできるユーザー名を入力します。
- ❒ Windows 2000/XP、Windows NT 4.0でアクセス権が設定された共有フォルダーの場合は、そのOSのユーザー管理で設定されたユーザー名を入力します。
- ❒ クライアント PC 上の共有フォルダーの場合は、ネットワークにログインするときのユーザー名を入力します。

❖ ログインパスワード

［ログインユーザー名］に対応するパスワードを入力します。入力した文字は＊で表示されます。

補足

- ❒ Windows 95/98/98 SE/Meで共有フォルダーにパスワードが設定されている場合は、そのパスワードを入力します。

❖ テスト

［ファイル送信パス］、［ログインユーザー名］、［ログインパスワード］を入力した状態で、［テスト］ボタンをクリックすると、指定した共有フォルダーに接続できるかどうかのテストができます。

❖ 保護パスワード

あて先として該当フォルダーを選択したときに、不正アクセス防止のためにIPSiOSCAN BOXのテンキーを使って入力するパスワードを登録します。4桁以上8桁以内の数字を登録します。

❖ 並び順

この項目は、変更時のみ表示されます。［あて先］として表示される順番は、通常、登録順となりますが、この順番を入れ替えたいときに［並び順入れ替え］を「する」に指定し、「全件表示」にした場合の新しい表示順を［移動先］に入力します。

補足

- ❒ たとえば「全件表示」時に30番目に表示されるフォルダーを、［移動先］を「5」として並び順入れ替えを行うと、全件表示時に5番目に表示され、以前5番目だったフォルダーは6番目に移動し、以前6番目だったフォルダーは 7 番目に移動し …と、以前29番目だったフォルダーが30番目になるまでひとつずつ移動します。

[FTPサーバー] の設定項目

参照

[FTPサーバー] の設定手順については、[メールアドレス]の設定手順と同等のため、⇒ P.53 「[メールアドレス] の操作手順」を参照してください。

❖ 登録番号

共有フォルダーごとに00001～50000の整数を割り当てます。新規登録時に、空いている最小値が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ FTPサーバー名

Webステータスモニターで送信先を確認するときに判別しやすい名前を、半角80文字（全角40文字）以内で登録します。

❖ キー表示名

IPSiOSCAN BOXの操作部で[あて先]を指定するときに判別しやすい名前を、半角13文字（全角6文字）以内で登録します。新規登録時に、[FTPサーバー名] の先頭から半角13文字分が自動的にセットされますが、変更も可能です。

❖ 所属見出し

かな、英数、任意見出しの3種の見出しについて、どこに配置するかを登録します。

- かな
  あ/か/さ/た/な/は/ま/や/ら/わ
- 英数
  ABC/DEF/GHI/JKL/MNO/PQRS/TUV/WXYZ
- 任意見出し
  1/2/3/4/5

重要

❒ 任意見出しを利用する場合は、あらかじめ任意見出しを登録して、IPSiOSCAN BOXを再起動させてください。[FTPサーバー] の登録と同時の [任意見出し] の登録はできません。

補足

❒ 各所属見出し内の表示順は、登録順になります。

❖ 常用見出し

見出し「常用」に配置するかどうかを登録します。「常用」は、かな見出しでは「あ」の前、英数見出しでは「ABC」の前、任意見出しの先頭に配置されます。

補足

❒ 常用見出し内での表示順は、登録順になります。

❖ FTPサーバーアドレス

送信するFTPサーバーを「FTPサーバー名¥ディレクトリー名」の形式で、178文字以内で指定します。なお、FTP サーバーのホームディレクトリーに指定したディレクトリーがない場合は、ディレクトリーを作成し、その下に画像ファイルを送信します。

（例1）
FTPサーバー名：ftp.abcd.co.jp
ディレクトリー名：news
→ ftp.abcd.co.jp¥news

（例2）
FTPサーバー名：172.16.3.12
ディレクトリー名：news
→ 172.16.3.12¥news

補足

❒ FTPサーバー名は、IPアドレスでも指定できます。

❒ 「¥ディレクトリー名」は省略できません。必ず指定してください。

❒ ポート番号21以外で接続するときは、FTPサーバー名の後に「:」を付けてポート番号（10進数）を付加してください。指定がない場合は、デフォルト値の21番で接続します。

❖ ログインユーザー名

FTPサーバーにログインするためのユーザー名を入力します。

補足

❒ Webステータスモニターでは20文字までとなっていますので、FTPサーバー側で20文字以内で設定してください。

❖ **ログインパスワード**

［ログインユーザー名］に対応するFTPサーバーのパスワードを入力します。入力した文字は＊で表示されます。

補足

❒ Webステータスモニターでは14文字までとなっていますので、FTPサーバー側で14文字以内で設定してください。

❖ **テスト**

［FTP サーバーアドレス］、［ログインユーザー名］、［ログインパスワード］を入力した状態で、［テスト］ボタンをクリックすると、指定したFTPサーバーに接続できるかどうかのテストができます。

❖ **PASVモード**

ファイアウォールやルーターのパケットフィルタリングの設定によって、PORTモードでの接続ができない場合は、PASVモードを「あり」に設定し、制御用の21番ポートのほかにファイアウォールなどが許したデータ転送用のポートを使います。

制限

❒ プロキシサーバー経由でのFTPサーバーへのアクセスはできません。

❖ **保護パスワード**

あて先として該当FTPサーバーを選択したときに、不正アクセス防止のためにIPSiOSCAN BOXのテンキーを使って入力するパスワードを登録します。4桁以上8桁以内の数字を登録します。

❖ **並び順**

この項目は、変更時のみ表示されます。［あて先］として表示される順番は、通常、登録順となりますが、この順番を入れ替えたいときに［並び順入れ替え］を「する」に指定し、「全件表示」にした場合の新しい表示順を［移動先］に入力します。

補足

❒ たとえば「全件表示」時に30番目に表示されるFTPサーバーを、［移動先］を「5」として並び順入れ替えを行うと、全件表示時に5番目に表示され、以前5番目だったFTPサーバーは6番目に移動し、以前6番目だったFTPサーバーは7番目に移動し…と、以前29番目だったFTPサーバーが30番目になるまでひとつずつ移動します。

設定の確認

設定した内容は、Webブラウザー上（Webステータスモニター）で確認できます。



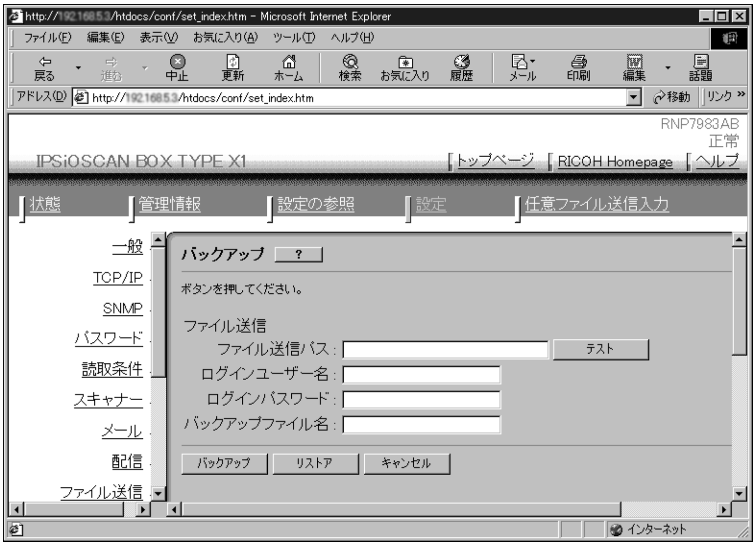
確認操作の手順

1 **メインメニューの［設定の参照］をクリックします。**

2 **サブメニューから参照したい項目をクリックします。**

設定のバックアップとリストア（復元）

読取条件など設定した内容を、ファイルとしてネットワーク上の共有フォルダーに保存できます。なんらかの理由により設定内容が失われた場合に、そのファイルを使って設定内容を元に戻すことができます。また、本システムが複数ある場合には、1台分のみ設定し、設定内容をほかのIPSiOSCAN BOXにコピーすることもできます。



バックアップ/リストアの対象項目

Webステータスモニターの［バックアップ］を除いた［設定］メニュー内のすべての項目が対象となります。

Web ブラウザーを使わずに、本機の操作部から設定した項目であっても、［設定］メニュー内にある項目であれば、バックアップ/リストアの対象となります。ただし、日付設定のように、Webステータスモニターの［設定］にない項目は対象となりません。

バックアップ/リストアする項目を、個別に選択することはできません。

補足

- ❒ 他のIPSiOSCAN BOXにコピーするために使う場合は、IPアドレス等のネットワーク設定もリストアされることに留意してください。

バックアップ時の操作手順

1 メインメニューの［設定］をクリックします。

パスワード入力ダイアログボックスが表示されます。

補足

- ❒ 一度設定をクリックしてパスワードを入力すれば、2 回目からはパスワード入力ダイアログボックスは表示されません。その場合は4に進んでください。

2 ユーザー名に「ricoh」を入力し、パスワードを入力します。

補足

- ❒ ユーザー名は「ricoh」（半角小文字）に固定です。
- ❒ パスワードは、工場出荷時に「ricoh」に設定されています。［設定］-［パスワード］で変更可能です。

3 **［OK］をクリックします。**

設定画面が表示されます。

4 **サブメニューの［バックアップ］をクリックします。**

5 **各項目を入力します。**

❖ **ファイル送信パス**

バックアップファイルを保存する共有フォルダーを指定します。「¥¥コンピューター名¥共有フォルダー名」の形式で指定します。

補足

❒ 共有フォルダー名は全角も使用可能ですが、コンピューター名に全角を使用すると識別できません。あらかじめ、保存先のコンピューター名は半角で設定してください。ただし、保存先コンピューターのOSがWindows 2000/XP、Windows NT 4.0のいずれかの場合は、そのコンピューターのIPアドレスを使って、「¥¥xxx.xxx.xxx.xxx¥共有フォルダー名」の形式で指定することもできます。保存先コンピューターのOSがWindows 95/98/98 SE/Meの場合は、IPアドレスでの指定はできません。

❖ **ログインユーザー名**

共有フォルダーにログインするためのユーザー名を、「ワークグループ名またはドメイン名¥ユーザー名」の形式で入力します。

補足

❒ ファイルサーバー上の共有フォルダーの場合は、そのファイルサーバーにログインできるユーザー名を入力します。

❒ クライアントPC上の共有フォルダーの場合は、ネットワークにログインするときのユーザー名を入力します。

❖ **ログインパスワード**

［ログインユーザー名］に対応するパスワードを入力します。入力した文字は＊で表示されます。

補足

❒ Windows 95/98/98 SE/Meで共有フォルダーにパスワードが設定されている場合は、そのパスワードを入力します。

❖ **テスト**

［ファイル送信パス］、［ログインユーザー名］、［ログインパスワード］を入力した状態で、［テスト］ボタンをクリックすると、設定した共有フォルダーに接続できるかどうかのテストができます。

❖ **バックアップファイル名**

保存するバックアップファイルのファイル名を指定します。ファイル名は半角20文字（全角10文字）以内で指定します。

6 **［バックアップ］ボタンをクリックします。**

補足

❒ ［キャンセル］をクリックすると、入力内容をクリアします。

「バックアップに成功しました」と表示されます。

7 **Windowsのエクスプローラーを使って、指定した共有フォルダーに指定ファイルが作成されていることを確認します。**

リストア時の操作手順

1 メインメニューの［設定］をクリックします。

パスワード入力ダイアログボックスが表示されます。

補足

❒ 一度設定をクリックしてパスワードを入力すれば、2 回目からはパスワード入力ダイアログボックスは表示されません。その場合は4に進んでください。

2 ユーザー名に「ricoh」を入力し、パスワードを入力します。

補足

❒ ユーザー名は「ricoh」（半角小文字）に固定です。

❒ パスワードは、工場出荷時に「ricoh」に設定されています。［設定］-［パスワード］で変更可能です。

3 ［OK］をクリックします。

設定画面が表示されます。

4 サブメニューの［バックアップ］をクリックします。

5 各項目を入力します。

❖ **ファイル送信パス**

バックアップファイルが保存されている共有フォルダーを指定します。「¥¥ コンピューター名 ¥ 共有フォルダー名」の形式で指定します。

補足

❒ 保存元コンピューターのOSがWindows 2000/XP、Windows NT 4.0のいずれかの場合は、そのコンピューターのIPアドレスを使って、「¥¥xxx.xxx.xxx.xxx¥共有フォルダー名」の形式で指定することもできます。保存元コンピューターのOSがWindows 95/98/98 SE/Meの場合は、IPアドレスでの指定はできません。

❖ **ログインユーザー名**

共有フォルダーにログインするためのユーザー名を、「ワークグループ名またはドメイン名 ¥ ユーザー名」の形式で入力します。

補足

❒ ファイルサーバー上の共有フォルダーの場合は、そのファイルサーバーにログインできるユーザー名を入力します。

❒ クライアントPC上の共有フォルダーの場合は、ネットワークにログインするときのユーザー名を入力します。

❖ **ログインパスワード**

［ログインユーザー名］に対応するパスワードを入力します。入力した文字は＊で表示されます。

補足

❒ Windows 95/98/98 SE/Meで共有フォルダーにパスワードが設定されている場合は、そのパスワードを入力します。

❖ **テスト**

［ファイル送信パス］、［ログインユーザー名］、［ログインパスワード］を入力した状態で、［テスト］ボタンをクリックすると、設定した共有フォルダーに接続できるかどうかのテストができます。

❖ **バックアップファイル名**

保存したバックアップファイルのファイル名を指定します。

6 ［リストア］ボタンをクリックします。

補足

❒ ［キャンセル］をクリックすると、入力内容をクリアします。

「リストアに成功しました」と表示されます。

7 IPSiOSCAN BOXの電源をOFF/ONします。

リストアした内容が反映されます。

ソフトウェアをインストールする

本機に接続したスキャナーをネットワークTWAINスキャナーとして利用するためには、使用するPCにネットワークスキャナードライバー（RICOHネットワークTWAIN ドライバー）をインストールする必要があります。

また、Ridoc配信機能を利用するには、配信サーバーとなるPC上に「Ridoc Document Router Lt」（または「Ridoc Document Router」、「Ridoc Document Router Pro」）をインストールします。配信された画像データを閲覧するためには、クライアントPC上に「Ridoc Desk 2000 Lt」（または「Ridoc Desk 2000」）をインストールします。

CD-ROMの構成

ドライブ	ルート	サブディレクトリー1	サブディレクトリー2	サブディレクトリー3	サブディレクトリー4	説明
CD-ROMドライブ	Setup.exe ほか					自動起動用のインストーラーです。
	DRIVERS	TWAIN	(スキャナー別にフォルダーがあります。)	Setup.exe ほか		各スキャナーのネットワークTWAINドライバーです。
	UTILITY	RDROUTER	RtLaunch.exe ほか			Ridoc Document Router Ltです。
		RIDOCDSK	RDLaunch.exe ほか			Ridoc Desk 2000 Ltです。
	NETWORK	RIDOCIO	ADMIN	DISK1	Setup.exe ほか	Ridoc I/O Adminです。
			NAVI	DISK1	Setup.exe ほか	Ridoc I/O Naviです。
			BMPINST	DISK1	Setup.exe ほか	インストール用のBMPファイルなどです。
	SETUP	main.bmp ほか				自動起動用のBMPファイルなどです。

ネットワークTWAINドライバーをインストールする

ネットワークTWAINドライバーの動作環境

本機に接続したスキャナーをネットワークTWAINスキャナーとして利用するPCは、以下の条件を満たしてください。

（「推奨」は連結スキャナーでカラー1677万色を読み取るための環境です。）

- コンピューター本体
  PC/AT 互換機
- CPU
  Pentium 以上 （Celeron 、Pentium Ⅱ、Ⅲ以上推奨）
- メインメモリー
  OS 最低動作メモリー＋ 8M バイト（128M バイト以上推奨）
- ハードディスク空き容量
  100M バイト以上（1G バイト以上推奨）
- ディスプレイ
  800 × 600 ドット256 色以上（カラー1677 万色以上推奨）
- 対象OS
  Windows 95/98/98 SE/Me/2000/XP、Windows NT 4.0（Service Pack 5 以上）、Windows Server 2003

制限

❒ TWAINドライバーがVer.3の場合、Windows Server 2003使用時、プレビュー機能は使用できません。

ネットワークTWAINドライバーのインストール手順

1 「スキャナードライバー&ユーティリティー」CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

「スキャナードライバー＆ユーティリティー」のメインメニュー画面が表示されます。

補足

❒ CD-ROMは、Windowsが起動している状態でセットします。CD-ROMをセットしたままWindowsを起動したときは、起動後に CD-ROM をセットしなおしてください。

インストーラーが自動的に起動しない場合

❶ **［スタート］ボタンの中の［ファイル名を指定して実行］を開きます。**

❷ **［名前］に「D:¥Setup.exe」（CD-ROMドライブがD: の場合）と入力し、［OK］をクリックします。**

2 接続されているスキャナー名のボタンをクリックします。

各スキャナーのインストーラーが起動しますので、画面の指示にしたがってインストールをしてください。

インストールを完了したPCでは、TWAIN対応アプリケーションソフトを使って、本機に接続したスキャナーからの読み取りが可能になります。

補足

❒ インストール終了後、［スタート］メニューの［プログラム］に［RICOH TWAIN for ○○］（○○にはご使用のスキャナー名が表示されます）メニューが作成され、ここからヘルプを表示できます。また、「Readme.txt 」には、ネットワーク TWAIN スキャナーを使ううえでの注意事項などが書かれていますので、使用する前に必ずお読みください。

Ridoc Document Router Ltをインストールする

Ridoc Document Router Ltの動作環境

Ridoc Document Router Ltをインストールするコンピューター（Ridoc配信サーバー）は、以下の条件を満たしてください。

- コンピューター本体
  PC/AT 互換機
- CPU
  Pentium 200MHz以上（Pentium II 350MHz以上を推奨）
- メインメモリー
  OS 最低動作メモリー（128M バイト以上を推奨）
- ハードディスク空き容量
  インストール用に200M バイト以上、文書保存先には500Mバイト以上
- ディスプレイ
  800 × 600 ドット65,536色以上
- 対象OS
  Windows 98/98 SE/Me/2000（Service Pack 1以上）/XP、Windows NT 4.0 （Service Pack 5 以上）

制限

- ❒ メールサーバー、Webサーバー、データベース等として使用しているコンピューターにはインストールしないでください。
- ❒ リモートSCANがインストールされているコンピューターにはインストールできません。
- ❒ リモートSCAN-Ltがインストールされているコンピューターにインストールすると、リモート SCAN-Lt がアンインストールされます。
- ❒ すでにRidoc Document Router Ltの配信管理ツールがインストールされているコンピューターにインストールする場合は、Ridoc Document Router Ltの配信管理ツールをアンインストールしてください。

Ridoc Document Router Lt関連の説明書

補足

- ❒ PDF形式の説明書を表示するには、Adobe Acrobat Readerが必要です。Acrobat Readerは、Ridoc Document Router LtまたはRidoc Desk 2000 Ltのセットアップ画面からインストールできます。

❖ Ridoc Document Router Ltセットアップガイド（PDF）

Ridoc Document Router Ltの動作環境の詳細、インストールと初期設定のしかたが記載されています。Ridoc Document Router Ltのインストール時にセットアップ画面から表示します。

❖ Ridoc Document Router Lt管理者ガイド（PDF）

Ridoc Document Router Ltの機能概要と配信サーバーの管理･運用のしかたが記載されています。Ridoc Document Router Ltをインストールすると、スタートメニューに登録されます。

Ridoc Document Router Ltのインストール手順

操作の前に

インストール前の準備やインストール手順の詳細については、『Ridoc Document Router Lt セットアップガイド』を参照してください。

1 「スキャナードライバー&ユーティリティー」CD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブにセットします。

「スキャナードライバー&ユーティリティー」のメインメニュー画面が表示されます。

補足

- ❒ CD-ROMは、Windowsが起動している状態でセットします。CD-ROMをセットしたままWindowsを起動したときは、起動後に CD-ROM をセットしなおしてください。

インストーラーが自動的に起動しない場合

1. **[スタート]の[ファイル名を指定して実行]を開きます。**
2. **[名前]に「D:¥Setup.exe」(CD-ROMドライブがD: の場合)と入力し、[OK]をクリックします。**

2 [スキャンデータ配信ソフトRidoc Document Router Lt]ボタンをクリックします。

Ridoc Document Router Ltのセットアップ画面が表示されます。

3 [Ridoc Document Router Lt]ボタンをクリックします。

補足

- ❒ [セットアップガイド]ボタンをクリックすると、『セットアップガイド』(PDF形式)が表示されます。
- ❒ [Acrobat Reader]ボタンをクリックすると、Adobe Acrobat Readerがインストールされます。

Ridoc Document Router Ltのインストールが始まりますので、画面の指示にしたがってインストールをしてください。

配信管理ツールのインストール手順

クライアントPCに、配信管理ツールをインストールして、クライアントPCから配信サーバーを管理することができます。

補足

- ❒ Ridoc Document Router Ltがすでにインストールされている配信サーバーには、配信管理ツールを個別にインストールする必要はありません。

1 「スキャナードライバー&ユーティリティー」CD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブにセットします。

「スキャナードライバー&ユーティリティー」のメインメニュー画面が表示されます。

補足

- ❒ CD-ROMは、Windowsが起動している状態でセットします。CD-ROMをセットしたままWindowsを起動したときは、起動後に CD-ROM をセットしなおしてください。

インストーラーが自動的に起動しない場合

1. **[スタート]の[ファイル名を指定して実行]を開きます。**
2. **[名前]に「D:¥Setup.exe」(CD-ROMドライブがD: の場合)と入力し、[OK]をクリックします。**

2 [スキャンデータ配信ソフトRidoc Document Router Lt]ボタンをクリックします。

Ridoc Document Router Ltのセットアップ画面が表示されます。

3 [配信管理ツール]ボタンをクリックします。

配信管理ツールのインストールが始まりますので、画面の指示にしたがってインストールをしてください。

Ridoc Desk 2000 Ltをインストールする

Ridoc Desk 2000 Ltは、本機のRidoc配信機能で配信された画像データやその他のイメージファイル、アプリケーションソフトで作成したファイルなど、多様なデータを1つの文書として管理・印刷することができるソフトウェアです。

Ridoc Desk 2000 Ltの動作環境

Ridoc Desk 2000 Ltをインストールするクライアント PCは、以下の条件を満たしてください。

- コンピューター本体
  PC/AT 互換機
- CPU
  Pentium 133MHz以上 （Pentium 266MHz以上を推奨）
- メインメモリー
  48Mバイト以上（64M バイト以上を推奨）
- ハードディスク空き容量
  50M バイト以上、（200Mバイト以上を推奨）
- ディスプレイ
  800 × 600 ドット65,536色以上
- 対象OS
  Windows 95(OSR2以上)/98/98 SE/Me/2000/XP、Windows NT 4.0 （Service Pack 5 以上）

Ridoc Desk 2000 Lt関連の説明書

補足

❒ PDF 形式の説明書を表示するには、Adobe Acrobat Readerが必要です。Acrobat Readerは、Ridoc Document Router LtまたはRidoc Desk 2000 Ltのセットアップ画面からインストールできます。

❖ **Ridoc Desk 2000 Ltセットアップガイド（PDF）**
Ridoc Desk 2000 Ltの動作環境の詳細、インストールのしかたが記載されています。Ridoc Desk 2000 Ltのインストール時にセットアップ画面から表示します。

❖ **Ridoc Desk 2000 Ltはじめてガイド（PDF）**
Ridoc Desk 2000 Ltの機能概要と使いかたが記載されています。Ridoc Desk 2000 Ltをインストールすると、スタートメニューに登録されます。

❖ **Ridoc Auto Documentリンクガイド（PDF）**
Ridoc Desk 2000 Ltとともにインストールされる「Ridoc Auto Documentリンク」の機能と操作のしかたが記載されています。Ridoc Desk 2000 Ltをインストールすると、スタートメニューに登録されます。

Ridoc Desk 2000 Ltのインストール手順

1 「スキャナードライバー&ユーティリティー」CD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブにセットします。

「スキャナードライバー&ユーティリティー」のメインメニュー画面が表示されます。

補足

❒ CD-ROMは、Windowsが起動している状態でセットします。CD-ROMをセットしたままWindowsを起動したときは、起動後にCD-ROMをセットしなおしてください。

インストーラーが自動的に起動しない場合

1. **［スタート］の［ファイル名を指定して実行］を開きます。**
2. **［名前］に「D:¥Setup.exe」（CD-ROMドライブがD: の場合）と入力し、［OK］をクリックします。**

2 ［個人文書管理ソフトRidoc Desk 2000 Lt］ボタンをクリックします。

Ridoc Desk 2000 Ltのセットアップ画面が表示されます。

3 ［Ridoc Desk 2000 Lt］ボタンをクリックします。

補足

- ❒［セットアップガイド］ボタンをクリックすると､『セットアップガイド』(PDF形式）が表示されます。
- ❒［Acrobat Reader］ボタンをクリックすると､Adobe Acrobat Readerがインストールされます。

Ridoc Desk 2000 Ltのインストールが始まりますので、画面の指示にしたがってインストールをしてください。

Ridoc I/O AdminとRidoc I/O Naviをインストールする

Ridoc I/O AdminとRidoc I/O Naviについて

｢Ridoc I/O Admin｣は､IPアドレスを持つネットワーク上の複数のスキャナーやプリンターを効率よく管理するためのユーティリティーソフトです。必要に応じて管理者用コンピューターにインストールします。

｢Ridoc I/O Navi｣は､IPアドレスを持つネットワーク上の複数のプリンターやスキャナーを有効に使いこなすためのユーティリティーソフトです。必要に応じてクライアントPCにインストールします。

	Ridoc I/O Admin	Ridoc I/O Navi	本機のWebステータスモニター
管理対象	ネットワーク上の複数のスキャナーやプリンター	ネットワーク上の複数のスキャナーやプリンター	本機および連結スキャナー
スキャナーに関する管理項目	• 識別名の変更 *1 • IPアドレスの変更 *1 • 状態の表示	• 状態の表示	識別名やIPアドレスの変更、状態の表示のほか、多岐にわたる詳細項目の管理が可能⇒ P.22 「設定項目一覧」
インストール	管理者用PCにインストールする	各クライアントPCにインストールする	不要

*1 **本機の場合､Ridoc I/O Adminのイーサネットボード設定ツールは利用できません（識別名およびIPアドレスは変更できません）。他のI/O機器の識別名、IPアドレスの変更は可能です。**

Ridoc I/Oのインストール手順

1 「スキャナードライバー&ユーティリティー」CD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブにセットします。

「スキャナードライバー&ユーティリティー」のメインメニュー画面が表示されます。

補足

❒ CD-ROMは、Windowsが起動している状態でセットします。CD-ROMをセットしたままWindowsを起動したときは、起動後にCD-ROMをセットしなおしてください。

インストーラーが自動的に起動しない場合

❶ **［スタート］の［ファイル名を指定して実行］を開きます。**

❷ **［名前］に「D:¥Setup.exe」（CD-ROMドライブがD: の場合）と入力し、［OK］をクリックします。**

2 ［Ridoc I/O Admin］ボタンまたは［Ridoc I/O Navi］ボタンをクリックします。

Ridoc I/O AdminまたはRidoc I/O Naviのインストールが始まりますので、画面の指示にしたがってインストールをしてください。

補足

❒ インストール終了後、［スタート］ボタンの［プログラム］に、［Ridoc I/O Admin］または［Ridoc I/O Navi］メニューが作成され、ここから各ヘルプを表示できます。また、「Readme.txt」には、各ソフトウェアを使ううえでの注意事項などが書かれていますので、使用する前に必ずお読みください。

3. ネットワークTWAINスキャナーとして使う

ネットワークTWAINドライバーの使いかたは、TWAINドライバーの使いかたとほぼ同等です。ここでは、TWAINドライバーの使いかたと異なる点を中心に、ネットワークTWAINドライバーの使いかたを説明します。

ネットワークTWAINスキャナーの使用手順の概要

ネットワーク上のPCから、本機の連結スキャナーをTWAIN入力機器として使用して、画像を読み込むときの手順の流れを示します。なお、下線は、TWAINドライバー使用時（SCSI接続時）と異なる作業を示します。

手順	説明
TWAIN対応アプリケーションソフトを起動する	アプリケーションによってメニュー名等が異なります。 ⇒ P.74 「Ridoc Desk 2000 Ltで読み取る」❶
↓	
対応TWAINドライバーを選択する	アプリケーションによってメニュー名や操作が異なります。 ⇒ P.74 「Ridoc Desk 2000 Ltで読み取る」❷〜❺
↓	
対応TWAINドライバー（スキャナーコントロールダイアログ）を起動する	アプリケーションによってメニュー名や操作が異なります。 ⇒ P.74 「Ridoc Desk 2000 Ltで読み取る」❻
↓	
選択したネットワークTWAINドライバーを使う機器が複数ある場合は、使用する機器を選択する	⇒ P.74 「Ridoc Desk 2000 Ltで読み取る」❼〜❽
↓	
スキャナーに原稿をセットする	スキャナーの取扱説明書をご覧ください。
↓	
読取条件等を設定する	ネットワークTWAINドライバーのヘルプを参照してください。
↓	
TWAINドライバーの［スキャン］ボタンをクリックする	⇒ P.74 「Ridoc Desk 2000 Ltで読み取る」⓫
↓	
TWAIN対応アプリケーションソフトで加工・保存する	各アプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

Ridoc Desk 2000 Ltで読み取る

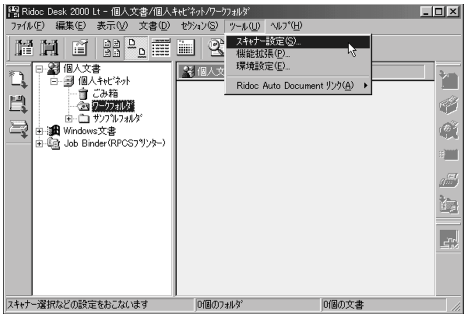
ここでは、TWAIN 対応アプリケーションとして、同梱のRidoc Desk 2000 Ltを使用して、ネットワークTWAINドライバーを使った操作手順を説明します。

1 Windowsの［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］をポイントし、［RICOH Ridoc Desk 2000］から［Ridoc Desk 2000］をクリックします。

Ridoc Desk 2000 Ltが起動します。



2 ［ツール］メニューの［スキャナー設定］をクリックします。



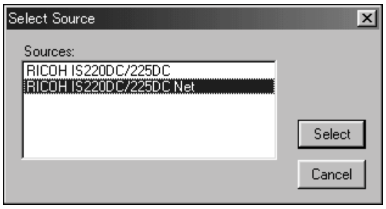
スキャナー設定ダイアログボックスが表示されます。

3 ［スキャナー選択］ボタンをクリックします。



Select Sourceダイアログボックスに、クライアントPCにインストールされているTWAINドライバーが表示されます。

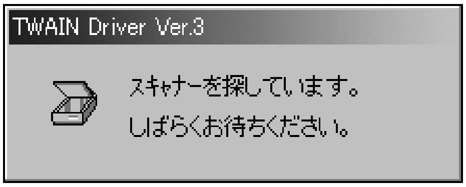
4 ［Source］ボックス内から、使用するネットワークTWAINドライバーを反転表示させて、［Select］ボタンをクリックします。



5 スキャナー設定ダイアログボックスの［OK］ボタンをクリックします。

6 ［ファイル］メニューの［文書登録］をポイントし、［スキャン］をクリックします。

4で選択したネットワークTWAINドライバーに対応するスキャナーの検索が行われます。



しばらくすると、ネットワークTWAINドライバーでスキャナーを操作するダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを「スキャナーコントロールダイアログ」と呼びます。



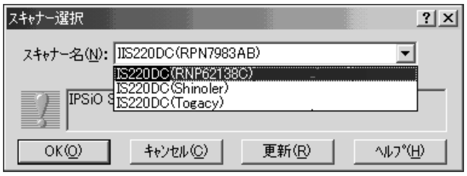
補足

- ❒ タイトルバーには、現在選択されているドライバー名と、接続されているスキャナー名とIPSiOSCAN　BOXの識別名が表示されます。

7 同じネットワークTWAINドライバーを使うIPSiOSCAN BOXまたはスキャナーが、ネットワーク上に複数ある場合は、スキャナーコントロールダイアログの［スキャナー選択］ボタンをクリックします。

スキャナー選択ダイアログボックスが表示されます。

8 使用するIPSiOSCAN BOXを選択し、[OK]ボタンをクリックします。



補足

- ❒ スキャナー名の後ろの（ ）内に、Webステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定した名称が表示されています。工場出荷時の値は、RNP******（******はIPSiOSCAN BOXの物理アドレスの下6桁）です。
- ❒ 目的のIPSiOSCAN BOXがリストに表示されないときは、IPSiOSCAN BOXが正しくネットワークに接続され、IPアドレスが正しく設定されているかどうか、使用しているクライアントPCがアクセスコントロールされていないかどうかを確認してください。それでもリストに表示されない場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

9 スキャナーに原稿をセットします。

10 スキャナーコントロールダイアログを使って、読取条件等を設定します。

参照

読取条件の詳細については、スキャナーコントロールダイアログのヘルプを参照してください。

制限

- ❒ ネットワークTWAINドライバーVer.3でWindows Server 2003を使用している場合は、プレビュー機能が使用できません。

11 スキャナーコントロールダイアログの［スキャン］ボタンをクリックします。

スキャナーから原稿が読み取られます。

補足

- ❒ スキャナーコントロールダイアログの［スキャナーのスタートキーで開始］にチェックが入っているときは、IPSiOSCAN BOXの**【スタート】**キーを押してください。ただし、連結スキャナーによっては、スキャナーの**【スタート】**キーの場合があります。同梱の別紙『連結スキャナー別機能差異表』でご確認ください。

12 ［ファイル］メニューの［終了］をクリックし、保存する文書名を入力して、[OK]をクリックします。

Ridoc Deskビューアが閉じ、Ridoc Desk 2000 Ltにイメージが保存されます。

読み取った原稿を編集・印刷するには

Ridoc Desk 2000 Ltでは、読み取った原稿を編集したり印刷したりすることもできます。詳しい操作方法については、『Ridoc Desk 2000 Ltはじめてガイド』を参照してください。

ここでは、接続されたスキャナーから原稿を読み取って、メールの添付ファイルとして送信する機能の使いかたについて説明します。

メール送信の概要

メールで送信するための手順を流れ図で示します。なお、下線は必須作業項目です。本機から行う各種指定のうち、「［あて先］［To:］の指定」のみが必須となります。

手順	参照
スキャナーに原稿をセットする	⇒ P.79 「スキャナーに原稿をセットする」
［あて先］［To:］の指定をする	⇒ P.80 「To:を指定する」
［Cc:］の指定をする	⇒ P.81 「Cc:を指定する」
［件名］の指定をする	⇒ P.81 「件名を指定する」
［読取条件］の指定をする	⇒ P.82 「読取条件を指定する」
［送信者］の指定をする	⇒ P.84 「送信者を指定する」
［原稿面］の指定をする	⇒ P.85 「原稿面を指定する」
本機の**【スタート】**キーを押す	⇒ P.86 「読み取りを開始する」
Webブラウザーで送信の確認をする	⇒ P.88 「送信の確認をする」

送信されるメール内容について

送信者

- メール送信時に、本機から［送信者］の指定を行った場合は、指定されたユーザーが送信者になります。

補足

❒ 送信者として本機に表示するには、［設定］-［メールアドレス］の［送信者として使用］を「する」にします。

- ［設定］-［メール］の［送信者初期値］を「管理者アドレス」に設定し、メール送信時に本機から送信者の指定を行わなかったときは、登録した管理者が送信者になります。

補足

❒ ［設定］-［メール］の［送信者初期値］を「しない」に設定した場合は、メール送信時に［送信者］を指定してください。

メールの件名

- メール送信時に、本機から［件名］の指定を行った場合は、指定した件名がメールの件名になります。
- メール送信時に、［件名］の指定を行わなかった場合は、メールに件名は付きません。（メールソフトによって「no subject」等になります。）

読み取った画像ファイル

読み取った画像ファイルはメールの添付ファイルになります。ファイル名は、“SDOC0001.拡張子”で、「シングルページ」形式で複数枚の原稿を送信した場合は、“SDOC0002.jpg”、“SDOC0003.jpg”のように、順次カウントアップした複数のファイルが添付されます。

補足

❒ 画像ファイルは、［読取条件］の［ファイル形式］で設定した形式で送信されます。⇒ P.46「ファイル形式」

メールの本文

メールには、読み取った画像データがファイルとして添付されるだけでなく、次のような情報が本文として送信されます。

補足

❒ 本文の変更はできません。

❖ 冒頭文

1行目に「このメールは、『識別名』（機器モデル名）から送信されたものです。」という文章が入ります。

補足

❒ 「識別名」には、Webステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定した文字が入ります。

❒ 「機器モデル名」には、自動取得した本機のプロダクトIDが入ります。

❖ 読み取り日時

2行目には、スキャンを実行した年月日時刻が「2003.09.01 15:00:00 +0900」のような形式で入ります。

補足

❒ 年月日時刻は、**【初期設定】**キーの［スキャナー］の［4.日付設定］で合わせます。

❒ 「+0900」は、GMT（グリニッジ標準時）からの差異時間で、Webステータスモニターの［設定］-［メール］の［タイムゾーン］で設定した文字が入ります。

❖ 問い合わせ先

Webステータスモニターの［設定］-［メール］の［送信者初期値］を「管理者アドレス」に設定した場合、［管理者メールアドレス］に登録したメールアドレスが問い合わせ用に3行目に入ります。

［送信初期値］が「なし」に設定されていて、管理者メールアドレスが登録されていない場合は、問い合わせ先は省略されます。

スキャナーに原稿をセットする

ADF（自動原稿送り装置）や原稿ガラスへの原稿のセットの方法や、原稿としてセットできる用紙等については、スキャナーの取扱説明書を参照してください。ここでは、本機のメール送信機能を利用するときの注意点を説明します。

メール送信モードについて

メール送信機能を使う場合は、［機能選択］で「ファイル送信/TWAIN」を設定します。

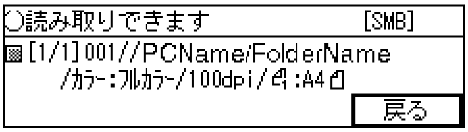
また、ネットワークTWAINスキャナーとして利用しているとき、および任意ファイル送信入力を利用しているときは、メール送信機能は使えません。メール送信機能が使用できる状態になってから、スキャナーに原稿をセットしてください。

- 本機の画面に「PC とネットワークで接続されています」と表示されている場合は、クライアント PC からネットワーク TWAIN 機能で読取中です。
- 本機の画面に「読取できます。原稿をセットして、PC から読取条件をセットしてください」と表示されている場合は、ネットワークTWAIN機能の待機画面です。［接続解除］を押して、メール/ファイル送信待機画面にします。

参照

⇒ P.17 「機能選択と待機画面」

- 本機の画面2行目にファイル送信パス名が表示されている場合は、［任意ファイル送信入力］の待機画面です。［戻る］を押して、メール/ファイル送信待機画面にします。



原稿のセット場所について

本機の配信/送信機能を利用するときは、ADFとフラットベット（原稿ガラス）の双方を装備したスキャナーの場合にも、セット場所を指定する必要がありません。

ADFに原稿がセットされているときはADF、原稿ガラスに原稿がセットされているときは原稿ガラスから、原稿が読み取られます。両方にセットされている場合は、ADFの原稿を読み取ります。

原稿の向きと読取面について

両面の読み取りや、原稿の向きが指定できるスキャナーの場合、本機の［原稿面］で指定します。

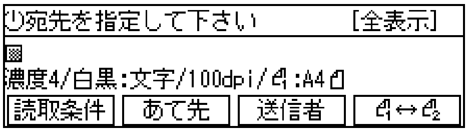
⇒ P.85 「原稿面を指定する」

あて先を指定する

あて先の指定をします。登録してある中から、100 件までに同時に送ることができます。Cc で送る相手先と、送信メールの件名もここで指定できます。

To:を指定する

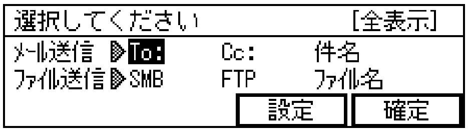
1 **［あて先］を押します。**



補足

❒ ［スキャナー］の［アドレス帳自動更新］を「する」に設定している場合は、あて先を更新します。⇒ P.39「アドレス帳自動更新」

2 **［To:］が選択されていることを確認して、［設定］を押します。**

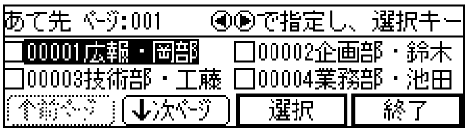


補足

❒ To:が選択されていないときは、【◁】または【▷】キーで反転状態にします。

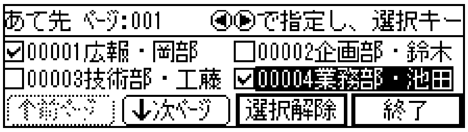
メールのあて先が表示されます。

3 **【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を押して、送信相手を反転状態にし、［選択］を押します。**



選択したあて先にチェックが付きます。

4 **複数の人に送信する場合は、続けて別の送信相手を反転状態にして［選択］を押します。**



補足

❒ あて先から外したいときには、該当の送信相手を反転状態にして、［選択解除］を押します。

見出しを使ってあて先を検索する

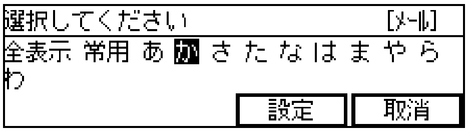
❶ **【./＊】（見出し）キーを押します。**

見出しが表示されます。

補足

❒ Web ステータスモニターの［設定］-［スキャナー］の［見出し選択］で設定した見出し（かな/英数/任意見出しのいずれか）が表示されます。

❷ **【▷】または【◁】キーを使って該当の所属見出しを反転状態にし、［設定］を押します。**

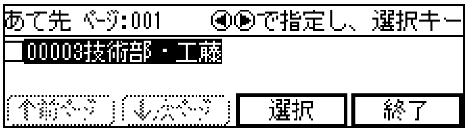


該当の所属見出しに含まれるあて先が表示されます。

補足

❒ 各あて先の所属見出しは、Web ステータスモニターの［設定］-［メールアドレス］の［所属見出し］で設定します。

❸ **目的のあて先を反転状態にし、［選択］を押します。**



補足

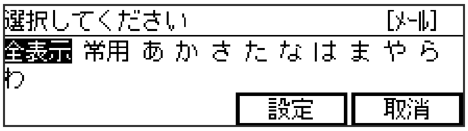
- ❒ 複数のあて先を指定したいときは、❸を繰り返します。
- ❒ あて先から外したいときには、該当のあて先を反転状態にして、［選択解除］を押します。
- ❒ 他の所属見出しからも選択したいときは、❶から繰り返します。

見出しを「全表示」に戻す

❶ **【./＊】（見出し）キーを押します。**

見出しが表示されます。

❷ **【◁】または【▷】キーを使って［全表示］を反転状態にし、［設定］を押します。**



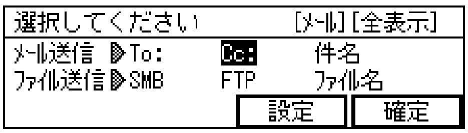
5 あて先をすべて選択し終えたら、［終了］を押します。

2の送信選択画面に戻ります。

Cc:を指定する

直接の送り先ではないが、メールでやりとりしていることやそのメールの内容を知らせておきたい相手がいる場合は、Cc:に指定します。同時に指定できる送り先は、To:とCc:を合わせて100件以内となります。

❶ **【▷】または【◁】キーを使って、［Cc:］を反転状態にして、［設定］を押します。**



あて先が表示されます。

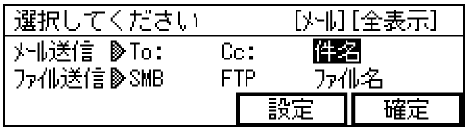
❷ **「To:を指定する」の3から4の手順と同様にして、Cc:を指定します。**

❸ **Cc:をすべて選択し終えたら、［終了］を押します。**

❶の送信選択画面に戻ります。

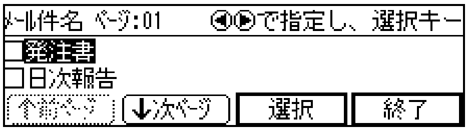
件名を指定する

❶ **【▷】または【◁】キーを使って、［件名］を反転状態にして、［設定］を押します。**



件名が表示されます。

❷ **【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を押して、目的の件名を反転状態にし、［選択］を押します。**



選択した件名にチェックが付きます。

補足

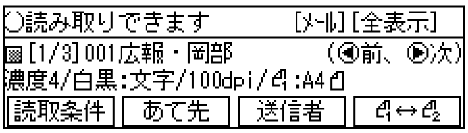
- ❒ 別の件名を［選択］すると、前に選択した件名は解除されます。
- ❒ 件名の指定を解除したいときは、選択した件名を反転状態にし、［選択解除］を押します。

❸ **［終了］を押します。**

❶の送信選択画面に戻ります。

6 ［確定］を押します。

「読み取りできます」画面が表示されます。2行目に指定したあて先が表示されています。



補足

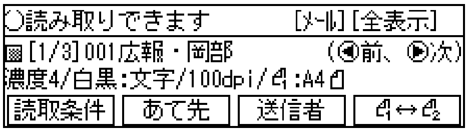
- ❒ 複数のあて先（To:）を指定したは、【▷】または【◁】キーで、表示されていないあて先が確認できます。

読取条件を指定する

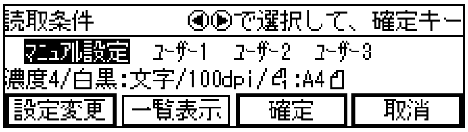
読取条件の指定ができます。指定を省略した場合は、［読取条件］で［デフォルト］として設定した条件で読み取られます。

1 **［読取条件］を押します。**

読取条件選択画面が表示されます。



2 **登録済みの読取条件で読み取るか、個別に指定するかを選択します。**



参照

設定されている読取条件の詳細を確認できます。⇒ P.83「読取条件の詳細を確認する」

補足

- ❒［デフォルト］で登録した読取条件で読み取りを行いたいときは、［取消］を押します。
- ❒［ユーザー 1］〜［ユーザー 3］に登録された内容の一部を直接変更することはできません。一部のみを変更して読み取りたいときは、一度、元になる条件を［ユーザー 1］〜［ユーザー 3］の中から選択し、［確定］を押し、取り込みます。その後、変更したい項目のみを［マニュアル設定］で変更します。

登録済みの読取条件を使う場合

❶ **【▷】または【◁】キーで、［ユーザー1］、［ユーザー 2］、［ユーザー 3］のいずれかを反転状態にし、［確定］を押します。**

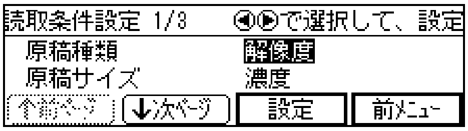
「読み取りできます」画面に戻り、指定した読取条件が3行目に表示されます。

個別に設定する場合

❶ **【▷】または【◁】キーで、［マニュアル設定］を反転状態にし、［設定変更］を押します。**

読取条件設定画面が表示されます。

❷ **【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を使って、設定変更したい項目を反転状態にし、［設定］を押します。**



補足

- ❒ 変更したい項目のみ選択します。
- ❒ 連結スキャナーによって設定できない項目があります。設定できない項目は、［設定］が灰色で表示されます。

参照

設定項目の詳細については、⇒ P.44「［読取条件］の設定項目」を参照してください。

❸ **【▷】または【◁】キーを使って、指定したい内容を反転状態にし、［確定］を押します。**



補足

- ❒［取消］を押すと、選択がキャンセルされ、現在設定されている内容に戻ります。
- ❒［解像度］で［任意解像度］を選択した場合と、［原稿サイズ］で［任意エリア設定］を選択した場合は、テンキーを使って数値を入力します。

❹ **設定したい項目の数だけ、❷と❸を繰り返します。**

❺ **各項目の設定が終わったら、[前メニュー] を押します。**

読取条件選択画面に戻ります。

❻ **[確定] を押します。**

「読み取りできます」画面が表示されます。3行目には、設定された読取条件が表示されています。

読取条件の詳細を確認する

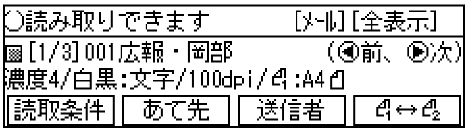
指定した読取条件の詳細が確認できます。

補足

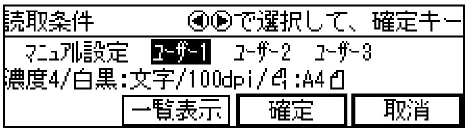
❒ マニュアル設定を行う前であれば、[マニュアル設定]を選択するとデフォルトの読取条件の確認ができます。マニュアル設定後は、設定した [マニュアル設定] の確認になります。

1 **[読取条件] を押します。**

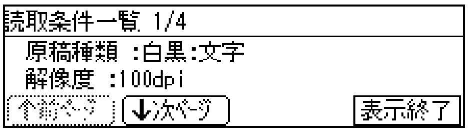
読取条件選択画面が表示されます。



2 **詳細を確認したい読取条件名を反転状態にし、[一覧表示] を押します。**



3 **[↓次ページ] や [↑前ページ] を押して、読取条件の各項目と設定内容を表示させます。**



4 **確認が終わったら、[表示終了] を押します。**

5 **[取消] または [確定] を押します。**

補足

❒ [確定] を押すと、確認した読取条件が指定されます。参照だけで指定しないときは [取消] を押します。

1の「読み取りできます」画面に戻ります。

送信者を指定する

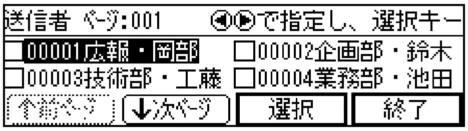
Webステータスモニターの［設定］-［メールアドレス］の［送信者として使用］を「する」で登録したユーザーを、本機の操作画面の［送信者］に表示し、送信者として指定できます。Webステータスモニターの［設定］-［メール］の［送信者初期値］を「管理者アドレス」にして、［管理者メールアドレス］を登録した場合は、送信者の指定を省略すると、管理者メールアドレスで送信されます。［送信者初期値］を「なし」に設定した場合は、送信者の指定を必ず行ってください。

4

1 ［送信者］を押します。

送信者選択画面が表示されます。

2 【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を使って、送信者として指定したいユーザーを反転状態にし、［選択］を押します。



補足

- ❒ 別のユーザーを［選択］すると、前に選択したユーザーは解除されます。
- ❒ 送信者の指定を解除したい場合は、選択したユーザーを反転状態にして、［選択解除］を押します。
- ❒ Webステータスモニターの［設定］-［メールアドレス］で［パスワード保護］を「する」に設定したユーザーを指定すると、パスワード入力を求める画面が表示されます。テンキーを使って、設定したパスワードを入力してください。
- ❒ 見出しを使って送信者を検索することもできます。⇒ P.80「見出しを使ってあて先を検索する」

3 ［終了］を押します。

「読み取りできます」画面に戻ります。

原稿面を指定する

デフォルトでは、片面原稿を上下方向に読み取る設定になっています。原稿を横方向から読み取るときや、おもてと裏の両面の読み取りを行うときは、原稿面の指定を行ってください。

補足

- 連結スキャナーによって、選択できる項目が異なります。選択できない項目は灰色文字で表示されます。
- 連結スキャナーによって、、、などアイコンが異なります。

❖ **画面3行目のまたはまたは**

原稿の上辺から ADF に読み取らせるようにセットしたときに指定します。原稿ガラスにセットした場合も、光源が原稿の上辺から下辺に移動するようにセットしたときに指定します。

❖ **画面2行目のまたはまたは**

原稿の側辺から ADF に読み取らせるようにセットしたときに指定します。原稿ガラスにセットした場合も、光源が原稿の側辺からもう一方の側辺に移動するようにセットしたときに指定します。

参照

詳細は、スキャナーの取扱説明書を参照してください。

❖ **両面（左右）**

原稿の左または右を閉じたときに、表裏の原稿の上下が正しくなる原稿の両面を読み取る場合に指定します。

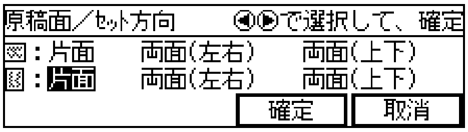
❖ **両面（上下）**

原稿の上を閉じたときに、表裏の原稿の上下が正しくなる原稿の両面を読み取る場合に指定します。

1 **［　］（原稿面）キーを押します。**

原稿面の選択画面が表示されます。

2 **【▷】または【◁】キーを使って、原稿のセット状態に合わせた項目を反転状態にし、［確定］を押します。**



「読み取りできます」画面に戻ります。

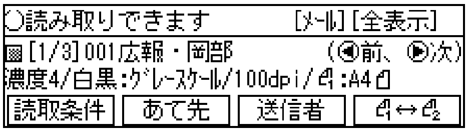
4

送信する

読み取りを開始する

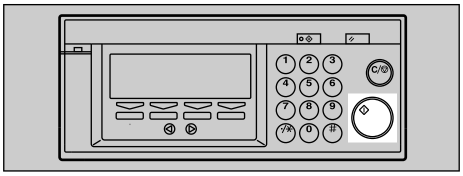
ADFに原稿をセットしたとき

1 「読み取りできます」画面になっていることを確認します。



「宛先を指定して下さい」画面の場合は、あて先が指定されていません。あて先を指定して、「読み取りできます」画面にします。

2 本機の【スタート】キーを押します。



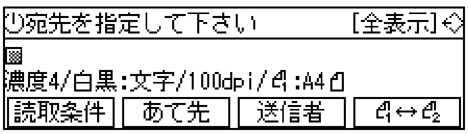
ZKJS030J

スキャナーのADFから原稿が読み取られます。

補足

- ❒ 読み取りを中止したいときには本機の**【クリア/ストップ】**キーを押します。
- ❒ **【初期設定】**キー - [スキャナー] - [読取終了後の動作] が「選択画面を表示」に設定されている場合は、原稿を追加して送信する（[原稿追加]）か、読み取りを終了して送信するがあて名や読取条件等の指定は残す（[継続]）か、読み取りを終了し送信する（[終了]）かの選択画面が表示されますので選択してください。設定された時間内に選択しない場合は［終了］します。

読み取りが正常に終了すると、電子メール送信サーバー（SMTPサーバー）への送信が開始されます。送信中は、マークが画面右上に表示されます。



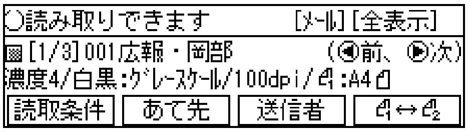
補足

- ❒ マークが表示されている間は、本機および連結スキャナーの使用はできません。

電子メール送信サーバー（SMTPサーバー）への送信が終了すると、マークが消え、メール/ファイル送信の待機画面になります。

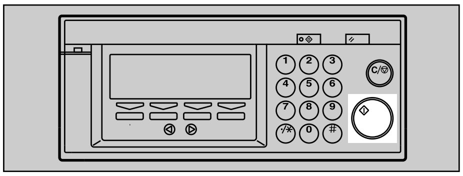
原稿ガラスに原稿をセットしたとき

1 「読み取りできます」画面になっていることを確認します。



「宛先を指定して下さい」画面の場合は、あて先が指定されていません。あて先を指定して、「読み取りできます」画面にします。

2 本機の【スタート】キーを押します。



ZKJS030J

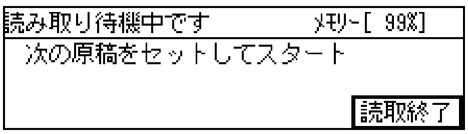
スキャナーの原稿ガラスから原稿が読み取られます。

補足

- ❒ 読み取りを中止したいときには本機の**【クリア/ストップ】**キーを押します。

1枚目の原稿の読み取りが正常に終了すると、「読み取り待機中です」の画面が表示されます。

3 続けて原稿を読み取るときには、原稿ガラスに次の原稿をセットし、本機の【スタート】キーを押します。



4 必要なだけ、3を繰り返します。

5 読み取りを終了するときは、［読取終了］を押します。

補足

- ❒ **【初期設定】**キー -［スキャナー］-［読取終了後の動作］が「選択画面を表示」に設定されている場合は、送信後にあて先や読取条件等の指定を残す（［継続］）か、残さない（［終了］）かの選択画面が表示されますので選択してください。設定された時間内に選択しない場合は［終了］します。

読み取りが正常に終了すると、電子メール送信サーバー（SMTPサーバー）への送信が開始されます。送信中は、マークが画面右上に表示されます。



補足

- ❒ マークが表示されている間は、本機および連結スキャナーの使用はできません。

電子メール送信サーバー（SMTP サーバー）への送信が終了すると、マークが消え、メール / ファイル送信の待機画面になります。

送信の確認をする

クライアントPCのWebブラウザーを使って、送信状態の確認ができます。

1 Webブラウザーを起動して、［アドレス］欄に本機のIPアドレスを入力します。⇒ P.50「IPSiOSCAN BOXへのアクセス手順」

補足

❒ 本機のIPアドレスは、本機の**【初期設定】**キーを押して［ネットワーク］の［IPアドレス］で確認できます。

Webステータスモニター画面になります。

2 メインメニューの［管理情報］をクリックします。

3 サブメニューの［送信情報］をクリックします。

4 送信種別や日時、送信先、文書名等から、該当のメールを探し、［結果］欄を確認します。



補足

❒ ［結果］欄には、「待機中」、「配信中」、「完了」、「不達」のいずれかが表示されます。

❒ なんらかの理由で送信ができなかった場合は、［結果］欄に「不達」と表示されます。

❒ メール送信時には、［送信種別］欄に「メール」、Windows共有フォルダーへのファイル送信時には「ファイル送信」、FTPサーバーへのファイル送信時には「FTP送信」、Ridoc配信時には「配信」と表示されます。

❒ ［原稿］欄には、送信した原稿枚数が表示されます。

5. 共有フォルダーにファイル送信する

ここでは、連結スキャナーで読み取った画像ファイルを、同一ネットワーク内のWindows共有フォルダーに送信する手順を説明します。読取条件の指定や送信確認のしかたは、メール送信時と同じです。「ファイル送信（SMB）の手順の概要」の流れ図に書かれている参照ページを参照してください。

登録済みの共有フォルダーへファイル送信する

Webステータスモニターで登録したWindows共有フォルダーへ、本機の操作部からファイル送信します。

ファイル送信（SMB）の手順の概要

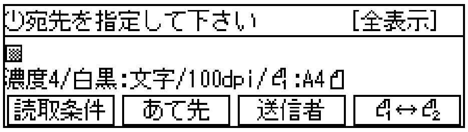
本機の操作部を使って、登録済みのWindows共有フォルダーにファイル送信する手順の流れを示します。なお、下線は必須作業項目です。本機から行う各種指定のうち、［あて先］の［SMB］の指定のみが必須となります。

手順	参照
スキャナーに原稿をセットする	⇒ P.79「スキャナーに原稿をセットする」
↓	
［あて先］［SMB］の指定をする	⇒ P.90「共有フォルダーを指定する」
↓	
［ファイル名］の指定をする	⇒ P.91「ファイル名を指定する」
↓	
［読取条件］の指定をする	⇒ P.82「読取条件を指定する」
↓	
［原稿面］の指定をする	⇒ P.85「原稿面を指定する」
↓	
本機の【スタート】キーを押す	⇒ P.86「読み取りを開始する」
↓	
Webブラウザーで送信の確認をする	⇒ P.88「送信の確認をする」

共有フォルダーを指定する

あて先として、登録してあるWindows共有フォルダーの中から1件のみ選択できます。

1 ［あて先］を押します。

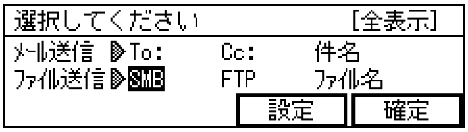


補足

❒ ［スキャナー］の［アドレス帳自動更新］を「する」に設定している場合は、あて先を更新します。⇒ P.39「アドレス帳自動更新」

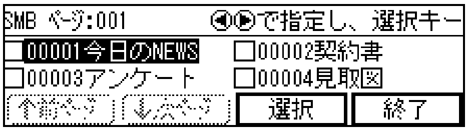
送信選択画面が表示されます。

2 【▷】または【◁】キーを使って、「ファイル送信」の［SMB］を反転状態にして、［設定］を押します。



登録されている共有フォルダー名が表示されます。

3 【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を押して、送信したいフォルダーを反転状態にし、［選択］を押します。



選択したフォルダーにチェックが付きます。

補足

❒ 別のフォルダーを［選択］すると、前に選択したフォルダーは解除されます。

見出しを使ってあて先を検索する

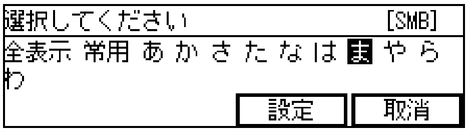
❶ 【./＊】（見出し）キーを押します。

見出しが表示されます。

補足

❒ Webステータスモニターの［設定］-［スキャナー］の［見出し選択］で設定した見出し（かな/英数/任意見出しのいずれか）が表示されます。

❷ 【▷】または【◁】キーを使って該当の所属見出しを反転状態にし、［設定］を押します。

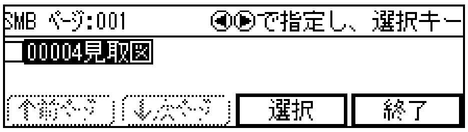


該当の所属見出しに含まれるフォルダーが表示されます。

補足

❒ 所属見出しは、Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信パス］の［所属見出し］で設定します。

❸ 【▷】または【◁】キーを使って目的のフォルダーを反転状態にし、［選択］を押します。



選択したフォルダーにチェックが付きます。

見出しを「全表示」に戻す

❶ 【./＊】（見出し）キーを押します。

見出しが表示されます。

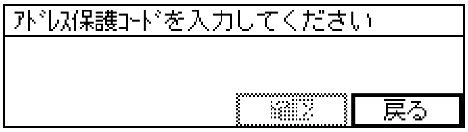
❷ 【◁】または【▷】キーを使って［全表示］を反転状態にし、［設定］を押します。



4 **［終了］を押します。**

保護パスワードの入力画面になります。

5 **本機のテンキーを使って、パスワードを入力します。**

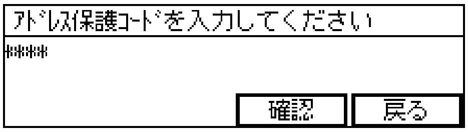


補足

- ❒ Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信パス］の［保護パスワード］で設定した4～8桁の数字を入力します。

入力した数字は＊で表示されます。

6 **［確認］を押します。**



送信選択画面に戻ります。

補足

- ❒ 続いて、ファイル名の指定をしない場合は、［確定］を押します。「読み取りできます」画面が表示され、2行目に指定したフォルダー名が表示されています。

ファイル名を指定する

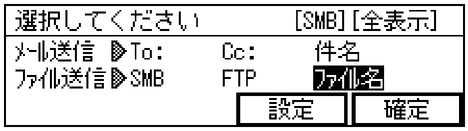
登録してあるファイル名の中から 1 件のみ指定できます。ファイル名の指定を省略したときは、「DOC」を指定したことになります。

1 **送信選択画面が表示されていることを確認します。**

補足

- ❒ 表示されていない場合は、［あて先］を押します。

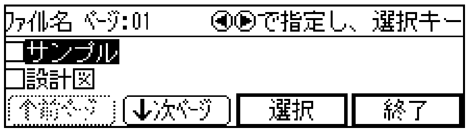
2 **【▷】または【◁】キーを使って、［ファイル名］を反転状態にして、［設定］を押します。**



ファイル名が表示されます。

3 **【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を押して、指定したいファイル名を反転状態にし、［選択］を押します。**

選択したファイル名にチェックが付きます。



補足

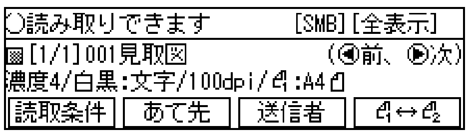
- ❒ 別のファイル名を［選択］すると、前に選択したファイル名は解除されます。
- ❒ ファイル名の指定を解除したい場合は、選択したファイル名を反転状態にして、［選択解除］を押します。

4 **［終了］を押します。**

送信選択画面に戻ります。

5 **［確定］を押します。**

「読み取りができます」画面が表示されます。



5

任意の共有フォルダーにファイルを送信する

ここでは、同一LAN上の任意のWindows共有フォルダーに画像ファイルを送信する手順について説明します。原稿のセットのしかたや送信確認のしかたは、メール送信時と同じです。⇒ P.92「任意ファイル送信の手順の概要」の流れ図に書かれている参照ページを参照してください。

任意ファイル送信の手順の概要

同一ネットワーク上の任意の Windows 共有フォルダーに画像ファイルを送信する手順の流れを示します。下線は必須作業項目です。

手順	参照
Webブラウザーを使って、 Webステータスモニターを表示する	⇒ P.50「IPSiOSCAN BOXへのアクセス手順」
↓	
［任意ファイル送信入力］の各項目に入力する	⇒ P.93「［任意ファイル送信入力］を使う」
↓	
スキャナーに原稿をセットする	⇒ P.79「スキャナーに原稿をセットする」
↓	
本機の【スタート】キーを押す	⇒ P.86「読み取りを開始する」
↓	
送信されているか確認する	⇒ P.88「送信の確認をする」

［任意ファイル送信入力］を使う

Webブラウザーを使って、同一ネットワーク上の任意のWindows共有フォルダーに、任意の読取条件でファイル送信ができます。

1 **Webブラウザーを起動して、［アドレス］欄に本機のIPアドレスを入力します。**⇒ P.50「IPSiOSCAN BOXへのアクセス手順」

補足

❒ 本機のIPアドレスは、本機の**【初期設定】**キーを押して［ネットワーク］の［IPアドレス］から確認できます。

Webステータスモニター画面になります。

2 **メインメニューの［任意ファイル送信入力］をクリックします。**

任意ファイル送信入力画面になります。



3 **［原稿種類］から［ファイル形式］までの読取条件を指定します。**

参照

指定する項目の詳細については、⇒ P.44「［読取条件］の設定項目」を参照してください。

補足

❒ 指定できる項目は連結スキャナーにより異なります。設定できない項目は表示されません。

4 **［原稿面/セット方向］を指定します。**

参照

指定する項目の詳細については、⇒ P.85 「原稿面を指定する」を参照してください。

5 **［ファイル送信］の各項目を指定をします。**

❖ ファイル送信パス

送信するフォルダーを「¥¥コンピューター名¥共有フォルダー名」の形式で指定します。

補足

- ❒ コンピューター名に全角を使用すると識別できません。あらかじめ、送信先のコンピューター名は半角で設定してください。なお、送信先のOSがWindows 2000/XP、Windows NT 4.0のいずれかでコンピューター名が全角の場合は、そのコンピューターのIPアドレスを使って、「¥¥xxx.xxx.xxx.xxx¥共有フォルダー名」の形式で指定することもできます。送信先のOSがWindows 95/98/98 SE/Meの場合は、IPアドレスでの指定はできません。
- ❒ 現在、任意ファイル送信入力の指定に使っているPC内のフォルダーに送信したい場合も、あらかじめそのフォルダーを書き込み可能な共有フォルダーに設定しておく必要があります。また、［ファイル送信パス］のコンピューター名（またはIPアドレス）は省略できません。

❖ ログインユーザー名

共有フォルダーにログインするためのユーザー名を、「ワークグループ名またはドメイン名 ¥ ユーザー名」の形式で入力します。

補足

- ❒ ファイルサーバー上の共有フォルダーの場合は、そのファイルサーバーにログインできるユーザー名を入力します。
- ❒ Windows 2000/XP、Windows NT 4.0でアクセス権が設定された共有フォルダーの場合は、そのOSのユーザー管理で設定されたユーザー名を入力します。
- ❒ クライアントPC上の共有フォルダーの場合は、ネットワークにログインするときのユーザー名を入力します。

❖ ログインパスワード

［ログインユーザー名］に対応するパスワードを入力します。入力した文字は＊で表示されます。

補足

- ❒ Windows 95/98/98 SE/Meで共有フォルダーにパスワードが設定されている場合は、そのパスワードを入力します。

❖ テスト

［ファイル送信パス］、［ログインユーザー名］、［ログインパスワード］を入力した状態で、［テスト］ボタンをクリックすると、指定した共有フォルダーに接続できるかどうかのテストができます。

❖ ファイル名

送信する画像ファイルのファイル名を入力します。半角で20文字、全角なら10文字まで入力できます。

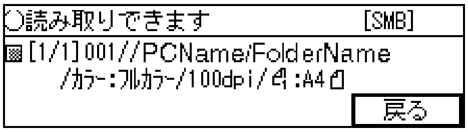
補足

- ❒ Windowsのファイル名として入力できない文字（¥/:＊?”<>|および先頭の「.」やスペース）は使用できません。

6 [OK] をクリックします。

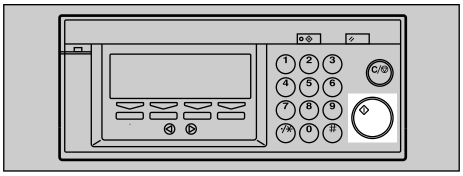
「任意ファイル送信入力を設定しました。もう一度入力するためには、任意ファイル送信入力をクリックしてください」と表示され、指定が本機に転送されます。

本機の画面は「読み取りできます」画面になります。



7 スキャナーに原稿をセットします。

8 本機の【スタート】キーを押します。



ZKJS030J

スキャナーから原稿が読み取られます。

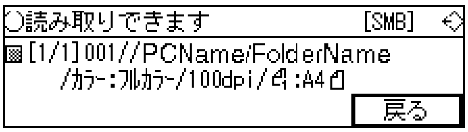
補足

- 読み取りを中止したいときには本機の **【クリア/ストップ】** キーを押します。

参照

原稿ガラスにセットしたときは、⇒ P.86「原稿ガラスに原稿をセットしたとき」を参照してください。

読み取りが正常に終了すると、共有フォルダーへのファイル送信が開始されます。ファイル送信中は、マークが画面右上に表示されます。



補足

- マークが表示されている間は、本機および連結スキャナーの使用はできません。

9 本機の [戻る] を押します。

メール/ファイル送信待機画面またはRidoc配信待機画面になります。

補足

- 続けて [任意ファイル送信入力] の条件を変更して送信したい場合も、[戻る] を押して、メール/ファイル送信待機画面またはRidoc配信待機画面に戻ってください。メール/ファイル送信待機画面またはRidoc配信待機画面に戻らずに、新たな [任意ファイル送信入力] を行おうとすると、「スキャナー使用中のため、設定できません。しばらくしてから設定してください」と表示されます。

5

共有フォルダーに送信されたファイルについて

ここでは、Windows 共有フォルダーに送信された画像データのファイル名や格納場所について説明します。

保存フォルダー

ファイル送信時に、送信する共有フォルダーを指定しますが、指定した共有フォルダー配下に本機の識別名と同じ名前のサブフォルダーが作られ、画像ファイルが保存されます。

- 例1
  指定フォルダー：¥¥PCname¥Folder
  本機の識別名：RNP6219DA
  →保存されるフォルダー：
  ¥¥PCname¥Folder¥RNP6219DA

補足

❒ IPSiOSCAN BOXの「識別名」は、Webステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定します。

ファイル名

Windows 共有フォルダーにファイル送信された画像データのファイル名は、次のようになります。なお、［ファイル名］未選択のときは「DOC」を選択したときと同様になります。

補足

❒ ［任意ファイル送信入力］からファイル送信するときは、ファイル名を未指定にはできません。登録済みファイル名とは別に任意のファイル名を指定できますので、必ず指定してください。

❖ 読取時刻付き

Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］で［ファイル名＋時分付け］を「する」に設定した場合は、「ファイル名年月日時分秒（4桁の通し番号）.拡張子」になります。

- 例2
  指定ファイル名：image
  ファイル形式：シングルページ
  原稿種類：白黒：文字
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  image030916130721(0001).TIF
  image030916130721(0002).TIF
  image030916130721(0003).TIF
  image030916130721(0004).TIF
- 例3
  指定ファイル名：なし
  ファイル形式：マルチTIFF
  原稿種類：カラー：フルカラー
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  DOC030916130721(0001).PDF

❖ 読取時刻なし

Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］で［ファイル名＋時分付け］を「しない」に設定した場合は、「ファイル名（4桁の通し番号）.拡張子」になります。

- 例4
  指定ファイル名：image
  ファイル形式：シングルページ
  原稿種類：白黒：文字
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  image(0001).TIF
  image(0002).TIF
  image(0003).TIF
  image(0004).TIF
- 例5
  指定ファイル名：なし
  ファイル形式：マルチTIFF
  原稿種類：カラー：フルカラー
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  DOC(0001).PDF

参照

ファイル形式と拡張子については、⇒ P.46「ファイル形式」を参照してください。

補足

- ❒ 例2〜5のファイルは、例1の共有フォルダー内に送信されます。
- ❒ Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］で［ファイル名＋時分付け］を「しない」に設定した場合、同じファイル名を指定（未指定も含む）し、拡張子が同じになったときは、画像データファイルは上書きされますのでご注意ください。

6. FTPサーバーにファイル送信する

ここでは、連結スキャナーで読み取った画像ファイルを、本機からFTPサーバーにファイル送信する手順を説明します。読取条件の指定や送信確認のしかたは、メール送信時と同じです。「FTPファイル送信の概要」の流れ図に書かれている参照ページを参照してください。

FTPファイル送信の概要

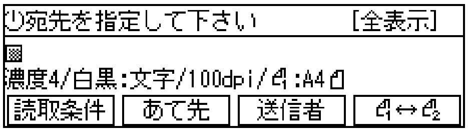
登録済みのFTPサーバーにファイル送信する手順の流れを示します。なお、下線は必須作業項目です。本機から行う各種指定のうち、［あて先］の［FTP］の指定のみが必須となります。

手順	参照
スキャナーに原稿をセットする	⇒ P.79「スキャナーに原稿をセットする」
↓	
［あて先］［FTP］の指定をする	⇒ P.100「FTPサーバーを指定する」
↓	
［ファイル名］の指定をする	⇒ P.91「ファイル名を指定する」
↓	
［読取条件］の指定をする	⇒ P.82「読取条件を指定する」
↓	
［原稿面］の指定をする	⇒ P.85「原稿面を指定する」
↓	
本機の【スタート】キーを押す	⇒ P.86「読み取りを開始する」
↓	
Webブラウザーで送信の確認をする	⇒ P.88「送信の確認をする」

FTPサーバーを指定する

あて先として、登録してあるFTPサーバーの中から1件のみ選択できます。

1 ［あて先］を押します。

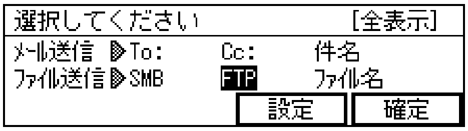


補足

❒ ［スキャナー］の［アドレス帳自動更新］を「する」に設定している場合は、アドレス帳を更新します。⇒P.39「アドレス帳自動更新」

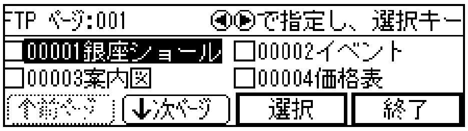
送信選択画面が表示されます。

2 【▷】または【◁】キーを使って、「ファイル送信」の［FTP］を反転状態にして、［設定］を押します。



登録されている FTP サーバー名が表示されます。

3 【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を押して、送信したいFTPサーバーを反転状態にし、［選択］を押します。



選択した FTP サーバーにチェックが付きます。

補足

❒ 別のFTPサーバーを［選択］すると、前に選択したFTPサーバーは解除されます。

見出しを使ってあて先を検索する

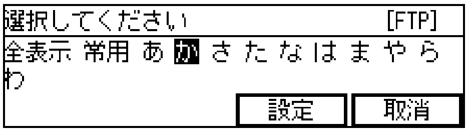
❶【./＊】（見出し）キーを押します。

見出しが表示されます。

補足

❒ Webステータスモニターの［設定］-［スキャナー］の［見出し選択］で設定した見出し（かな/英数/任意見出しのいずれか）が表示されます。

❷【▷】または【◁】キーを使って該当の所属見出しを反転状態にし、［設定］を押します。



該当の所属見出しに含まれるFTPサーバー名が表示されます。

補足

❒ 所属見出しは、Webステータスモニターの［設定］-［FTPサーバー］の［所属見出し］で設定します。

❸【▷】または【◁】キーを使って目的のFTPサーバーを反転状態にし、［選択］を押します。

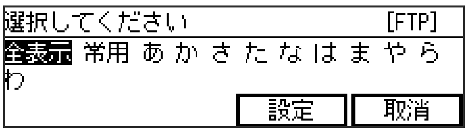
選択したFTPサーバーにチェックが付きます。

見出しを「全表示」に戻す

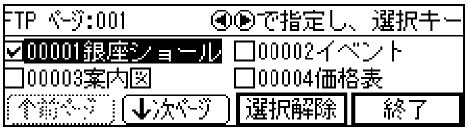
❶【./＊】（見出し）キーを押します。

見出しが表示されます。

❷【◁】または【▷】キーを使って［全表示］を反転状態にし、［設定］を押します。

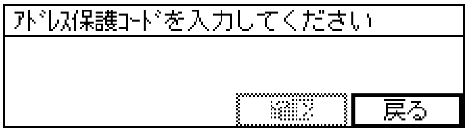


4 **［終了］を押します。**



保護パスワードの入力画面になります。

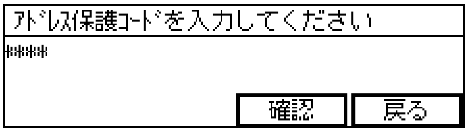
5 **本機のテンキーを使って、パスワードを入力します。**



補足

- ❒ Webステータスモニターの［設定］-［FTPサーバー］の［保護パスワード］で設定した4〜8桁の数字を入力します。

6 **［確認］を押します。**



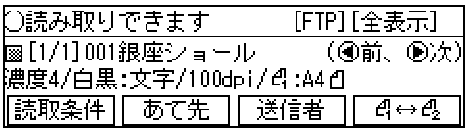
送信選択画面に戻ります。

補足

- ❒ 続いてファイル名の指定をするときは、⇒ P.91「ファイル名を指定する」を参照してください。

7 **［確定］を押します。**

「読み取りできます」画面が表示され、2行目に指定したFTPサーバー名が表示されています。



FTPサーバーに送信されたファイルについて

ここでは、FTP サーバーにファイル送信された画像データのファイル名や格納場所について説明します。

保存場所

ファイル送信（FTP）時に、登録済みのFTPサーバー名を指定しますが、登録されたFTPサーバー配下のフォルダーの配下に、本機の識別名と同じ名前のサブフォルダーが作られ、画像ファイルが保存されます。

- 例1
  指定FTPサーバー：¥¥FTPserver¥Folder
  本機の識別名：RNP6219DA
  →保存される場所：
  ¥¥FTPserver¥Folder¥RNP6219DA

6

補足

- ❒ IPSiOSCAN BOXの「識別名」は、Webステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で設定します。
- ❒ FTP サーバーに指定したディレクトリーがない場合は、自動作成します。

ファイル名

FTP サーバーにファイル送信された画像データのファイル名は、次のようになります。なお、［ファイル名］未選択のときは「DOC」を選択したときと同様になります。

❖ 読取時刻付き

Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］で［ファイル名＋時分付け］を「する」に設定した場合は、「ファイル名年月日時分秒（4桁の通し番号）.拡張子」になります。

- 例2
  指定ファイル名：image
  ファイル形式：シングルページ
  原稿種類：白黒：文字
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  image030916130721(0001).TIF
  image030916130721(0002).TIF
  image030916130721(0003).TIF
  image030916130721(0004).TIF
- 例3
  指定ファイル名：なし
  ファイル形式：マルチTIFF
  原稿種類：カラー：フルカラー
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  DOC030916130721(0001).PDF

❖ 読取時刻なし

Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］で［ファイル名＋時分付け］を「しない」に設定した場合は、「ファイル名（4桁の通し番号）.拡張子」になります。

- 例4
  指定ファイル名：image
  ファイル形式：シングルページ
  原稿種類：白黒：文字
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  image(0001).TIF
  image(0002).TIF
  image(0003).TIF
  image(0004).TIF
- 例5
  指定ファイル名：なし
  ファイル形式：マルチTIFF
  原稿種類：カラー：フルカラー
  原稿枚数：2枚両面
  読取実行日時：2003年9月16日午後1時7分21秒
  →ファイル名：
  DOC(0001).PDF

参照

ファイル形式と拡張子については、⇒ P.46「ファイル形式」を参照してください。

補足

- 例2〜5のファイルは、例1のフォルダー内にファイル送信されます。Webステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］の［ファイル名＋時分付け］を「しない」に設定した場合、同じファイル名を指定（未指定も含む）し、拡張子が同じになったときは、画像データファイルは上書きされますのでご注意ください。

7. Ridoc Document Router/Pro/Ltを利用して配信する

ここでは、連結スキャナーで読み取った画像ファイルを、Ridoc Document Router/Pro/Ltの機能を利用して配信する手順を説明します。読取条件の指定や送信確認のしかたは、メール送信時と同じです。「Ridoc配信の概要」の流れ図の右に書かれている参照ページを参照してください。

Ridoc配信の概要

Ridoc Document Router/Pro/Ltのアドレス帳および配信機能を利用して、連結スキャナーで読み取った画像ファイルを配信する手順の流れを示します。なお、下線は必須作業項目です。本機から行う各種指定のうち、［あて先］の指定のみが必須となります。

スキャナーに原稿をセットする ⇒ P.79 「スキャナーに原稿をセットする」

↓

［あて先］の指定をする ⇒ P.106 「配信先を指定する」

↓

[送信者］の指定をする ⇒ P.84 「送信者を指定する」

↓

［読取条件］の指定をする [*1] ⇒ P.82 「読取条件を指定する」

↓

［原稿面］の指定をする ⇒ P.85 「原稿面を指定する」

↓

本機の **【スタート】** キーを押す ⇒ P.86 「読み取りを開始する」

↓

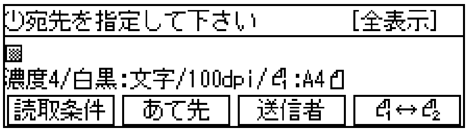
Webブラウザーで送信の確認をする ⇒ P.88 「送信の確認をする」

[*1] **配信されるイメージデータのファイル形式・圧縮形式は、**Ridoc Document Router/Pro/Lt**で設定したファイル形式・圧縮形式になります。**

配信先を指定する

Ridoc Document Router/Pro/Ltのアドレス帳を使って、最大100件まで同時に指定ができます。

1 ［あて先］を押します。

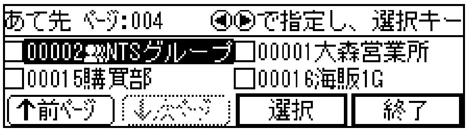


補足

- ［スキャナー］の［アドレス帳自動更新］を「する」に設定している場合は、Ridoc Document Router/Pro/Ltの最新のアドレス帳を読み込みます。⇒ P.39「アドレス帳自動更新」

Ridoc Document Router/Pro/Ltに登録してあるあて先（個人、グループ、フォルダー、メールアドレス先の各名称）が表示されます。

2 【▷】または【◁】キーや［↓次ページ］、［↑前ページ］を押して、配信したいあて先を反転状態にし、［選択］を押します。



選択したあて先にチェックが付きます。

補足

- グループあて先には、マークが付きます。
- 選択済みのあて先を解除したいときには、該当のあて先を反転状態にして、［選択解除］を押します。

見出しを使ってあて先を検索する

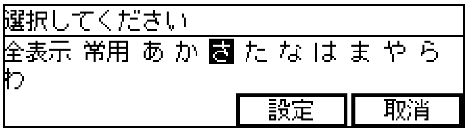
❶ **【./＊】（見出し）キーを押します。**

見出しが表示されます。

補足

- Ridoc Document Router/Pro/Ltで設定した見出しが表示されます。

❷ **【▷】または【◁】キーを使って該当の所属見出しを反転状態にし、［設定］を押します。**



該当の所属見出しに含まれるあて先名が表示されます。

補足

- 所属見出しは、Ridoc Document Router/Pro/Ltで設定します。

❸ **【▷】または【◁】キーを使って目的のあて先を反転状態にし、［選択］を押します。**

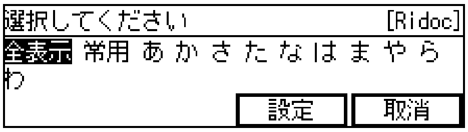
選択したあて先にチェックが付きます。

見出しを「全表示」に戻す

❶ **【./＊】（見出し）キーを押します。**

見出しが表示されます。

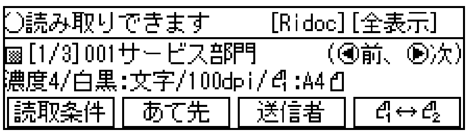
❷ **【◁】または【▷】キーを使って［全表示］を反転状態にし、［設定］を押します。**



3 必要なだけ 2 を繰り返して配信先をすべて指定します。

4 ［終了］を押します。

「読み取りできます」画面が表示され、2行目に指定した配信先名が表示されています。複数指定した場合は、【▷】または【◁】キーを使って確認ができます。



こんなときには

ここでは、メール送信やファイル送信がうまくできなかった場合や、本機の画面にエラーが表示された場合の原因や対処方法について説明します。

参照

ネットワークTWAINスキャナーを利用中のエラーメッセージについては、ネットワークTWAINドライバーのヘルプを、また、画像ファイルが思いどおりに読み込めないなど、スキャナーに関するものについては各スキャナーの取扱説明書を参照してください。

ネットワーク機器として認識されていない。	• ケーブルがきちんと接続されているか確認してください。 • ネットワークの設定を確認してください。 • お使いのケーブルの種類を確認してください。
“スキャナーを認識できません。スキャナーの電源を確認してください”と表示された。	• スキャナーの電源をONにしてから、本機の電源をOFF/ONします。
（IPSiOSCAN BOXを複数使っているため、）ネットワークTWAINドライバーやRidoc I/O Naviなどに表示される機器識別名を変更したい。 ファイル送信（SMB）やファイル送信（FTP）時に自動作成されるサブフォルダー名を変更したい。	• Webステータスモニターの［設定］-［一般］の［識別名］で変更します。半角の英数字47文字以内で、ネットワーク上の他の機器と重複しない識別名を設定します。工場出荷時は「RNP******」（******は物理アドレスの下6桁）となっていますが、ユーザーが個別に設定するときは、他の機器と重複する恐れがあるため、先頭の3文字が「RNP」（小文字が混ざっている場合も含む）で始まる識別名は設定できないようになっています。
Webブラウザーから本機にログインできない（「お気に入り」に登録したWebステータスモニターが、表示されない）	• 本機の画面表示を確認してください。初期設定画面のときは、Webステータスモニターを利用できません。［終了］または**【初期設定】**キーを押して、Ridoc配信待機画面またはメール/ファイル送信待機画面に変更してください。⇒ P.18 「初期設定画面」 • 本機のIPアドレスが初期値（11.22.33.44）に戻っていないか確認してください（**【初期設定】**キーを押して［ネットワーク］の［1.IPアドレス］で確認できます）。ご利用のネットワークで割り当てられたIPアドレスが正しく設定されていないと、本機へのアクセスはできません。 • DHCPで本機のIPアドレスが動的に割り付けられている場合は、IPアドレスが変わりますので、「お気に入り」への登録は意味がありません。本機にログインするたびに、**【初期設定】**キーを押して［ネットワーク］の［1.IPアドレス］で、本機に割り当てられたIPアドレスを確認して、アドレス欄に入力します。なお、DHCP環境であっても、本機のIPアドレスは静的に割り当てることをお奨めします。その場合も、［ネットワーク］の［6.ネットワークブート］は「DHCP」を選択し、［1.IPアドレス］は自動取得させるように設定します。
画面を押しても画面が変わらない、反応しない。	• 本機の画面はタッチパネルではありません。画面の位置に対応したファンクションキーを押してください。⇒ P.16 「画面に表示されるキーなどの選びかた」

本機で操作している途中で、設定がクリアされる。	• 本機の操作をしてから一定時間たつと、入力したものがクリアされるように設定されています。［オートクリア時間］を長くするか、「しない」にしてください。⇒ P.38 「オートクリア時間」
“1文書最大サイズを超えました。読み取りを中止して画像データを破棄します”が表示された。	1枚目の原稿の読み取りができませんでした。 • 読取条件の［原稿種類］を見直してください。白黒原稿に対して「フルカラー」が設定されていませんか。また、グラフにのみカラーが使われている原稿であれば「白黒2値：文字・写真」で充分です。 • 読取条件の［解像度］を見直してください。必要以上に高解像度が指定されている場合は、解像度を下げてください。一般に、文字の読み取りであれば100dpi～200dpiで充分です。 • ［原稿種類］が「白黒2値：文字」、「白黒2値：文字・写真」、「白黒2値：写真」のときは、設定の［スキャナー］の［圧縮設定（2値）］を「する」、「白黒：グレースケール：、「カラー：フルカラー」のときは［圧縮設定（多値）］の画質を、圧縮率が高くなるように変更してください。 • メール送信時はWebステータスモニターの［設定］-［メール］の［送信メールサイズ制限］、Ridoc配信時はWebステータスモニターの［設定］-［配信］の［1文書最大サイズ制限］、ファイル送信（SMB/FTP）時はWebステータスモニターの［設定］-［ファイル送信］の［1文書最大サイズ制限］を大きくします。
“1文書最大サイズを超えました。送信：読取り済みのデータを送信します。破棄：画像データを破棄します”のメッセージが表示された。	2枚目以降の原稿の読み取りができませんでした。 • ［送信］を選択すると、読み取りを終了した原稿のデータを送信されます。⇔マークが消えてから、もう一度、**【スタート】**キーを押して、残りの原稿を読み取ります。 • ［破棄］を選択した場合は、送信されません。読取条件や圧縮方法を変更して1回で送信できるようにするか、原稿を分割して再送信してください。
（任意ファイル送信入力時、）“ログインユーザー名の値が不適切です。正しい値を設定してください”と、Webブラウザーに表示された。	• ［ログインユーザー名］がxx¥xxの形式で入力されていないときのメッセージです。［ログインユーザー名］は、「ワークグループ名¥ユーザー名」（ドメインに所属している場合は「ドメイン名¥ユーザー名」）の形式で入力します。 （例） ワークグループ名：abcd ユーザー名：aoki →　abc¥aoki
“ファイル送信パスに接続できません。設定を確認してください”と、Webブラウザーに表示された。	• ［ファイル送信パス］、［ログインユーザー名］、［ログインパスワード］のいずれかに入力ミスがあります。 • Windows 95/98/98 SE/Meの共有フォルダーでアクセスにパスワードが必要なフォルダーに送信する場合、［ログインパスワード］にはそのパスワードを入力します。それ以外の場合は、［ログインユーザー名］に対応するパスワードを入力します。 • Windows 2000/XP、Windows NT 4.0でアクセス権が設定された共有フォルダーに送信する場合、そのOSのユーザー管理で設定されたユーザー名とパスワードを、［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］に入力します。 • 小文字/大文字、半角/全角の別に注意して入力します。

“サーバーと通信できません。サーバーの動作状況や接続を確認してください”と表示された。	• ファイル（SMB）送信の指定を行ったときは、指定したWindows共有フォルダーがあるコンピューターの電源が遮断されていないか確認してください。 • Ridoc配信時は、Ridoc Document Router/Pro/Ltがインストールされているコンピューター（配信サーバー）の電源が遮断されていないか確認してください。 • ［任意ファイル送信入力］でファイル送信したときは、Webブラウザーの［戻る］ボタンをクリックして、［ログインパスワード］を入力し［テスト］ボタンをクリックしてみてください。“ファイル送信パスに接続できません。設定を確認してください”と表示された場合は、［ファイル送信パス］が間違っています。なお、［任意ファイル送信入力］では、［テスト］ボタンで指定したファイル送信パスに接続できるか確認してから、ファイル送信してください。
“画像の送信に失敗しました。もう一度同じ設定で読み取って送信してください”と表示された。	• ネットワーク通信異常のために、画像データの送信に失敗しました。ネットワークケーブルがきちんと接続されているか確認して、もう一度同じ設定で読み取り、送信しなおしてください。 • ［任意ファイル送信入力］でファイル送信したときは、Webブラウザーの［戻る］ボタンをクリックして、［ログインパスワード］を入力し［テスト］ボタンをクリックしてみてください。“ファイル送信パスに接続できません。設定を確認してください”と表示された場合は、［ログインユーザー名］や［ログインパスワード］が間違っています。なお、［任意ファイル送信入力］では、［テスト］ボタンで指定したファイル送信パスに接続できるか確認してから、ファイル送信してください。
Webブラウザーで設定した読取条件がIPSiOSCAN BOXに反映されない。	• Webブラウザーを使って読取条件を変更する場合、［OK］ボタンをクリックした後、IPSiOSCAN BOX本体側の**【リセット】**キーを押してください。「読取条件」設定の内容は、本体側**【リセット】**キーで即時有効となります。
無線LANカードでインフラストラクチャーモード時の電波状態の目安は？	IPSiOSCAN BOXの**【初期設定】**キー -［ネットワーク］の［11.電波状態］またはWebステータスモニターの［設定］-［TCP/IP］の［電波状態］には、電波の強さが%で表示されます。電波の強さの目安は以下のようになります。 • 100～76%：最良 • 75～41%：良 • 40～21%：不良 • 20～0%：通信不可 ただし、電波が強い環境であっても、ノイズなどの影響で通信できなかったり、通信不良となることがありますのでご留意ください。

無線LANの設定をする

別売の「拡張無線LANボードタイプBⅡ」を使用する場合のネットワーク関連の設定方法を説明します。

操作の前に

事前に、クロスネットワークケーブルを1本、ご用意ください。なお、ハブ（HUB）などのネットワーク機器が利用できる場合は、ストレートネットワークケーブルをご用意ください。

無線LANを使うための設定の概要

無線LANカードの設定は、Webステータスモニターの［設定］-［TCP/IP］で設定します。このため、Web ステータスモニターにログインするための準備が必要になります。

Webステータスモニターにログインするための準備をします。
本機とPCを一時的にネットワークケーブル接続します。 本機の設定例： IPアドレス：192.168.1.2 サブネットマスク： 255.255.255.0 PCの設定例： IPアドレス：192.168.1.3 サブネットマスク： 255.255.255.0

↓

Webステータスモニターで、ご利用の無線LANネットワーク環境を設定します。

無線LANを使うための設定手順

操作の前に

設定を行う前に、スキャナーを接続してスキャナーの電源をオンにしてください。スキャナー未接続時は設定できません。

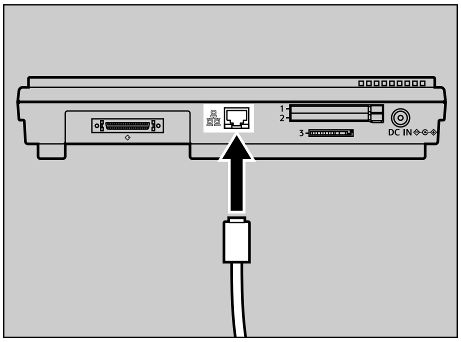
本機とPCは、10BASE-Tまたは100BASE-TXのクロスネットワークケーブルを使って接続してください。ハブ（HUB）などのネットワーク機器が利用できる場合は、10BASE-T または 100BASE-TX のストレートネットワークケーブルをご利用ください。

設定作業に使用するPCのネットワーク設定情報を変更します。作業完了後にPCのネットワーク設定を元に戻すために必要な情報を控えてください。

1 **PCと本機を接続します。**

クロスネットワークケーブルを使用する場合

❶ **本機のネットワーク用インターフェースにクロスネットワークケーブルを接続します。**

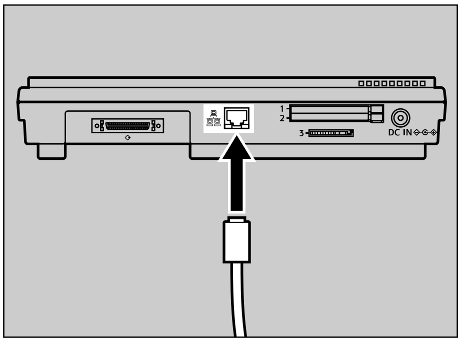


ZKJH060J

❷ **クロスネットワークケーブルのもう片方のコネクターを、PCのネットワークインターフェースに接続します。**

ハブが利用できる場合

❶ **本機のネットワーク用インターフェースにストレートネットワークケーブルを接続します。**



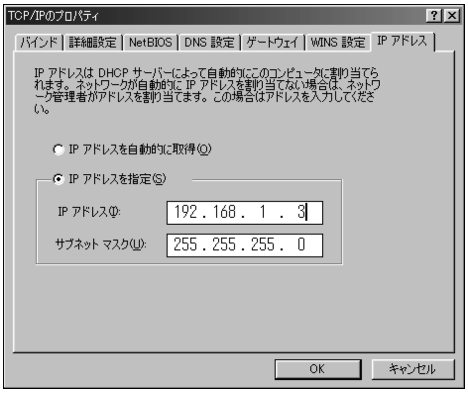
ZKJH060J

❷ **ストレートネットワークケーブルのもう一方のコネクターを、ハブなどのネットワーク機器に接続します。**

❸ **PC が ❷ のネットワーク機器にケーブル接続されていることを確認します。**

接続されていない場合は、10BASE-T または 100BASE-TX のストレートネットワークケーブルを使って接続してください。

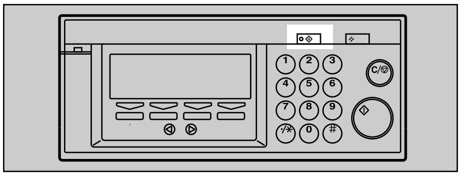
2 PCのIPアドレスを192.168.1.3、サブネットマスクを255.255.255.0に変更します。



3 PCを再起動します。

PC の IP アドレスが 192.168.1.3 に変更されます。

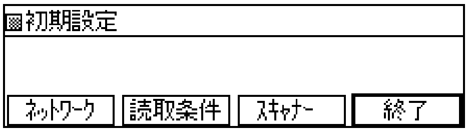
4 本機の【初期設定】キーを押します。



ZKJS020J

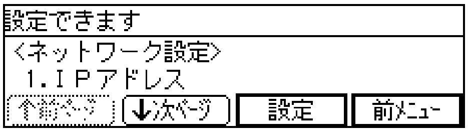
初期設定画面が表示されます。

5 ［ネットワーク］を押します。



ネットワーク設定の項目選択画面「1.IPアドレス」が表示されます。

6 ［設定］を押します。



「1.IPアドレス」入力画面が表示されます。

7 テンキーを使って「192.168.1.2」を入力します。



補足

- ❒ 数値は、3桁ずつ入力します。
- ❒ 3桁入力したら、【#】キーまたは【▷】キーを押します。次の 3 桁が入力できる状態になります。
- ❒ 間違えたときは **【クリア/ストップ】** キーを押します。入力した 3 桁の数値がクリアされますので、正しい数値を入力し直してください。

8 ［確定］を押します。

6の画面が表示されます。

9 ［↓次ページ］を押します。

ネットワーク設定の項目選択画面「2. サブネットマスク」が表示されます。

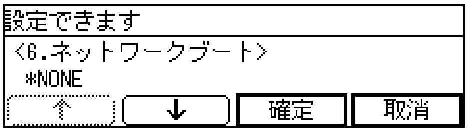
10 **6～9と同様の手順で、［サブネットマスク］に255.255.255.0を設定します。**

ネットワーク設定の項目選択画面「3.デフォルトゲートウェイアドレス」が表示されます。

11 **［↓次ページ］を3回押し、［設定］を押します。**

「6. ネットワークブート」入力画面が表示されます。

12 **ネットワークブートが「NONE」になっていることを確認して、［取消］を押します。**



補足

- ❒ 現在、設定されている値には、＊が付いています。
- ❒ 設定が異なる場合は、上記の値を表示させた状態で［確定］を押します。

13 **11～12と同様の手順で、［9.通信速度］が「自動設定」、［10.I/Fの切り替え］が「Ethernet」になっていることを確認します。**

14 **［前メニュー］を押し、［終了］を押します。**

初期設定を終了し、電源投入時の待機画面に戻ります。

重要

- ❒ 電源投入時の待機画面に戻るまでは、本機の電源を切らないでください。変更した設定が反映されずに、すべて工場出荷時の設定に戻ることがあります。

15 **本機のPCカードスロットに、無線LANカードを挿入します。**

16 **PCのWebブラウザーを起動します。**

17 **Webブラウザーの URL欄に「http://192.168.1.2/」を入力します。**

Webステータスモニターが起動します。



参照

Webステータスモニターについては⇒P.50「IPSiOSCAN BOXにアクセスする」を参照してください。

18 **メインメニューから［設定］をクリックします。**

パスワード入力ダイアログボックスが表示されます。

補足

- ❒ 一度設定をクリックしてパスワードを入力していれば、2 回目からはパスワード入力ダイアログボックスは表示されません。その場合は20に進んでください。

19 **ユーザー名に「ricoh」を入力し、パスワードを入力し、［OK］をクリックします。**

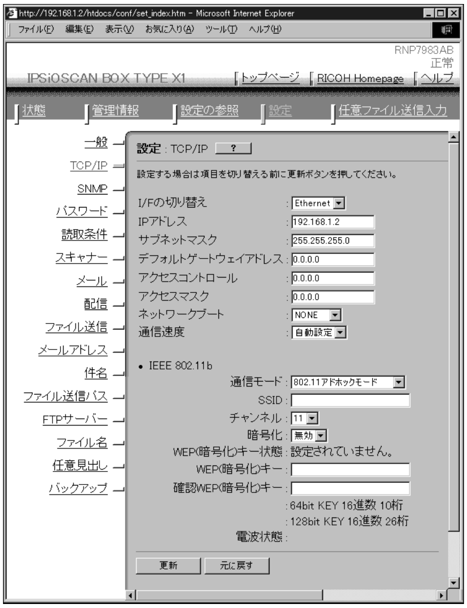
補足

- ❒ ユーザー名は「ricoh」（半角小文字）に固定です。
- ❒ パスワードは、工場出荷時に「ricoh」に設定されています。［設定］-［パスワード］で変更可能です。

設定画面が表示されます。

20 **サブメニューの［TCP/IP］をクリックします。**

21 各項目を設定します。



参照

⇒ P.33 「［ネットワーク］の設定項目」

❖ I/Fの切り替え

無線LANカードを有効にするには「IEEE 802.11b」に設定します。

❖ ネットワークブート

- NONE
  固定 IP アドレスの場合に選択します。「NONE」を選択したときは、［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［デフォルトゲートウェイアドレス］も設定します。
- DHCP
  DHCP 環境の場合に選択します。［IPアドレス］、［サブネットマスク］、［デフォルトゲートウェイアドレス］はDHCPサーバーから取得するため、入力しないでください。

❖ 通信モード

- インフラストラクチャーモード
  ワイヤレスルーター（アクセスポイント）を介して有線ネットワークと無線ネットワークを統合し、ひとつのネットワークを構成するモードです。無線LAN を構成するすべてのパソコンや本機、ワイヤレスルーター等を識別するために、同一ネットワーク内の機器に同じ［SSID］（ESS-ID）を設定します。

補足

❒ インフラストラクチャーモードの場合、更新後、電波の強さが［電波状態］欄に%で表示されます。

- アドホックモード
  ワイヤレスルーター（アクセスポイント）を介さずにネットワークを構成するモードです。無線LAN カードを装着した機器のみのネットワークで、1 〜 14 チャンネルの任意の同じ［チャンネル］（周波数帯）を設定して通信します。
- 802.11b アドホックモード
  アドホックモードの一種ですが、［チャンネル］のほかに［SSID］(ESS-ID）も設定します。

❖ 暗号化

通信データを暗号化するかしないかを設定します。「有効」に設定した場合は、暗号化に用いる秘密キーを［WEP（暗号化）キー］欄と［確認WEP（暗号化）キー］欄に入力します。秘密キーは16進数（半角の0〜9、半角a〜fまたは半角A〜F）で入力します。

22 ［更新ボタン］をクリックします。

設定した値が本機に書き込まれます。

23 1で接続したケーブル類を外します。

24 PCのネットワーク設定を元に戻します。

25 本機の電源をOFF/ONして再起動させます。

補足

❒ I/Fの切り替えを行ったときと、ネットワークブートをDHCP に変更したときは、設定内容を反映させるために必ず本機を再起動させてください。

8

連結スキャナーのカウンターや消耗品の交換時期を調べる

本機の操作画面を使って、連結スキャナーの読取カウンターを調べたり、IS220DC/225DCのADFパッドやピックローラーといった消耗品の交換時期の管理ができます。

制限

- ❒ 連結スキャナーが IS220DC/225DC 以外のときは、ADFパッドカウンターやピックローラーカウンターは灰色表示され、機能しません。
- ❒ カウントの方法の詳細は、連結スキャナーによって異なります。各カウンター値は、読取枚数等の目安としてお使いください。

カウンター項目について

❖ 読取枚数

連結されたスキャナーの総読取枚数を表示します。ADF/原稿ガラス別に表示します。

補足

- ❒ 両面原稿を1枚読み取った場合、連結スキャナーが同時両面読取のときは 1 枚とカウントされますが、反転両面読取の場合は2枚としてカウントされます。

❖ 読取ページ数

連結されたスキャナーの総読取ページ数を表示します。ADF/ 原稿ガラス別に表示します。

補足

- ❒ 両面読取機能があるスキャナーでは、1 枚の原稿の両面を読み取った場合は、原則、2ページとしてカウントされますが、連結スキャナーによっては 1 ページとカウントされるものがあります。

❖ ADFパッドカウンター

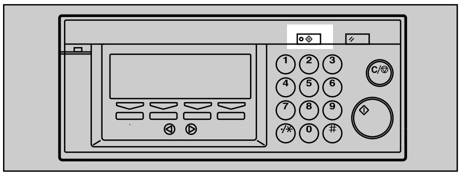
IS220DC/225DC の ADF パッドの交換時期の目安用カウンターです。［クリア］を押すとカウンター値が0になりますので、ADFパッドを交換したときに［クリア］を押して、ADFパッド交換後のカウンター値（ADF読取枚数）がわかるようにします。

❖ ピックローラーカウンター

IS220DC/225DC のピックローラーの交換時期の目安用カウンターです。［クリア］を押すとカウンター値が0になりますので、ピックローラーを交換したときに［クリア］を押して、ピックローラー交換後のカウンター値（読取枚数）がわかるようにします。

カウンター表示・クリアの操作手順

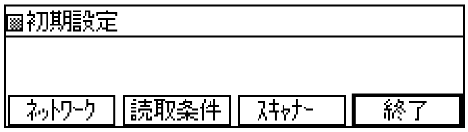
1 【初期設定】キーを押します。



ZKJS020J

初期設定画面が表示されます。

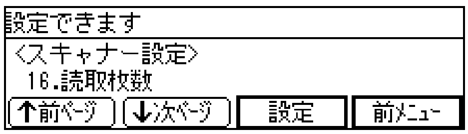
2 ［スキャナー］を押します。



スキャナー設定の項目選択画面「1. 送信/TWAIN優先設定」が表示されます。

3 ［↓次ページ］や［↑前ページ］を使って、「16.読取枚数」を表示させます。

4 ［設定］を押します。



5 表示されたカウンターを確認したら、［取消］を押します。



4のスキャナー設定の項目選択画面「16. 読取枚数」に戻ります。

6 ［↓次ページ］を押します。

スキャナー設定の項目選択画面「17. 読取ページ数」が表示されます。

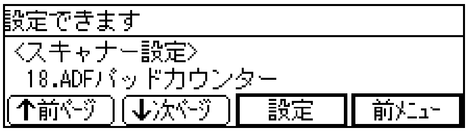
7 4～6と同様にして、読取ページ数を確認します。

スキャナー設定の項目選択画面「18.ADFパッドカウンター」画面になります。

補足

❒ 連結スキャナーがIS220DC/225DC以外の場合は、12に進んでください。

8 ［設定］を押します。



パッド交換後のカウンターが表示されます。

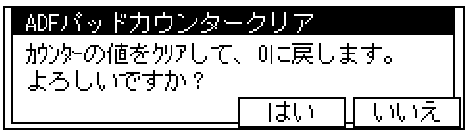
ADFパッドを交換したとき

❶［クリア］を押します。



クリア確認画面が表示されます。

❷［はい］を押します。



ADFパッドカウンターが0になり、❶の画面に戻ります。

補足

❒ 交換していないときは、［いいえ］を押します。

9 ［取消］を押します。

8のスキャナー設定の項目選択画面「18.ADFパッドカウンター」に戻ります。

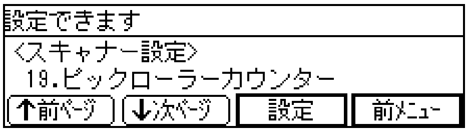
10 ［↓次ページ］を押します。

スキャナー設定の項目選択画面「19. ピックローラーカウンター」が表示されます。

11 8～9と同様にして、ピックローラーカウンターを確認またはクリアします。

10 のスキャナー設定の項目選択画面「19. ピックローラーカウンター」に戻ります。

12 ［前メニュー］を押します。



2の初期設定画面に戻ります。

補足

❒ ［↓次ページ］を押して「20.FIRMWARE」を表示させて、［設定］を押すと、本機内蔵のROMのバージョンが表示されます。バージョンを確認したら［取消］で戻ってください。

13 ［終了］を押します。

初期設定を終了し、電源投入時の待機画面に戻ります。

8

メールアドレス一括登録/書き出し時のフォーマット

登録エントリー情報

メール送信時に、あて先のTo:およびCc:に表示されるメールアドレスの情報が書き込まれたCSVファイルです。

登録エントリー情報ファイル例

1行目	#登録エントリ情報
2行目	#Format Version:3.1.1.0
3行目	#取得日時:12/09/2003　12:00:58
4行目	#機器名:RNP6219DA
5行目	#アドレス:192.168.1.15
6行目	#登録番号,種別,名前,表示名,常用,見出し1,見出し2,見出し3,E-mail,送信者,パスワード,ユーザーコード,所属グループ
7行目	[00001],[A],[ishihara],[石原],[1],[1],[7],[3],[ishihara@abcd.com],[1],[],[],[]
8行目	[00015],[A],[suzuki],[鈴木],[1],[1],[7],[3],[suzuki@xyz.co.jp],[1],[TIzMDQ==],[],[]

補足

- 1〜6行目は認識用の固定行です。一括登録時は、まず書き出しを行って、これらの情報を取得することをお奨めします。書き出し時のデフォルトファイル名は"(識別名)_addr.csv"(例:RNP6219DA_addr.csv)です。
- 登録する情報は7行目以降に、各項目をカンマで区切って記入します。
- 各項目は[ ]で囲んでください。

8

❖ 登録番号

Webステータスモニターの[設定]-[メールアドレス]の[登録番号]に相当する項目です。半角数字00001〜50000で、重複しないように設定してください。

❖ 種別

メールアドレスの種別ですが、本システムでは「A」(ユーザー)に固定です。

❖ 名前

Webステータスモニターの[設定]-[メールアドレス]の[名前]に相当する項目です。半角で20文字(全角で10文字)まで設定できます。

❖ 表示名

本機の操作画面に表示される名前です。半角で13文字(全角で6文字)まで設定できます。

❖ 常用

常用見出しに表示するときは「1」、表示しないときは「0」を設定します。

❖ 見出し1、見出し2、見出し3

各見出しの先頭から何番目の所属見出し(常用を除く)に所属するかを1〜10の数字で表します。各見出しの所属見出しについては、機器タグ情報を参照してください。
例えば、見出し2が「常用」、「ABC」、「DEF」、「GHI」…の順に並んでいるときに、見出し2が「3」となっているユーザーは、「GHI」の所属見出しに所属します。

❖ E-mail

電子メールアドレスです。

❖ **送信者**
送信者として登録する場合は「1」、登録しない場合は「0」を設定します。

❖ **パスワード**
送信者として登録したときに、［パスワード保護］を「する」にした場合の保護パスワードで、暗号化されて表示されています。

補足
❒ パスワード保護をしたいユーザーを一括登録用にCSVファイルで加工するときは、パスワードをnullにして一括登録し、Webステータスモニターの［設定］-［メールアドレス］の［変更］で保護パスワードを設定してください。

❖ **ユーザーコード**
本システムでは使用しません。

❖ **所属グループ**
本システムでは使用しません。

機器タグ情報

メール/ファイル送信時のあて先の見出し情報のCSVファイルです。

補足
❒ 機器タグ情報ファイルの［取り込み］はできません。登録エントリー情報ファイルを表計算ソフトやテキストエディターで作成するときの参照用です。

CSVファイル例

1行目	#機器タグ情報
2行目	#取得日時:12/09/2003 12:01:32
3行目	#機器名:RNP6219DA
4行目	#アドレス:192.168.1.15
5行目	#常用見出し登録,しない=0,する=1,
6行目	見出し１登録,あ=1,か=2,さ=3,た=4,な=5,は=6,ま=7,や=8,ら=9,わ=10,
7行目	見出し２登録,ABC=1,DEF=2,GHI=3,JKL=4,MNO=5,PQRS=6,TUV=7,WXYZ=8,
8行目	見出し３登録,1=1,2=2,3=3,4=4,5=5,

補足
❒ 1〜5行目は認識用の固定行です。
❒ 書き出し時のデフォルトファイル名は“（識別名）_taginfo.csv”（例：RNP6219DA_taginfo.csv）です。

❖ **6行目（見出し1登録）**
「かな」見出しの所属見出しです。

❖ **7行目（見出し2登録）**
「英数」見出しの所属見出しです。

❖ **8行目（見出し3登録）**
「任意見出し」の所属見出しです。

仕様

形式		外付けボックスタイプ
インターフェース	画像入力	SCSI2インターフェース × 1 （50ピンハーフピッチ・メス）
	画像出力	Ethernetインターフェース × 1 （10BASE-Tまたは100BASE-TX）
	機能拡張	PCカードTypeⅡインターフェース × 2 SDカード用インターフェース × 1
操作部	表示部	240×64ドット STN液晶（４行白黒表示）
	操作キー	10キー、4選択、2方向、スタート、クリア/ストップ、初期設定、リセット、#、＊
	表示言語	日本語（漢字）
ウォームアップタイム		最大35秒
メモリー		RAM：128MB
自己診断機能		あり（ハングアップ時の電源オフ/オン復帰）
主なスキャナー支援機能		ネットワークTWAINドライバー対応 Scan to E-mail機能 Scan to SMB機能 Scan to FTP機能 Ridoc配信対応機能
耐久性		5年間
使用環境		10～35℃、20～85％RH
電源		AC100V±10%、50/60Hz±3Hz
消費電力		8W以下（オプション非装着時）
大きさ		幅290mm/奥行き120mm/高60mm（ゴム足含む）
重量		本体：1kg以下

電波障害について

他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。

- テレビやラジオなどからできるだけ離す。
- テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。
- コンセントを別にする。

電波障害自主規制について
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

GPL/LGPL適用ソフトウェアについて

本製品に含まれるソフトウェアは、GPL/LGPL適用ソフトウエアを使用しております。

本製品をご利用、ご購入のお客様には、対象ソフトウエアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があります。本製品で使用している GPL/LGPL 適用ソースコードの入手をご希望されるお客様は、http://www.ricoh.com/support/linux/ にアクセスしてください。

BSDライセンス適用ソフトウェアについて

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

The Apache Software License 適用ソフトウェアについて

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/).

The Apache Software License, Version 1.1

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The end-user documentation included with the redistribution, if any, must include the following acknowledgment:

   "This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/)."

   Alternately, this acknowledgment may appear in the software itself, if and wherever such third-party acknowledgments normally appear.
4. The names "Apache" and "Apache Software Foundation" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact apache@apache.org.
5. Products derived from this software may not be called "Apache", nor may "Apache" appear in their name, without prior written permission of the Apache Software Foundation.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

JPEGソフトウェアについて

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

In plain English:

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.
3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:

8

(1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.

(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".

(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

ansi2knr.c is included in this distribution by permission of L. Peter Deutsch, sole proprietor of its copyright holder, Aladdin Enterprises of Menlo Park, CA. ansi2knr.c is NOT covered by the above copyright and conditions, but instead by the usual distribution terms of the Free Software Foundation; principally, that you must include source code if you redistribute it. (See the file ansi2knr.c for full details.) However, since ansi2knr.c is not needed as part of any program generated from the IJG code, this does not limit you more than the foregoing paragraphs do.

The Unix configuration script "configure" was produced with GNU Autoconf. It is copyright by the Free Software Foundation but is freely distributable. The same holds for its supporting scripts (config. guess, config. sub, ltconfig, ltmain. sh). Another support script, install-sh, is copyright by M. I. T. but is also freely distributable.

It appears that the arithmetic coding option of the JPEG spec is covered by patents owned by IBM, AT&T, and Mitsubishi. Hence arithmetic coding cannot legally be used without obtaining one or more licenses. For this reason, support for arithmetic coding has been removed from the free JPEG software. (Since arithmetic coding provides only a marginal gain over the unpatented Huffman mode, it is unlikely that very many implementations will support it.) So far as we are aware, there are no patent restrictions on the remaining code.

The IJG distribution formerly included code to read and write GIF files. To avoid entanglement with the Unisys LZW patent, GIF reading support has been removed altogether, and the GIF writer has been simplified to produce "uncompressed GIFs". This technique does not use the LZW algorithm; the resulting GIF files are larger than usual, but are readable by all standard GIF decoders.

We are required to state that

> "The Graphics Interchange Format(c) is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated. "

TIFFソフトウェアについて

8

Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler

Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that (i) the above copyright notices and this permission notice appear in all copies of the software and related documentation, and (ii) the names of Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or publicity relating to the software without the specific, prior written permission of Sam Leffler and Silicon Graphics.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

UCD-SNMPソフトウェアについて

-- Part 1: CMU/UCD copyright notice: (BSD like) --

Copyright 1989, 1991, 1992 by Carnegie Mellon University

Derivative Work - 1996, 1998-2000

Copyright 1996, 1998-2000 The Regents of the University of California

All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of CMU and The Regents of the University of California not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific written permission.

CMU AND THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA DISCLAIM ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL CMU OR THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

-- Part 2: Networks Associates Technology, Inc copyright notice (BSD) --

Copyright (c) 2001, Networks Associates Technology, Inc

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the NAI Labs nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-- Part 3: Cambridge Broadband Ltd. copyright notice (BSD) --

Portions of this code are copyright (c) 2001, Cambridge Broadband Ltd..

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- The name of Cambridge Broadband Ltd. may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

MD5ソフトウェア使用許諾文について

Copyright (C) 1991-2, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing this software or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as "derived from the RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

索引

アルファベット索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

商標

- Adobe、AcrobatはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標です。
- MS®、Microsoft®、Windows®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

* Windows® 95の製品名は、Microsoft® Windows® 95です。
* Windows® 98の製品名は、Microsoft® Windows® 98です。
* Windows® Meの製品名は、Microsoft® Windows® Millennium Edition（Windows Me）です。
* Windows® 2000の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® 2000 Professional
  Microsoft® Windows® 2000 Server
* Windows® XPの製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® XP Home Edition
  Microsoft® Windows® XP Professional
* Windows Server™ 2003の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition
  Microsoft® Windows Server™ 2003 Enterprise Edition
  Microsoft® Windows Server™ 2003 Web Edition
* Windows NT® 4.0の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows NT® Server 4.0
  Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0

重要

❒ 本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
❒ 本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

おことわり

1. 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本製品（ハードウェア、ソフトウェア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

株式会社リコー
東京都港区南青山1-15-5 リコービル 〒107-8544
（03）3479-3111（代表）

IPSiO SCAN BOX TYPE X1 使用説明書

お問い合わせ先

お買い上げいただきました弊社製品についての消耗品のご注文はお買い上げの販売店にご連絡ください。
故障・保守サービスのお問い合わせは最寄りのサービス実施店にご連絡ください。
転居の際は、販売店またはサービス実施店にご連絡ください。転居先の最寄りの販売店、サービス実施店をご紹介いたします。

リコープリンターコールセンター

製品の操作方法に関するお問い合わせは、
「リコープリンターコールセンター IPSiO（イプシオ）ダイヤル」にご連絡ください。

0120 FreeDial **0120-56-1240**（コールはイプシオ）

● 受付時間：9〜12時、13〜17時（土、日、祝日、リコーの休業日を除く）

最新スキャナードライバーおよびユーティリティ情報

最新版のスキャナードライバーをインターネットのリコーホームページから入手できます。
● インターネット/リコーホームページ：http://www.ricoh.co.jp/

リコーは環境保全を経営の優先課題のひとつと考え、リサイクル推進にも注力しております。本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

この説明書はエコマーク商品に認定された再生紙を使用し、リサイクルに配慮し製本しています。この説明書が不要になったときは、資源回収、リサイクルに出しましょう。

Printed in Japan
2003年7月 G374-8501